

2016/9/1修正版

多摩大学大学院

講義要項／シラバス

2016年度

科目新旧対照表

MBAコース

分野	2016年度	2015年度	担当教員	開講	単位数	備考
		スーパージェネラリスト				2015年度で科目廃止
実践知考具	スーパージェネラリスト論		田坂 広志	春	2	2016年度新設
		ソーシャル・イノベーション				2015年度で科目廃止
実践知考具	ソーシャル・イノベーション論		田坂 広志	春	2	2016年度新設
		ソーシャル・アントレプレナー				2015年度で科目廃止
実践知考具	ソーシャル・アントレプレナー論		田坂 広志	秋	2	2016年度新設
		ネオ・リベラルアーツ				2015年度で科目廃止
実践知考具	ネオ・リベラルアーツ論		田坂 広志	秋	2	2016年度新設
実践知考具	比較文化論	比較文化論	歌川 令三	春	2	変更なし
		Japanese Cosmopolitans in the 21th Century				2015年度で科目廃止
実践知考具	知識創造経営のフリンシプル	知識創造経営のフリンシプル	紺野 登	春	2	変更なし
実践知考具	シナリオプランニングワークショップ	シナリオプランニングワークショップ	紺野 登	春	2	変更なし
実践知考具	イノベーションと目的工学	イノベーションと目的工学	紺野 登	秋	2	変更なし
実践知考具	デザイン思考ワークショップ	デザイン思考ワークショップ	紺野 登	秋	2	変更なし
実践知考具	ビジネスモデルイノベーション	ビジネスモデルイノベーション	河野 龍太	春	2	変更なし
実践知考具	実践アントレプレナーシップ	実践アントレプレナーシップ	本荘 修二	春	2	変更なし
実践知考具	経営戦略概論	経営戦略概論	前川 慶一	秋	2	変更なし
		Webマーケティング・イノベーション				2015年度で科目廃止
実践知考具	先端ITマーケティングイノベーション		橋本 大也		2	2016年度新設、2016年度開講せず
		知識社会の経済学				2015年度で科目廃止
実践知考具	ITビジネス原理と先端戦略		金野 素一	秋	2	2016年度新設
		グローバル技術経営論				2015年度で科目廃止
実践知考具	マーケティングマネジメント概論	マーケティングマネジメント概論	河野 龍太	春秋	2	変更なし
実践知考具	ビジネスモデル創造特論		河野 龍太	秋	2	2016年度新設
実践知考具	インサイトコミュニケーション	インサイトコミュニケーション	久恒 啓一	春	2	変更なし
		デジタル時代のマーケティング戦略				2015年度で科目廃止
実践知考具	Webマーケティング戦略	Webマーケティング戦略	土屋 有	春	2	変更なし
		ブランドマネジメント戦略				2015年度で科目廃止
		SCM概論				2015年度で科目廃止
実践知考具	プレミアム価値創造のマーケティング戦略	プレミアム価値創造のマーケティング戦略	吉松 敏也		2	変更なし。2016年度開講せず
実践知考具	戦略PRマーケティング	戦略PRマーケティング	久保山 路子	秋	2	変更なし
実践知考具	モビリティ・マーケティング	モビリティ・マーケティング	加藤 肇	春	2	分野変更
実践知考具	ビジネスデータ分析と戦略策定	ビジネスデータ分析と戦略策定	栗山 実	秋	2	変更なし
実践知考具	サービスイノベーション	サービスイノベーション	諏訪 良武		2	分野変更。2016年度開講せず
実践知考具	日本の流通構造とSCMのメカニズム	日本の流通構造とSCMのメカニズム	西田 邦生	秋	2	変更なし
実践知考具	最新ロジスティクス戦略	最新ロジスティクス戦略	角井 亮一	春	2	分野変更
実践知考具	ヒューマンリソース概論 I	ヒューマンリソース概論 I	徳岡 晃一郎	春	2	変更なし
実践知考具	ヒューマンリソース概論 II	ヒューマンリソース概論 II	徳岡 晃一郎	秋	2	変更なし
実践知考具	インナーコミュニケーション	インナーコミュニケーション	徳岡 晃一郎	春	2	変更なし
実践知考具	カルチャーベースマネジメント	カルチャーベースマネジメント	徳岡 晃一郎	秋	2	変更なし
実践知考具	ストレスマネジメントと精神回復力	ストレスマネジメントと精神回復力	水木 さとみ	春	2	変更なし
実践知考具	実践組織変革	実践組織変革	浜田 正幸	秋	2	変更なし
実践知考具	組織行動とリーダーシップ	組織行動とリーダーシップ	須東 朋広	2	2	変更なし。2016年度開講せず
		ケースで学ぶ 人と組織を動かすリーダーを育てる				2015年度で科目廃止
実践知考具	ケーススタディ 組織を動かす変革型リーダーシップ論		迫川 史康	春	2	2016年度新設
		組織開発とコーチング				2015年度で科目廃止
		ファイナンス概論 I (経営財務) (CFP)				2015年度で科目廃止
実践知考具	ファイナンス基礎I(経営財務)【FP資格必修】		宇佐美 洋	春	2	2016年度新設
		ファイナンス概論 II (リスクマネジメント) (CFP)				2015年度で科目廃止
実践知考具	ファイナンス基礎II(リスクマネジメント)【FP資格必修】		宇佐美 洋	秋	2	2016年度新設
実践知考具	企業会計・簿記入門【FP資格必修】	企業会計・簿記入門(CFP)	井村 順子	秋	2	変更なし
実践知考具	企業分析と経営指標	企業分析と経営指標	大津 広一	春	2	変更なし
		行動経済学				2015年度で科目廃止
実践知考具	金融論		真壁 昭夫	春	2	2016年度新設
実践知考具	マネジリアル・アカウンティング		真壁 昭夫		2	2016年度新設、2016年度開講せず
実践知考具	M&A戦略と実践企業ファイナンス	M&A戦略と実践企業ファイナンス	中岡 英隆	春	2	変更なし
		実践ファイナンスリスクマネジメント(CFP)				2015年度で科目廃止
実践知考具	夢を叶える実践リスクマネジメント		樋渡 淳二	秋	2	2016年度新設
実践知考具	実践ファイナンス数学【FP資格必修】	実践ファイナンス数学(CFP)	小野里 光博	春	2	変更なし
実践知考具	ファイナンスイノベーション	ファイナンスイノベーション	伊藤 祐輔	春	2	分野変更
		法の経済分析(CFP)				2015年度で科目廃止
実践知考具	経営基礎のための法と経済学【FP資格必修】		宇佐美 洋	春	2	2016年度新設
		経営法務(CFP)				2015年度で科目廃止
実践知考具	経営法務とガバナンス【FP資格必修】		宇佐美 洋	秋	2	2016年度新設
実践知考具	実践オペレーションズリサーチ	実践オペレーションズリサーチ	中川 義之	春	2	変更なし
実践知考具	プロジェクトマネジメントの基本と応用	プロジェクトマネジメントの基本と応用	中分 毅	秋	2	変更なし
実践知考具	クリティカルシンキング	クリティカルシンキング	柏木 吉基	秋	2	変更なし
実践知考具		TOC,JIT,Druckerから導く成果追求マネジメント				2015年度で科目廃止
実践知考具	日本のモノづくり経営	日本のモノづくり経営	柿内 幸夫		2	変更なし。2016年度開講せず
実践知考具	MBAのためのビジネスデータ入門		今泉 忠	春	2	2016年度新設

MBAコース

分野	2016年度	2015年度	担当教員	開講	単位数	備考
最新ビジネス実践知	社会デザイン構想	社会デザイン構想	望月 照彦	春	2	変更なし
		コンテキストデザイン				2015年度で科目廃止
最新ビジネス実践知	実践事業創造	実践事業創造	亀井 省吾		2	変更なし。2016年度開講せず
最新ビジネス実践知	ベンチャー企業論	ベンチャー企業論	濱田 隆道	春	2	変更なし
		健康・高齢化ビジネス				2015年度で科目廃止
最新ビジネス実践知	医療介護領域の実践知を学ぶ		真野 俊樹	秋	2	2016年度新設
最新ビジネス実践知	地域・観光ビジネス戦略	地域・観光ビジネス戦略	丁野 朗	秋	2	変更なし
		ヘルスケア業界の将来を考える				2015年度で科目廃止
		医療介護産業の現状と将来				2015年度で科目廃止
最新ビジネス実践知	ヘルスケアと介護の現状と未来を考える		真野 俊樹	春	2	2016年度新設
		医療介護と最新のマネジメント				2015年度で科目廃止
最新ビジネス実践知	ヘルスケアと介護業界の最新のマネジメント		真野 俊樹	秋	2	2016年度新設
最新ビジネス実践知	高齢社会のまちづくり	高齢社会のまちづくり	川井 真	秋	2	変更なし
最新ビジネス実践知	医療介護経営と会計	医療介護経営と会計	長 英一郎	春	2	変更なし
最新ビジネス実践知	医療介護の成長戦略	医療介護の成長戦略	末松 清一		2	変更なし。2016年度開講せず
最新ビジネス実践知	知のグローバル共創	知のグローバル共創	佐藤 勝彦	秋	2	変更なし
		異文化コミュニケーション				2015年度で科目廃止
最新ビジネス実践知	Business Communication for Global Leaders		Mark Austin	春	2	2016年度新設
最新ビジネス実践知	世界潮流と企業戦略	世界潮流と企業戦略	金 美徳	春	2	変更なし
最新ビジネス実践知	日本企業の中国ビジネス	日本企業の中国ビジネス	徐 向東	春	2	変更なし
最新ビジネス実践知	中国経済と日本企業の戦略		巴特尔(バートル)	秋	2	2016年度新設
最新ビジネス実践知	Business in Globalized India-The Japan Perspective	Business in Globalized India-The Japan Perspecti	Aniruddha Mallik	秋	2	変更なし
最新ビジネス実践知	非営利法人のファイナンス		堀内 勉	秋	2	2016年度新設
		実践ソーシャルイノベーション演習				2015年度で科目廃止
最新ビジネス実践知	ソーシャルビジネス演習		田中 勇一		2	2016年度新設、2016年度開講せず
最新ビジネス実践知	トライセクターリーダー論	トライセクターリーダー論	金野 素一	春	2	変更なし
		社会起業家演習				2015年度で科目廃止
		次代を拓くソーシャルリーダーに学ぶ				2015年度で科目廃止
最新ビジネス実践知	次代を拓くソーシャルリーダーに学ぶ in 東北		宮城 治男	秋	2	2016年度新設
教養基盤	ビジネス実践知探究	ビジネス実践知探究	佐藤 勝彦	春	2	分野変更
教養基盤	問題解決学I		下井 直毅	春	2	2016年度新設
教養基盤	問題解決学II		下井 直毅	秋	2	2016年度新設
教養基盤	社会工学研究会(寺島実郎学長主宰インターゼミ)	社会工学研究会(寺島実郎学長主宰インターゼミ)	金 美徳	春秋	2	変更なし
教養基盤	フィールドスタディ		金 美徳	春秋	2	2016年度新設
教養基盤	研究実習	研究実習	各教員	休業期 開講	2	変更なし
教養基盤	論文演習 宇佐美洋【FP資格必修】	論文演習 宇佐美洋	宇佐美 洋	春秋	2	変更なし
教養基盤	論文演習 河野龍太	論文演習 河野龍太	河野 龍太	春秋	2	変更なし
教養基盤	論文演習 紺野登	論文演習 紺野登	紺野 登	春秋	2	変更なし
教養基盤	論文演習 田坂広志	論文演習 田坂広志	田坂 広志	春秋	2	変更なし
教養基盤	論文演習 徳岡晃一郎	論文演習 徳岡晃一郎	徳岡 晃一郎	春秋	2	変更なし
教養基盤	【留学生対象】論文演習 バートル	論文演習 バートル	巴特尔(バートル)	春秋	2	変更なし
		論文演習 松本忠雄				2015年度で科目廃止
教養基盤	論文演習 真野俊樹	論文演習 真野俊樹	真野 俊樹	春秋	2	変更なし
教養基盤	【留学生対象】留学生の為の日本経済・経営基礎		佐藤 勝彦	春秋	1	2016年度新設
教養基盤	【留学生対象】ビジネスジャパニーズI		王 媛	春	1	2016年度新設
教養基盤	【留学生対象】ビジネスジャパニーズII		王 媛	秋	1	2016年度新設

DSB(ビジネスデータサイエンスコース)

分野	2016年度	2015年度	担当教員	開講	単位数	備考
		[DSB]ビジネス分析リテラシー I				2015年度で科目廃止
		[DSB]ビジネスデータサイエンス実践 I				2015年度で科目廃止
		[DSB]ビジネスデータサイエンス実践II(マッピング)				2015年度で科目廃止
		[DSB]ビジネスデータサイエンス実践III(問題解決とデータ分析)				2015年度で科目廃止
		[DSB]ビジネスデータサイエンス実践IV				2015年度で科目廃止
ビジネスデータ活用力	[DSB]ビジネスデータ分析・活用(Standard)		豊田 裕貴	春	2	2016年度新設
ビジネスデータ活用力	[DSB]ビジネスデータ分析・活用(Advance)		豊田 裕貴	秋	2	2016年度新設
ビジネスデータ活用力	[DSB]ビジネスデータ活用(課題解決モデリング)		志賀 敏宏	秋	2	2016年度新設
ビジネスデータ活用力	[DSB]ビジネスデータ活用実践(先端事例)		佐藤 洋行	春	2	2016年度新設
ビジネスデータ活用力	[DSB]ビジネスデータ活用実践(事業提案)		佐藤 洋行	秋	2	2016年度新設
		[DSB]データマネジメントリテラシー I (DB)				2015年度で科目廃止
		[DSB]データマネジメントリテラシー II				2015年度で科目廃止
データマネジメント力	[DSB]ビジネスデータ活用入門(DB)		出原 至道	秋	2	2016年度新設
データマネジメント力	[DSB]ビジネスデータ活用実践(BI)		佐藤 洋/萩原 雅之	春	2	2016年度新設
		[DSB]データ分析スキル(R入門)				2015年度で科目廃止
		[DSB]データ分析リテラシー I (機械学習)				2015年度で科目廃止
		[DSB]データ分析リテラシー II (モデル分析)				2015年度で科目廃止
		[DSB]データ分析リテラシー III (統計学)				2015年度で科目廃止
データ分析力	[DSB]ビジネスデータ分析入門(統計ソフト活用)		久保田 貴文	春	2	2016年度新設
データ分析力	[DSB]ビジネスデータ分析(機械学習)		久保田 貴文	秋	2	2016年度新設
データ分析力	[DSB]ビジネスデータ分析(Standard)		今泉 忠	春	2	2016年度新設
データ分析力	[DSB]ビジネスデータ分析(Advance)		今泉 忠	秋	2	2016年度新設
		[DSB]集中ゼミI				2015年度で科目廃止
		[DSB]集中ゼミII				2015年度で科目廃止
演習	[DSB]集中ゼミ(統計検定)		今泉 忠	春	2	2016年度新設
演習	[DSB]DSBゼミ(データコンペティション)		今泉 忠/久保田 貴文	秋	2	2016年度新設
演習	[DSB]論文指導I	[DSB]論文指導I	今泉 忠/豊田 裕貴	春	2	変更なし
演習	[DSB]論文指導II	[DSB]論文指導II	久保田 貴文/豊田 裕貴	秋	2	変更なし

CFP®認定教育プログラムのご案内

多摩大学大学院 経営情報学研究科では特定非営利活動法人（NPO 法人）日本ファイナンシャル・プランナーズ協会の「CFP®認定教育プログラム」を実施しています。

本大学院のカリキュラムにて、「CFP®認定教育プログラム」に対応する所定の科目と論文演習ゼミを履修し、さらに「提案書課題」を作成し、それが協会に受理されれば、自動的に AFP 資格の認定を受けることができます。また、上級の国際資格である CFP®の受験資格も得ることも意味します。

※ CFP®資格とは、北米、アジア、ヨーロッパ、オセアニアを中心に世界 24 ヶ国・地域(2016年 1 月現在)で導入されている世界共通水準の資格で、高度な知識とスキルを持ち、専門家としての確固たる倫理と経験を備えた FP(Financial Planner)に与えられる資格です。

※ AFP(Affiliated Financial Planner)資格とは、専門家として必要な知識を持ち、顧客に対して適切なアドバイスを提供できる FP に与えられる資格で、日本 FP 協会が独自に認定しています。AFP 資格を取得することで、CFP®資格審査試験の受験資格が得られます。

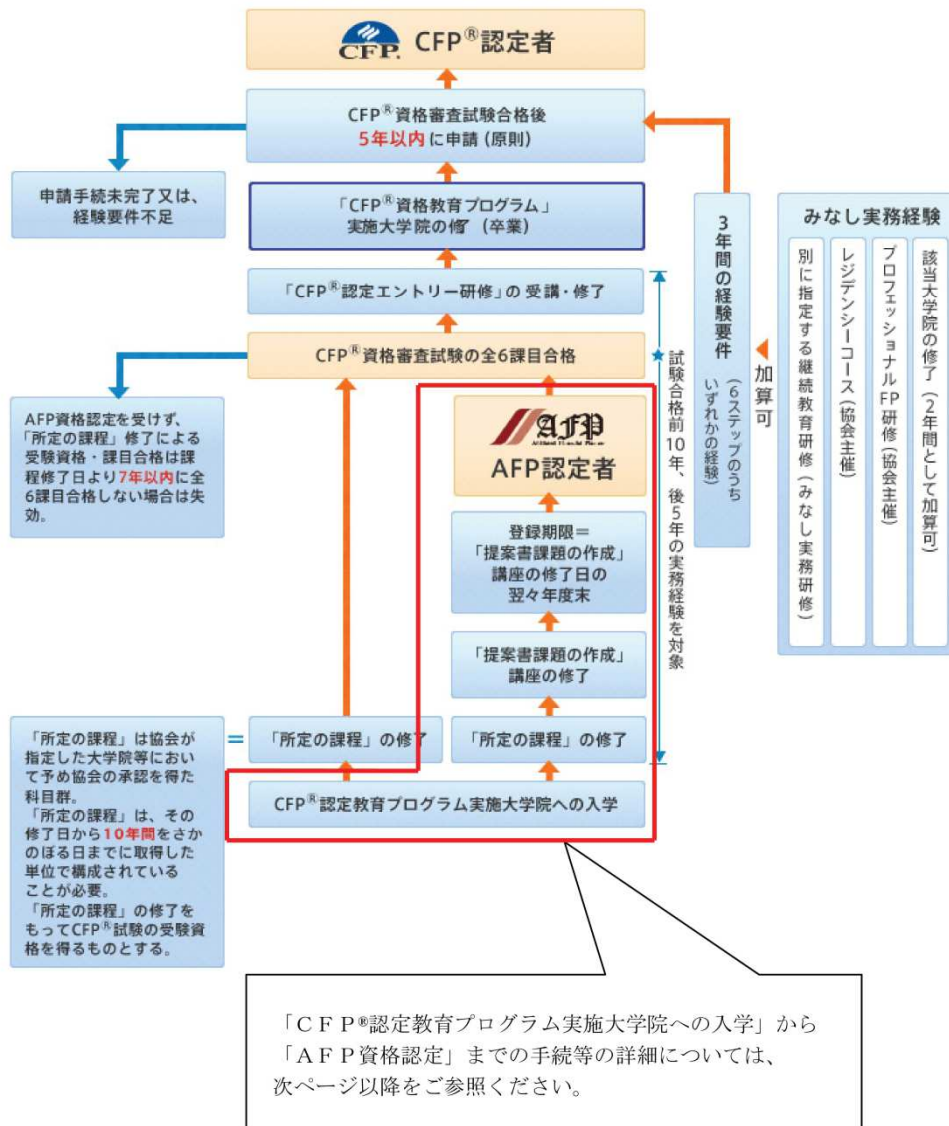
－ 多摩大学大学院 経営情報学研究科における所定の課程 －

下表左欄(1)～(6)に定める各分野に対応する科目修得の 12 単位以上、及び下表左欄(7)に定める演習等のうち 2 科目 4 単位以上の計 16 単位以上とする。

2016年度			
分野	科目名称	担当者	単位
(1)金融資産運用設計	実践ファイナンス数学	小野里光博	2
(2)不動産運用設計	経営基盤のための法と経済学	宇佐美 洋	2
(3)ライフスタイルプランニング・リタイアメントプランニング	ファイナンス基礎I(経営財務)	宇佐美 洋	2
(4)リスクと保険	ファイナンス基礎II(リスクマネジメント)	宇佐美 洋	2
(5)タックスプランニング	企業会計・簿記入門	井村 順子	2
(6)相続・事業承継設計	経営法務とガバナンス	宇佐美 洋	2
(7)演習等	論文演習 ※	宇佐美 洋	4
	※ 提案書課題を含む。		

CFP®認定教育プログラムにおけるCFP®資格認定までのプロセス

～CFP®認定教育プログラム実施大学院の「所定の課程」修了者の場合～



CFP® CERTIFIED FINANCIAL PLANNER®およびサーティファイドファイナンシャルプランナー®は、米国外においては Financial Planning Standards Board Ltd.(FPSB)の登録商標で、FPSBとのライセンス契約の下に、日本国内においてはNPO法人日本FP協会が商標の使用を認めています。AFFILIATED FINANCIAL PLANNER®、アフィリエイトドファイナンシャルプランナー®は、NPO法人日本FP協会の登録商標です。

目次

MBAコース開講科目一覽

実践知考具／志

科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
スーパージェネラリスト論	田坂 広志	春	2	1
ソーシャル・イノベーション論	田坂 広志	春	2	2
ソーシャル・アントレプレナー論	田坂 広志	秋	2	3
ネオ・リベラルアーツ論	田坂 広志	秋	2	4
比較文化論	歌川 令三	春	2	5

実践知考具／イノベーション

科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
知識創造経営のプリンシプル	紺野 登	春	2	6
シナリオプランニングワークショップ	紺野 登	春	2	7
イノベーションと目的工学	紺野 登	秋	2	8
デザイン思考ワークショップ	紺野 登	秋	2	9
ビジネスモデルイノベーション	河野 龍太	春	2	10
実践アントレプレナーシップ	本荘 修二	春	2	11
経営戦略概論	前川 慶一	秋	2	12
ITビジネス原理と先端戦略	金野 索一	秋	2	13

実践知考具／顧客創造

科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
マーケティングマネジメント概論	河野 龍太	春秋	2	14
ビジネスモデル創造特論	河野 龍太	秋	2	15
インサイトコミュニケーション	久恒 啓一	春	2	16
Webマーケティング戦略	土屋 有	春	2	17
戦略PRマーケティング	久保山 路子	秋	2	18
モビリティ・マーケティング	加藤 肇	春	2	19
ビジネスデータ分析と戦略策定	栗山 実	秋	2	20
日本の流通構造とSCM(サプライチェーン・マネジメント)のメガトレンド	西田 邦生	秋	2	21
最新ロジスティクス戦略	角井 亮一	春	2	22
ビジネスデータ分析・活用(Standard)	豊田 裕貴	春	2	78
ビジネスデータ活用(課題解決モデリング)	志賀 敏宏	秋	2	80
ビジネスデータ活用実践(BI)	萩原 雅之／佐藤 洋	春	2	84

実践知考具／リーダーシップと人事

科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
ヒューマンリソース概論I	徳岡 晃一郎	春	2	23
ヒューマンリソース概論II	徳岡 晃一郎	秋	2	24
インナーコミュニケーション	徳岡 晃一郎	春	2	25
カルチャーベースマネジメント	徳岡 晃一郎	秋	2	26
ストレスマネジメントと精神回復力	水木 さとみ	春	2	27
実践組織変革	浜田 正幸	秋	2	28
ケーススタディ 組織を動かす変革型リーダーシップ論	迫川 史康	春	2	29

実践知考具／ファイナンス戦略

科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
ファイナンス基礎I(経営財務)【FP資格必修】	宇佐美 洋	春	2	30
ファイナンス基礎II(リスクマネジメント)【FP資格必修】	宇佐美 洋	秋	2	31
企業会計・簿記入門【FP資格必修】	井村 順子	秋	2	32
企業分析と経営指標	大津 広一	春	2	33
金融論	真壁 昭夫	春	2	34
M&A戦略と実践企業ファイナンス	中岡 英隆	春	2	35
夢を叶える実践リスクマネジメント	樋渡 淳二	秋	2	36
実践ファイナンス数学【FP資格必修】	小野里 光博	春	2	37
ファイナンスイノベーション	伊藤 祐輔	春	2	38

実践知考具／経営基盤マネジメント

科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
経営基盤のための法と経済学【FP資格必修】	宇佐美 洋	春	2	39
経営法務とガバナンス【FP資格必修】	宇佐美 洋	秋	2	40
実践オペレーションズリサーチ	中川 義之	春	2	41
プロジェクトマネジメントの基本と応用	中分 毅	秋	2	42
クリティカルシンキング	柏木 吉基	秋	2	43
MBAのためのビジネスデータ入門	今泉 忠	春	2	44

最新ビジネス実践知／社会・事業構想

科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
社会デザイン構想	望月 照彦	春	2	45
ベンチャー企業論	瀧田 隆道	春	2	46
医療介護領域の実践知を学ぶ	真野 俊樹	秋	2	47
地域・観光ビジネス戦略	丁野 朗	秋	2	48

最新ビジネス実践知／ヘルスケア

科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
ヘルスケアと介護の現状と未来を考える	真野 俊樹	春	2	49
ヘルスケアと介護業界の最新のマネジメント	真野 俊樹	秋	2	50
高齢社会のまちづくり	川井 真	秋	2	51
医療介護経営と会計	長 英一郎	春	2	52

最新ビジネス実践知／グローバル経営

科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
知のグローバル共創	佐藤 勝彦	秋	2	53
Business Communication for Global Leaders	Mark Austin	春	2	54
世界潮流と企業戦略	金 美德	春	2	55
日本企業の中国ビジネス	徐 向東	春	2	56
中国経済と日本企業の戦略	巴特尔	秋	2	57
Business in Globalized India - The Japan Perspective	Aniruddha Mallik	秋	2	58

最新ビジネス実践知／NPOマネジメント

科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
非営利法人のファイナンス	堀内 勉	秋	2	59
トライセクターリーダー論	金野 索一	春	2	60
次代を拓くソーシャルリーダーに学ぶ in 東北	宮城 治男	秋	2	61

教養基盤／本質思考力

科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
ビジネス実践知探究	佐藤 勝彦	春	2	62
問題解決学I	下井 直毅	春	2	63
問題解決学II	下井 直毅	秋	2	64
社会工学研究会(実践的教養インターゼミ)I~IV	金 美德	春秋	2	65
フィールドスタディ・II	金 美德	春秋	2	66
研究実習I~III	各教員	休業期間中	2	67
論文演習【FP資格必修】	宇佐美 洋	春秋	2	68
論文演習	河野 龍太	春秋	2	69
論文演習	紺野 登	春秋	2	70
論文演習	田坂 広志	春秋	2	71
論文演習	徳岡 晃一郎	春秋	2	72
論文演習	巴特尔(バートル)	春秋	2	73
論文演習	真野 俊樹	春秋	2	74
留学生の為の日本経済・経営基礎	佐藤 勝彦	春秋	1	75
ビジネスジャパニーズI	王 媛	春	1	76
ビジネスジャパニーズII	王 媛	秋	1	77

ビジネスデータサイエンス(DSB)コース開講科目一覧

ビジネスデータ活用力

科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
ビジネスデータ分析・活用(Standard)	豊田 裕貴	春	2	78
ビジネスデータ分析・活用(Advance)	豊田 裕貴	秋	2	79
ビジネスデータ活用(課題解決モデリング)	志賀 敏宏	秋	2	80
ビジネスデータ活用実践(先端事例)	佐藤 洋行	春	2	81
ビジネスデータ活用実践(事業提案)	佐藤 洋行	秋	2	82

データマネジメント力

科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
ビジネスデータ活用入門(DB)	出原 至道	秋	2	83
ビジネスデータ活用実践(BI)	萩原 雅之/佐藤 洋	春	2	84

データ分析力

科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
ビジネスデータ分析入門(統計ソフト活用)	久保田 貴文	春	2	85
ビジネスデータ分析(機械学習)	久保田 貴文	秋	2	86
ビジネスデータ分析(Standard)	今泉 忠	春	2	87
ビジネスデータ分析(Advance)	今泉 忠	秋	2	88

演習

科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
集中ゼミ(統計検定)	今泉 忠	春	2	89
DSBゼミ(データコンペティション)	今泉 忠・久保田 貴文	秋	2	90
論文指導I	今泉 忠・豊田 裕貴	春	2	91
論文指導II	久保田 貴文・豊田 裕貴	秋	2	92

2016年度 大学院シラバス 開講学期：春学期

科目名 (和文)	スーパージェネラリスト論		
科目名 (英文)	Super Generalist		
サブタイトル	いかにして、垂直統合した知性を身につけるか		
カリキュラム群	実践知考具／志		
担当教員	田坂 広志	メールアドレス	tasaka@hiroshitasaka.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
経営者や起業家、マネジャーやリーダーとして、目の前の現実を変革することのできる「変革の知性」を身につける			
講義要旨			
思想、ビジョン、志、戦略、戦術、技術、人間力という「7つの知性」を垂直統合して身につけた「スーパー・ジェネラリスト」へと成長するための方法と、その核心である「多重人格のマネジメント」について語る			
講義概要全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分			
第1講	「思想」のレベルの知性を磨く方法と、その知性を支える人格のマネジメントについて語る		
第2講	「ビジョン」のレベルの知性を磨く方法と、その知性を支える人格のマネジメントについて語る		
第3講	「志」のレベルの知性を磨く方法と、その知性を支える人格のマネジメントについて語る		
第4講	「戦略」のレベルの知性を磨く方法と、その知性を支える人格のマネジメントについて語る		
第5講	「戦術」のレベルの知性を磨く方法と、その知性を支える人格のマネジメントについて語る		
第6講	「技術」のレベルの知性を磨く方法と、その知性を支える人格のマネジメントについて語る		
第7講	「人間力」のレベルの知性を磨く方法と、その知性を支える人格のマネジメントについて語る		
第8講	「多様な才能」を開花させるための「多重人格のマネジメント」について語る		
教科書・指定図書・参考図書等			
『知性を磨く － 「スーパー・ジェネラリスト」の時代』(田坂広志著：光文社新書)			
評価方法	出席状況、聴講姿勢、所感内容、ML議論によって総合的に評価する。		
履修留意事項	共通	この講義は、単に頭で理解して「表層的な知識」を学ぶのではなく、自身の経験と体験を振り返りながら「身体的な智慧」を掴むことを目的とする。その覚悟を持って受講されることを。	
	個別	「ソーシャル・イノベーション論」を同時履修すること。	

2016年度 大学院シラバス 開講学期：春学期

科目名 (和文)	ソーシャル・イノベーション論		
科目名 (英文)	Social Innovation		
サブタイトル	いかにして、社会変革を為し遂げるか		
カリキュラム群	実践知考具／志		
担当教員	田坂 広志	メールアドレス	tasaka@hiroshitasaka.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
社会起業家として、この社会を変革するための思想、ビジョン、志、戦略、戦術、技術、人間力について学ぶ。			
講義要旨			
社会起業家として、目の前にある社会や組織の現実を変革するためには、思想、ビジョン、志、戦略、戦術、技術、人間力といった「7つの知性」を垂直統合して身につける必要がある。では、その「7つの知性」とは、いかなる知性か。その「7つの知性」を、いかにして身につけるか。そうしたテーマについて語る。			
講義概要全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分			
第1講	社会起業家の「思想」について、そのレベルの思考を深め、知性を磨く方法について語る		
第2講	社会起業家の「ビジョン」について、そのレベルの思考を深め、知性を磨く方法について語る		
第3講	社会起業家の「志」について、そのレベルの思考を深め、知性を磨く方法について語る		
第4講	社会起業家の「戦略」について、そのレベルの思考を深め、知性を磨く方法について語る		
第5講	社会起業家の「戦術」について、そのレベルの思考を深め、知性を磨く方法について語る		
第6講	社会起業家の「技術」について、そのレベルの思考を深め、知性を磨く方法について語る		
第7講	社会起業家の「人間力」について、そのレベルの思考を深め、知性を磨く方法について語る		
第8講	社会起業家の、これら「7つの知性」を垂直統合する方法について語る		
教科書・指定図書・参考図書等			
『知性を磨く - 「スーパージェネラリスト」の時代』(田坂広志著：光文社新書)			
評価方法	出席状況、聴講姿勢、所感内容、ML議論によって総合的に評価する。		
履修留意事項	共通	この講義は、単に頭で理解して「表層的な知識」を学ぶのではなく、自身の経験と体験を振り返りながら「身体的な智慧」を掴むことを目的とする。その覚悟を持って受講されることを。	
	個別	「スーパー・ジェネラリスト論」を同時履修すること。	

2016年度 大学院シラバス 開講学期：秋学期

科目名 (和文)	ソーシャル・アントレプレナー論		
科目名 (英文)	Social Entrepreneur		
サブタイトル	いかにして、社会起業家として歩むか		
カリキュラム群	実践知考具／志		
担当教員	田坂 広志	メールアドレス	tasaka@hiroshitasaka.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
社会起業家としての生き方・働き方の「7つの心得」について学ぶ			
講義要旨			
社会起業家としての生き方と働き方には、「立志」「成長」「共感」「革新」「創発」「信念」「伝承」という「7つの心得」がある。その「7つの心得」の、それぞれの意味は、何か。その「7つの心得」を実践するには、それぞれ、どうすればよいか。そうしたテーマについて語る。			
講義概要全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分			
第1講	第1の心得 / 立志 / 社会起業家は、「良き社会」を実現しようとの「志」と「使命感」を持つ		
第2講	第2の心得 / 成長 / 社会起業家は、自分自身の「自己変革」と「人間成長」をめざす		
第3講	第3の心得 / 共感 / 社会起業家は、多くの人々との「共感」と「協働」を生み出す		
第4講	第4の心得 / 革新 / 社会起業家は、現在の事業の「革新」や新しい事業の「創造」を行う		
第5講	第5の心得 / 創発 / 社会起業家は、事業の革新を通じて「新たな社会」の創発を促す		
第6講	第6の心得 / 信念 / 社会起業家は、生涯にわたってその「社会変革」の歩みを続ける		
第7講	第7の心得 / 伝承 / 社会起業家は、次の世代にその「志」と「使命感」を伝えていく		
第8講	なぜ、21世紀には、すべての働く人々が「社会起業家」になっていくのか		
教科書・指定図書・参考図書等			
『これから働き方はどう変わるのか』(田坂広志著：ダイヤモンド社)			
評価方法	出席状況、聴講姿勢、所感内容、ML議論によって総合的に評価する。		
履修留意事項	共通	この講義は、単に頭で理解して「表層的な知識」を学ぶのではなく、自身の経験と体験を振り返りながら「身体的な智慧」を掴むことを目的とする。その覚悟を持って受講されることを。	
	個別	「ネオ・リベラルアーツ論」を同時履修すること。	

2016年度 大学院シラバス 開講学期：秋学期

科目名 (和文)	ネオ・リベラルアーツ論		
科目名 (英文)	Neo Liberal Arts		
サブタイトル	いかにして、21世紀の教養を学ぶか		
カリキュラム群	実践知考具／志		
担当教員	田坂 広志	メールアドレス	tasaka@hiroshitasaka.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
「言語的な知識」ではなく「身体的な智慧」としての教養を学ぶことによって、21世紀に求められる「変革の知性」を身につける			
講義要旨			
書物や文献を通じて言語的に学ぶ「知識」としての教養ではなく、経験と体験を通じて身体的に掴む「智慧」としての教養を身につける方法を語る			
講義概要全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分			
第1講	「変革の知性」とは何か		
第2講	「知性」と「知能」の違いとは何か		
第3講	「知性」と「知識」の違いとは何か		
第4講	「知性」と「専門性」の違いとは何か		
第5講	なぜ、「知の貯蔵庫」ではなく、「知の生態系」が重要か		
第6講	なぜ、思想、ビジョン、志、戦略、戦術、技術、人間力という「7つの知性」の垂直統合が必要か		
第7講	「知と知の分離」「知と行の分離」「知と情の分離」という3つの病を克服する方法		
第8講	最も重要なリベラルアーツとしての「人間観」と「人間力」		
教科書・指定図書・参考図書等			
『知性を磨く – 「スーパージェネラリスト」の時代』(田坂広志著：光文社新書)			
評価方法	出席状況、聴講姿勢、所感内容、ML議論によって総合的に評価する。		
履修留意事項	共通	この講義は、単に頭で理解して「表層的な知識」を学ぶのではなく、自身の経験と体験を振り返りながら「身体的な智慧」を掴むことを目的とする。その覚悟を持って受講されることを。	
	個別	「ソーシャル・アントレプレナー論」を同時履修すること。	

2016年度 大学院シラバス 開講学期：春学期

科目名 (和文)	比較文化論		
科目名 (英文)	Comparative cultural study		
サブタイトル	宗教社会学講義(studying sociology of religion)		
カリキュラム群	実践知考具/志		
担当教員	歌川 令三	メールアドレス	utarei77@gmail.com
講義目的 (学修の到達目標)			
<p>Globalizationが進む中、なぜ民族や国家同士の異文化間紛争が頻発するのか？その根源を人間の<信念>の体系である諸宗教に遡って考える。</p> <p>学習の到達目標 ①人間の行動原理を規定する「エトス」とは何かを学ぶ。②人間の“心の営み”でもある経済・経営の思想的背景には、宗教という“見えざる文化”が存在していることを習得する。</p>			
講義要旨			
<p>一神教三兄弟(ユダヤ教、キリスト教、イスラム教)、ヒンドウ教、仏教、そして儒教、道教など、世界の主な宗教の特質を分析する。そして、それぞれがどのように人々や、社会の行動原理に影響を与えて来たかについて、論ずる。</p>			
講義概要全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分			
第1講	比較文化論とは、何ぞや？宗教と科学の違いはどこにあるのか？を、習得する。人間の行動を規定する「合理性」「非合理性」「限定合理性」の違いを学ぶ。さらに一神教の発生(神の発見)とユダヤ教を知る。		
第2講	旧約聖書のユダヤ人新約聖書にキリスト教、両者の共通点と相違点を掌握する。		
第3講	イエスの布教モデルとパウロ神学、そしてなぜキリスト教がローマ帝国の国教になったか、を考える。宗教改革で誕生したプロテスタントの倫理が資本主義を生み出したという宗教社会学の仮説を検証する。		
第4講	“規範の宗教”イスラム教とコーランの概要を掴む。そしてそれがなぜキリスト教文化が創った「近代」と相性が悪いのかを考える。		
第5講	第4講の続き。なぜ一神教三兄弟は仲が悪いのか？争いの本質を学習し、さらに“アラブの春”がなぜ中東において“同一文明内の衝突”の発火点になったか？さらに「イスラム国」を論ずる。		
第6講	仏教の哲学的母体としてのヒンドウ教とは何か？なぜ釈迦はヒンドウ教に満足せず原始仏教を開いたのか？		
第7講	”おしゃか様”もびつくりの<大乘仏教>を学習する。般若心経の宇宙観、密教の概観。中国の古代宗教である儒教、道教と大乘仏教の出会い。		
第8講	宗教のカクテル「日本教」「あの世」と「この世」&ニューサイエンス		
教科書・指定図書・参考図書等			
<p>教科書：日本聖書協会刊 アートバイブル。講義につど詳細な<講義概要>を配布する。その余白に受講者がそれぞれ講義の詳細と討論の概要を書き込めば、自分用のビジネスマンのための「宗教社会学入門」の冊子が出来るだろう。</p> <p>指定図書： 参考図書等：</p>			
評価方法	出席率、討論参加、最終レポート 三点の総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く+聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので、議論には積極的に参画すること	
	個別	知識習得もさることながら「考える力」を鍛錬する講座です。それには相応の日本語力を要求されることを特に留意されたい。	

2016 年度 大学院シラバス 開講学期：春学期

科目名 (和文)	知識創造経営のプリンシプル		
科目名 (英文)	Principles of Knowledge Creating Management		
サブタイトル	知識経済社会の企業・経営・戦略・組織		
カリキュラム群	実践知考具／イノベーション		
担当教員	紺野 登	メールアドレス	konno-n@tama.ac.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
知識社会・経済の経営を理解するための基本的な考え方としての<知識創造理論>をもとに、とくにイノベーションを念頭に置いた戦略・組織などについての経営モデルを提示する。それらをてがかりに、個々人の経験を材料としながら、これからの経営のあり方を自分なりに理解し、創造し、総合していく。			
講義要旨			
企業価値の主要な源泉は物的な有形資源 (モノ) から人々の無形の知識に移行している。それに沿って、大きく経営学も変化している。本講では知識創造経営という「理念型」から出発して、戦略論、組織論、リーダーシップ論等、毎回テーマを追いながら、経営全体を「知」で切って考える。			
講義概要全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分			
第 1 講	知識経営とその背景:知識社会、知識経済、分析から創造への経営の転換 知識ベース理論に向けて：知識とは何か		
第 2 講	知識創造理論---暗黙知と形式知、「SECI (知識創造) モデル」、知識創造とイノベーション		
第 3 講	知識経営企業事例研究 (1)：知識創造企業事例及び対話		
第 4 講	「戦略論」と知識経営：戦略論の系譜と知識経営 知識経営の「ルート・メタファー」		
第 5 講	「知識資産」の戦略：知識資産とは、知識で富を生み出すとは		
第 6 講	「場」：「場」とは何か---暗黙知、文脈、言語 「場」の組織と経営		
第 7 講	知識経営実践事例研究 (2)：知識リーダーシップ (賢慮) 事例及び対話		
第 8 講	総括の対話		
教科書・指定図書・参考図書等			
野中郁次郎、紺野登 (2012) 『知識創造経営のプリンシプル』 東洋経済新報社 (指定図書)			
評価方法	出席率／講義議論参画度／最終レポート 3 点の総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く+聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論には積極的に参画すること	
	個別	「ナレッジマネジメント」(知識管理) という用語も使用しますが、所謂 IT をベースにしたナレッジマネジメントシステムが主テーマではありません。	

2016 年度 大学院シラバス 開講学期：春学期集中講義

科目名 (和文)	シナリオプランニングワークショップ		
科目名 (英文)	Methodology of Scenario Planning: Strategy on Possibilism		
サブタイトル	創造的対話の手法と可能主義の戦略形成としてのシナリオプランニング		
カリキュラム群	実践知考具／イノベーション		
担当教員	紺野 登	メールアドレス	konno-n@tama.ac.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
知識創造の観点から従来からあるシナリオプランニングを、不確実・複雑な環境における思考法、未来視点での対話の方法として再発見し、その背景を考え、体験する場 (集中プログラム) を提供する。			
講義要旨			
「知識創造」とは本質的に未来に向けた創造、イノベーションである。イノベーションとは未来へのビジョンのもとに不確実な複雑な環境の中で「可能主義」的に生きることである。それは未来について「構える」のではなく、未来に向けて判断、変容させることである。本講では未来研究に関する研究と、ワークショップによるシナリオプランニングの実践的演習をともに行うことで「可能主義 (非決定論的) の戦略」について考える。			
講義概要全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分			
第 1 講	オリエンテーション、イノベーション経済、未来への視座 可能主義の戦略の系譜		
第 2 講	シナリオプランニング技法について		
第 3 講	シナリオプランニング演習 (1)		
第 4 講	シナリオプランニング演習 (2)		
第 5 講	シナリオプランニング演習 (3)		
第 6 講	シナリオプランニング演習 (4)		
第 7 講	未来の哲学：経営における未来の意味合い		
第 8 講	総括、討議		
教科書・指定図書・参考図書等			
紺野登 (2010) 『ビジネスのためのデザイン思考』東洋経済新報社 (指定図書) オグルビー、J., 紺野登、野中郁次郎 (2005) 《知識創造としてのシナリオ PART1 シナリオ・プランニングのベーシックス&PART 2 シナリオ・マインドのすすめ》Think! 2005 SPR. SUM No.13&14 【配布する】			
評価方法	出席率／講義議論参画度／最終レポート 3 点の総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く＋聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論には積極的に参画すること	
	個別	集中グループワーク (計 3 日) であるため欠席は避けられたし	

2016 年度 大学院シラバス 開講学期：秋学期

科目名 (和文)	イノベーションと目的工学		
科目名 (英文)	Innovation and “Purpose Engineering”		
サブタイトル	目的の時代の経営とイノベーション		
カリキュラム群	実践知考具／イノベーション		
担当教員	紺野 登	メールアドレス	konno-n@tama.ac.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
<p>「目的工学」とは善い目的に基づく経営(Management On Purpose)、および社会、企業、個々人の目的を調整して成果を生み出すための経営(Management Of Purposes)からなる、イノベーションのための実践知(practical wisdom)である。本講では、目的に関する基本的議論と実践のためのモデルを学ぼうとする。</p>			
講義要旨			
<p>21世紀の経営は、社会イノベーションなどが重視され、社会性や人間志向を強めている。そこでは、主観的なものである「目的」をいかに経営に取り込むかが課題となっている。ではどのような経営がありえるのだろうか? 「善い目的」とは何か、「目的と手段の選択・判断」はいかにあるべきかを「目的工学」という視点から考える。</p>			
講義概要全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分			
第1講	21世紀は目的の時代		
第2講	アリストテレスの目的論的世界観と実践的三段論法		
第3講	企業のイノベーションの目的と経営、目的工学の実践		
第4講	個の思いと目的 (事例)		
第5講	目的工学 (1) 目的に基づく手段の判断		
第6講	目的工学 (2) 目的群の調整 (事例)		
第7講	目的工学とソーシャルイノベーション		
第8講	総括の対話		
教科書・指定図書・参考図書等			
紺野登(2013)『利益や売上げばかり考える人は、なぜ失敗してしまうのか (目的工学)』(ダイヤモンド社)			
評価方法	出席率／講義議論参画度／最終レポート 3点の総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く+聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論には積極的に参画すること	
	個別		

2016 年度 大学院シラバス 開講学期：秋学期集中講義

科目名 (和文)	デザイン思考ワークショップ		
科目名 (英文)	Design Thinking Workshop—Qualitative Research Methodologies in Action		
サブタイトル	質的研究方法論と実践ワークショップ		
カリキュラム群	実践知考具／イノベーション		
担当教員	紺野 登	メールアドレス	konno-n@tama.ac.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
業種・職種を問わず、これからのリーダーにとって不可欠な「デザイン思考」の理論と実践を学ぶ。			
講義要旨			
近年世界中の経営大学院などでもデザイン思考のプログラムが増えている。イノベーション経営への潮流とともに、組織横断的な構想力・実践力が要請されているためである。それは机上の学習では得られない。本講ではエスノグラフィーやGTAなど質的研究方法論、コンセプトの構築、プロトタイピングといったデザイン思考の基本を集中ワークショップで総合的に身につけることを狙いとする。			
講義概要全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分			
第 1 講	コンセプトとそのデザインの方法論および 質的研究方法論(Qualitative Research Methodologies)概論		
第 2 講	フィールドワーク演習(1)		
第 3 講	コンセプトの社会学的理解 エスノグラフィー、GTA(Grounded Theory Approach)等文献研究<輪読>		
第 4 講	フィールドワーク演習(2)		
第 5 講	コンセプトデザイン演習		
第 6 講	プロトタイピング演習		
第 7 講	ストーリーテリング演習		
第 8 講	総括の対話		
教科書・指定図書・参考図書等			
紺野登 (2010)『ビジネスのためのデザイン思考』東洋経済新報社 (指定図書) フリック,U.(2002)『質的研究入門—「人間の科学」のための方法論』春秋社 (指定図書) グレイザー,B.G.,A.L.シュトラウス (1996)『データ対話型理論の発見』新曜社 (指定図書)			
評価方法	出席率／講義議論参画度／最終レポート 3 点の総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く+聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論には積極的に参画すること	
	個別	講義の合間に文献輪読作業あり。ワークショップ形式ゆえ継続出席を重視。集中グループワーク(計 3 日)であるため欠席は避けられたし	

2016年度 大学院シラバス 開講学期：春学期

科目名 (和文)	ビジネスモデルイノベーション		
科目名 (英文)	Business Model Innovation		
サブタイトル	持続的競争優位が終焉を向かえた時代の新たな戦略アプローチと実践手法		
カリキュラム群	実践知考具／イノベーション		
担当教員	河野 龍太	メールアドレス	kono@insightlink.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
21世紀の事業戦略のカギであるビジネスモデル・イノベーションによる差別化戦略の本質を理解し、自社が抱える経営課題の解決に応用するための実践知を修得する。			
講義要旨			
アップル、アマゾン、ユニクロを例としてあげるまでもなく、現代の勝ち組企業に共通しているのが、【ビジネスモデルの差別化】に成功していることです。ビジネスモデルとは、事業の持続的成長を可能にする戦略メカニズムのこと。現代の経営においては商品・サービス単体レベルでの差別化が難しさを増しており、ビジネスモデルによる差別化が重要になっています。本講義では、ビジネスモデルに対する本質的理解を深めながら、世界の一流企業が採用し経営の現場で実践するビジネスモデル構築手法を学び、受講者自らが関わる事業のビジネスモデルをイノベーションするための戦略的視座と問題解決力を錬成することを講義の目的とします。			
講義概要全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分			
第1講	ビジネスモデルとは何か		
第2講	ビジネスモデルの外部環境をどうとらえるか		
第3講	ビジネスモデル・イノベーションを可能にする思考スキル		
第4講	顧客インサイトとビジネスモデルのデザイン		
第5講	イノベーション戦略とビジネスモデルのデザイン		
第6講	ビジネスモデルの仮説検証とプロトタイプ改善		
第7講	ビジネスモデル・イノベーションの実行		
第8講	総まとめおよび各自の自社課題をベースにしたクラスディスカッション		
教科書・指定図書・参考図書等			
「ビジネスモデル・ジェネレーション」アレックス・オスターワルダー、「イノベーションへの解」クレイトン・クリステンセン他			
評価方法	出席率／講義議論参画度／課題レポートの総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く＋聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論には積極的に参画すること。	
	個別	実践演習を交えたワークショップ型講義を行うので積極的に参加すること	

2016年度 大学院シラバス 開講学期：春学期

科目名 (和文)	実践アントレプレナーシップ		
科目名 (英文)	Entrepreneurial Management		
サブタイトル	事業創造の理論と演習		
カリキュラム群	実践知考具／イノベーション		
担当教員	本庄 修二	メールアドレス	shuji@honjo.biz
講義目的 (学修の到達目標)			
ベンチャー企業、大企業の新事業 (新製品・サービス、事業転換を含む) など事業創造のための基礎としての知識、技術、思考法を学ぶ。対象は、起業家、社内起業家からチーム・メンバー、投資家、支援者まで事業創造に関わる、あるいはそれを志す人。			
講義要旨			
講義と文献による理論的バックボーン習得とともに、新事業の立案や既存事業への戦略的代替案の策定を試み、受講生による発表とディスカッションなど実践的な演習を行う (ゲスト講義を含む)。併せて、自己の経営スタイルと着眼点、発想の再確認と進化を促す。なお、受講者の特性に応じて講義内容は調整を図る。			
講義概要全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分			
第1講	講義・演習概要 [ガイダンス] アントレプレナーシップ概論 [講義]		
第2講	事業機会特定、リーン・スタートアップ [講義] 新事業マーケティングと事業転換 [講義]		
第3講	ビジネスモデル、ビジネスプランと事業評価 [講義] グループ演習準備・議論		
第4講	個人の研究課題 テーマ発表 ゲスト講義 (経営者・新事業マネジャーによる)		
第5講	グループ演習発表 起業シナリオと成長戦略 [講義]		
第6講	個人の研究課題 (事業案) 中間レビュー ベンチャーキャピタルとファイナンス [講義]		
第7講	個人の研究課題 (事業案) の発表と議論		
第8講	総括		
教科書・指定図書・参考図書等			
参考図書等：オンライン連載『インキュベーションの虚と実』 http://diamond.jp/category/s-incubation 、その他コピーを配布。また、必要に応じて追加の参考図書を紹介。			
評価方法	出席率 25%/講義議論参加ならびに貢献度 25%/発表 40%/レポート 10% 4点の総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く+聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので、議論には積極的に参加すること	
	個別	メーリングリスト (あるいは Facebook グループ) で継続的にコミュニケーションを行う	

2016年度 大学院シラバス 開講学期：秋学期

科目名 (和文)	経営戦略概論		
科目名 (英文)	Outline of Business strategy building		
サブタイトル	経営戦略策定と意思決定		
カリキュラム群	実践知考具／イノベーション		
担当教員	前川 慶一	メールアドレス	maekawa-k@tama.ac.jp keiichi.maekawa@jp.mahle.com
講義目的 (学修の到達目標)			
企業経営成功のキーとなる戦略策定にあたって、策定手法とともに考えておくべきポイント、経営における意思決定の意味を習得する			
講義要旨			
厳しい競争環境の中で、一企業が自社の持つコンピテンスやリソースの制限の中ですべての領域でリーダーになって高い利益を享受することは難しく、それゆえ企業は戦略を持ってリソースを重点配分していくことが求められる。本講座では戦略策定にあたって考えるべきこと、戦略策定手法、経営における意思決定の意味を理解しながら、いかに経営戦略や商品戦略を策定し、実行していくか、自ら考えながら学んでいただく。			
講義概要全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分			
第1講	概論		
第2講	戦略策定法と実習(1)		
第3講	戦略策定法と実習(2)		
第4講	経営の意思決定		
第5講	多角化、M&A・アライアンス戦略 ケーススタディ 経営戦略分析		
第6講	技術戦略・生産戦略・地域戦略の策定		
第7講	商品戦略の策定		
第8講	まとめ		
教科書・指定図書・参考図書等			
(参考図書) 三谷宏治「経営戦略全史」(ディスカバートウエンティワン)、マックス・マキューン「戦略」大全(大和書房)、グロービス・マネジメント・インスティテュート「MBA 経営戦略」(ダイヤモンド社)、経営戦略研究会「経営戦略の基本」(日本実業出版社)、網倉久永・新宅純二郎「経営戦略入門」(日本経済新聞出版社)等			
評価方法	出席率／講義議論参画度／最終レポート 3点の総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く+聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので、議論には積極的に参画すること	
	個別	財務、マーケティングの基礎知識を持っていると理解しやすい部分がある	

2016 年度 大学院シラバス 開講学期：秋学期

科目名 (和文)	IT ビジネス原理と先端戦略		
科目名 (英文)	Theory and Advanced Strategy of ICT business		
サブタイトル	その理論と実践に学ぶ		
カリキュラム群	実践知考具/イノベーション		
担当教員	金野 索一	メールアドレス	skonno212@gmail.com
講義目的 (学修の到達目標)			
<p>“イノベーションの源泉は、テクノロジーとリベラルアーツの交差点にある “最新の ICT ビジネス原理と戦略の理解を通じて、業種、職種の枠を超えて、ビジネスセクター全体を俯瞰した視点・ノウハウを学ぶことで、新たな事業創造を実践し、自身のビジネス戦略を明確化する。さらに、日本を代表する現役の IT ベンチャー起業家と投資家と共に学ぶことで、理論と実践を往来し、社会と自分自身のイノベーションを推進する。</p>			
講義要旨			
<p>パーソナルコンピュータが登場して約 30 年、インターネットが普及を始めて約 20 年、ICT というツールを的確に使いこなさずして、ビジネスの隆盛は成し得ません。クラウド、ビッグデータ等のキーワードを知っていても、起業や経営にどのように活かすかの実践なくして、自身のビジネス・キャリアは深化しません。ICT 分野は、最近までの常識が、すぐに陳腐化してしまう高速変化が常ですので、本科目は、イノベーションを目指すビジネスパーソンにとって不可欠といえる、IT 革命後の最新ビジネス原理とノウハウを俯瞰し、体系化したものを、日本を代表する IT ベンチャー起業家とベンチャーキャピタリスト (投資家) と共に学びます。その上で、ICT を活用した現実の新規事業をプランニングし、当代随一と言える、現役の起業家・経営者と投資家へ提案を行い、その結果によっては、実際の起業あるいは社内起業に繋げて行きます。まさに、日本の IT ビジネスにおける最先端の理論と実践の場とします。</p>			
講義概要全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分			
第 1 講	●IT ビジネス最新原理 ①インターネットソリューション基本類型・原理の理解と演習 ②IT 最新トレンドの理解と演習		
第 2 講	●ICT が変えた仕事の最新原理を理解する①経営戦略：システム・デザイン・ストーリー思考へ②マーケティング：マーケッターからグロースハッカーへ③人・組織：野球型からサッカー型へ、コーディネーターからファシリテーターへ④お金の流れ：資本主義を変える決済システム、電子マネー、クラウドファンディング⑤製造・モノ造り：D プリンター革命で、集中メインフレーム型から分散ネットワーク型へ		
第 3 講	●ゲスト講師：真田哲弥氏 (ダイアル Q2 ネットワーク、サイバード創業者、現・KLAB 創業者・社長 (東証 1 部)) 真田氏の IT ビジネスにおけるノウハウと先端戦略をその実践より学ぶ		
第 4 講	●ゲスト講師：木下慶彦氏 (MUGENUP 共同創業者、現・スカイランドベンチャー社長) 木下氏の IT ベンチャー投資における先端 IT 企業のビジネス原理と戦略をその実践より学ぶ		
第 5 講	●事業計画案ブラッシュアップのための指導とディスカッション		
第 6 講	●ゲスト講師：真田哲弥氏 (ダイアル Q2 ネットワーク、サイバード創業者、現・KLAB 創業者・社長 (東証 1 部)) への各自の事業計画提案		
第 7 講	●ゲスト講師：木下慶彦氏 (MUGENUP 共同創業者、現・スカイランドベンチャー社長) への各自の事業計画提案		
第 8 講	●総括： イノベーションの源泉は、” テクノロジーとリベラルアーツの交差点にある “ ICT で拓く、社会とビジネスとキャリアの新たな地平～イノベーターシップ		
教科書・指定図書・参考図書等			
指定図書：課題解決の新技術 (炭谷俊樹 著 PHP)			
参考図書等：普通の君でも起業できる (大前研一、金野索一、他 著 ダイヤモンド社)			
評価方法	出席 32 点 (4 点×8 回) / 講義議論参画 35 点 / 最終レポート 33 点 3 分野で 100 点満点で評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く+聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践キーである。議論には積極的に参画すること	
	個別	まずは、自分自身でインターネットソリューション基本類型・原理や最新トレンドの理解を試みる。最終的には、IT 分野の新規事業あるいは、ICT を活用した一般分野の新規事業計画を創る	

2016 年度 大学院シラバス 開講学期：春学期／秋学期

科目名 (和文)	マーケティングマネジメント概論		
科目名 (英文)	Marketing Management		
サブタイトル	顧客視点の経営戦略の論理と実践展開		
カリキュラム群	実践知考具／顧客創造		
担当教員	河野 龍太	メールアドレス	kono@insightlink.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
事業環境の急速な変化に対応するための現代のマーケティング・マネジメントの本質を理解しビジネスで実践応用できるスキルを修得する。			
講義要旨			
競争環境が厳しさを増し市場の成熟化が進む今日において、顧客を創造し事業を成長に導くためのカギとしてマーケティング戦略の重要性がますます増している。グローバル化とテクノロジーの進展によりマーケティング戦略の進化も問われている。当講義では 21 世紀の環境に適応した新たなマーケティングの論理および現場に適用する実践知を学ぶ。			
講義概要全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分			
第 1 講	顧客視点の経営戦略の論理		
第 2 講	事業環境を認識する		
第 3 講	顧客を理解する		
第 4 講	マーケティングの基幹戦略をデザインする (1)		
第 5 講	マーケティングの基幹戦略をデザインする (2)		
第 6 講	顧客価値を創造する		
第 7 講	顧客価値を維持発展させる		
第 8 講	顧客視点の経営戦略の課題と実践：まとめとディスカッション		
教科書・指定図書・参考図書等			
「マーケティング入門」小川孝輔著 日本経済新聞出版社 (教科書)			
評価方法	出席率／講義議論参画度／課題レポートの総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く＋聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論には積極的に参画すること	
	個別		

2016年度 大学院シラバス 開講学期：秋学期

科目名 (和文)	ビジネスモデル創造特論		
科目名 (英文)	Business Model Creation in Practice		
サブタイトル	事業創造の戦略理論と実践		
カリキュラム群	実践知考具／顧客創造		
担当教員	河野 龍太	メールアドレス	kono@insightlink.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
<p>仮説検証型の事業創造の実践技法の習得。講義期間を通じて、新しいビジネスアイデアを発想し仮説検証を通じて具体化し、それらすべてのプロセスを受講生各自が総合プレゼンテーションする。対象者は、新事業開発のアイデアを持った経営者および経営者相当、起業家志望者、イントレプレナー（組織内起業家、新規事業開発担当）など。特に優秀な受講者は、世界的な起業プランコンテスト、ジャパン・ビジネスモデル・コンペティションのセミファイナルへ推薦する。</p>			
講義要旨			
<p>一時的競争優位の時代においては、既存事業の運営と平行して継続的に新しい事業を創造し、ビジネスモデルのポートフォリオによって優位性を築く戦い方が重要になる。リーンスタートアップなど先端的な事業創造のメソッドを学び、それらを実際を使って仮説検証型の事業開発を実践演習する。アドバンスレベルの受講者が対象。</p>			
講義概要全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分			
第1講	ビジネスモデル創造の論理と実践メソッド (1) 事業創造の基本理論：リーンスタートアップ、顧客開発、ビジネスモデル。		
第2講	ビジネスモデル創造の論理と実践メソッド (2) イノベーションの共通言語：BMC と VPC		
第3講	ビジネスモデル創造の論理と実践メソッド (3) 破壊的イノベーション、市場破壊戦略、BO 戦略		
第4講	ビジネスモデル創造の論理と実践メソッド (4) 仮説検証とピボット		
第5講	仮説検証フィールド演習とディスカッション (1)		
第6講	仮説検証フィールド演習とディスカッション (2)		
第7講	総合プレゼンテーション		
第8講	まとめ		
教科書・指定図書・参考図書等			
<p>「リーンスタートアップ」エリック・リース著 (教科書)、日経 BP、「バリュー・プロポジション・デザイン」アレックス・オスターワルダ、イヴ・ピニユール他著、翔泳社 (教科書)</p>			
評価方法	出席率／講義議論参画度／課題演習の実施度による総合評価		
履修留意事項	共通	実践演習とプレゼンテーションがあるので受講者は必ず課題を実践することが履修の条件。	
	個別	実践を伴う中上級向けの講義であり、履修者同士の横の学習効果を重視するので、ビジネス経験の浅い院生、知識習得を目的とした院生は履修を許可しない場合があることを留意。	

2016年度 大学院シラバス 開講学期：春学期

科目名 (和文)	インサイトコミュニケーション		
科目名 (英文)	Insight Communication		
サブタイトル	図解コミュニケーション力を身につけ洞察力を磨く		
カリキュラム群	実践知考具／顧客創造		
担当教員	久恒 啓一	メールアドレス	hisatune@gmail.com
講義目的 (学修の到達目標)			
講義目的：文章と箇条書きを中心とするコミュニケーションの欠如と混乱を克服する「図解コミュニケーション」の考え 方と技術を学び、ビジネスの現場で生起する様々な問題を解決する論理的思考力と洞察力を、実践を通じて身 につける。 到達目標：新聞の社説や「日本の論点」(文藝春秋)の論文などを一枚の図解として表現できる。			
講義要旨			
コミュニケーション活動によって企業は商品やサービスを創り出し、外部に販売し、顧客の声を取り入れ商品やサービス を改善していく。ビジネスの本質はコミュニケーション活動にあるが、文章と箇条書きを中心とするコミュニケーション には本質的な欠陥があり現場は混乱している。この講義では全体の構造と部分同士の間関係を表現できる「図解コミュニ ケーション」の考え方と技術を実践的に学ぶことによって、高い問題解決能力を身につける。			
講義概要全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分			
第1講	理論「図で考える人は仕事ができる」(日本経済新聞社) 「図で考える人は仕事ができる(実践編)」(日本経済新聞社)		
第2講	技術「図で考える人の図解表現の技術」(日本経済新聞社) 「図で考える技術が身につくトレーニング30」(自由国民社)		
第3講	応用1「仕事力を高める方法は『図』がすべて教えてくれる！」(PHP研究所) 「問題がすっきり解決!図解思考の本」(PHP研究所)		
第4講	応用2「図で考えれば文章がうまくなる」(PHP文庫) 「一枚の図で読む!世界の名著がわかる本」(三笠書房)		
第5講	応用3「図解・資本論」(イースト・プレス) 「図解で身につく!ドロッカーの理論」(中経出版)		
第6講	応用4「図解・日本史」(PHP研究所) ライフデザイン・キャリアデザイン1「人生がうまくいく人は図で考える」(三笠書房)		
第7講	応用5 ライフデザイン・キャリアデザイン2「図解で考える40歳からのライフデザイン」(講談社+α新書) ライフデザイン・キャリアデザイン3「図解・働く女性の成功ノート」(成美堂出版)		
第8講	応用6 ライフデザイン・キャリアデザイン3「30代からの人生戦略は『図』で考える!」(PHP研究所) まとめ「合意術『深掘り型』問題解決のすすめ」(日本経済新聞社)		
教科書・指定図書・参考図書等			
教科書：「図で考える人は仕事ができる」(日経ビジネス人文庫)(久恒啓一) 指定図書：講義概要に記した15冊(全て久恒啓一著)			
評価方法	出席率/講義議論参画度/最終レポート 3点の総合評価		
履修留意 事項	共通	《読む・書く+聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論には積極的 に参画すること	
	個別	毎回実習を行うなかで力をつけていくので、毎回の出席が望ましい。	

2016 年度 大学院シラバス 開講学期：春学期

科目名 (和文)	Web マーケティング戦略		
科目名 (英文)	Web Marketing		
サブタイトル	実践的ウェブビジネスのアプローチ		
カリキュラム群	実践知考具／顧客創造		
担当教員	土屋 有	メールアドレス	caamyt@gmail.com
講義目的 (学修の到達目標)			
受講生の担当事業及び企業戦略をウェブマーケティングの視点から構想、構築する力を身につける。ウェブマーケティングの本質を理解し、事業成功のための要諦の理解と実現性の高い事業計画をたてるための実践理論および実現力を習得する。			
講義要旨			
マーケティング担当者及び経営判断をするべき立場の者は顧客視点を持ちながら、技術革新とライフスタイルの変化を事業機会 (危機回避) にどのように活かすべきかが求められている。本講義では、早いスピードで変化するマーケットへの対処法について具体的且つ実践的な力を限られた時間で獲得する。ウェブマーケティング基礎からモデルケースとなるウェブビジネスの中心的企業の担当者をゲストに迎えてのケーススタディを元にしたディスカッション形式で学ぶ。講義後半では事業担当者がぶつかる壁とその対処法を身に付ける。また、受講生自らの事業 (または、他社事例) についてウェブマーケティングを活用した事業企画の最終発表とフィードバックを行う。			
講義概要全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分			
第 1 講	オリエンテーション／ウェブマーケティングの歴史と生態系 (技術革新・ライフスタイルの変化)		
第 2 講	ウェブマーケティングの活用変遷／KPI マネジメント		
第 3 講	ウェブマーケティング基礎 1：EC 事業		
第 4 講	ウェブマーケティング基礎 2：プラットフォーム事業		
第 5 講	ウェブマーケティング基礎 3：ソーシャルネットワーク・メディア事業		
第 6 講	ウェブマーケティング実践事例：オムニチャネル、スマートフォンでの展開事例メーカーなど		
第 7 講	ウェブマーケティングと事業計画		
第 8 講	受講者の事業におけるウェブマーケティング活用企画の発表 (受講生数により分割し実施可能性あり)		
教科書・指定図書・参考図書等			
参考図書等：参考図書：中澤功著『体系 ダイレクトマーケティング』ダイヤモンド社 2005 年、橋本大也ほか共著『新・データベースメディア戦略。オープン DB とユーザーの関係が最強のメディアを育てる』インプレスジャパン社 2008 年、中山淳雄著『ソーシャルゲームだけがなぜ儲かるのか』PHP ビジネス新書 2012 年、グロービス経営大学院『グロービス MBA マーケティング』ダイヤモンド社 2009 年			
評価方法	出席率 30%/講義議論参画度 50%/最終レポート 20% 3 点の総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く+聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論には積極的に参画すること。出来る限り実際の企業の担当者・責任者をゲストで迎える予定です。	
	個別		

2016年度 大学院シラバス 開講学期：秋学期

科目名 (和文)	戦略PRマーケティング		
科目名 (英文)	Strategic Public Relations Marketing		
サブタイトル	戦略PRの概念と実践の理解		
カリキュラム群	実践知考具／顧客創造		
担当教員	久保山 路子	メールアドレス	michiko.moon@hotmail.co.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
本講義ではマーケティングにおけるコミュニケーションのパフォーマンスを最大化するために「PRの戦略的な活用」について学びます。概念理解から入り、疑似体験やワークショップによる体感実習を経て実践的に活用できるレベルをめざします。			
講義要旨			
マーケティングやコミュニケーション戦略の基本に触れつつ、広告と広報（ブランドPR）の役割機能を理解し、「PRの戦略的な活用」の実践力をつける。講義ではマスメディアの記事や番組を事例とし、メディア目線、視聴者目線を読み解き、PR設計を体験する。ご自身の業務や将来ビジョンの成果拡大にPR視点を加えたい方の受講を歓迎する。			
講義概要全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分			
第1講	PRの概観 / ブランドPRの理解、活動や成果を知る		
第2講	メディアの理解 / メディア目線、視聴者目線 この記事・番組はどんな意図で構成されているか		
第3講	トリプルメディア戦略 / 買いたいものを選んだプロセス		
第4講	PRの設計 / 基本設計 ワークショップ		
第5講	PRの設計 / 仮想プロジェクト		
第6講	マーケティングにおけるコミュニケーションのパフォーマンスに寄与したか		
第7講	成果の捉え方 / 効果測定、PRの可能性		
第8講	*学外授業 (講義中に1講義を充当予定、時期は受講生と相談して決める)		
教科書・指定図書・参考図書等			
参考図書等： 適時に示す			
評価方法	出席率／講義での議論参画／ワークショップ時の提出物／仮想プロジェクトの構想 4点で総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く＋聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので、議論には積極的に参画すること	
	個別	講義期中は日常的に様々なマスメディアのコンテンツに意識的に触れ、発信者・受信者の両サイドを体感し、メディア理解・コミュニケーション設計の基礎体力をつけてほしい。＜努力目標＞	

2016年度 大学院シラバス 開講学期：春学期

科目名 (和文)	モビリティ・マーケティング		
科目名 (英文)	Mobility Marketing		
サブタイトル	都市が変われば、マーケティングも変化する		
カリキュラム群	最新ビジネス実践知／顧客創造		
担当教員	加藤 肇	メールアドレス	kato-h@tama.ac.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
<p>駅ナカ、駅ビルをはじめ、駅前のショッピングセンターなど、近年、生活者の日々の移動空間が急激に商業施設化し、これまで存在しなかった都市特有のマーケットとして急成長をはじめている。講義では、この商業施設化が進む移動空間をモビリティ・マーケットと位置づけた上で、規模や消費特性、背景にあるインサイト（消費の深層心理）などを理解するとともにその攻略法を習得する。</p>			
講義要旨			
<p>モビリティ・マーケットの理解と攻略法の習得のためにワークショップを通じた参加型、実践重視の学習を行う。近年、注目を集めるインサイト（消費の深層心理）の発見法やスマートフォンアプリの活用法、O2O（online to offline）や移動者マーケティング、モビリティ・マーケットならではの業態開発など、多様なソリューションを活用するモビリティ・マーケティングの実践を学ぶ。</p>			
講義概要全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分			
第1講	<p>■モビリティ・マーケティングの背景 今、なぜモビリティ・マーケットなのか。戦前、戦後の首都圏の都市環境の変化を学び、そこからモビリティ・マーケティングという新しい戦略コンセプトが生まれた背景とその可能性について考察する。</p>		
第2講	<p>■モビリティ・マーケットの消費特徴と心理 定量調査を通じて発見したモビリティ空間に特有の消費特徴を理解する。その上で、ビジュアル刺激法や行動観察調査等、注目を集める調査法から解き明かされた特有のインサイトについて理解を深める。</p>		
第3講	<p>■駅ナカ、駅ビルのビジネスモデルとマーケティング モビリティ・マーケットに特有の消費を上手く取り込む駅商業施設のビジネスモデルについて理解する。なぜ、駅ナカは成功したのか。駅ビルの躍進とは。移動空間に存在する商業施設の成功要因を理解する。</p>		
第4講	<p>■モビリティ・マーケティングのフレームワーク モビリティ・マーケティングの意義と核となるソリューションを理解する。O2O（online to offline）や移動者マーケティング等の考え方の理解を深めると同時に、プランニングのフレームワークを学ぶ。</p>		
第5講	<p>■スマートフォンアプリを活用したマーケティングとその開発法（仮題）／ゲストによる講義を予定 スマートフォンアプリ開発の専門家をお迎えし、モビリティ・マーケット攻略のためのスマートフォンの活用法やアプリの開発法について学ぶ。実際にアプリ開発のプランニングを体験する。</p>		
第6講	<p>■実践ワークショップ① グループワークを通じて、モビリティ・マーケティングのプランニングを体験する。ワークショップ①では、課題の発表（オリエンテーション）の後に、キーとなるインサイトの発見を進める。</p>		
第7講	<p>■実践ワークショップ② 引き続きグループワークを通じて、モビリティ・マーケティングのプランニングを体験する。ワークショップ②では、インサイトを満足しうるプロポジション（提案）を見つけ出しアイデアを開発する。</p>		
第8講	<p>■ワークショップの結果発表と意見交換 グループワークを通じて導き出されたアイデアをグループごとにプレゼンテーション。各チームのアイデアを評価する。最後に、モビリティ・マーケティングに関する意見交換を行い講義は終了。</p>		
教科書・指定図書・参考図書等			
参考図書：移動者マーケティング - 移動を狙えば買うは作れる -			
評価方法	出席率／講義議論参画度／グループでの最終プレゼンテーション 3点の総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く＋聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論には積極的に参画すること	
	個別	事前学習の必要はないが、事前の商業施設見学や消費実態の記述等、簡単な課題を出題する。	

2016年度 大学院シラバス 開講学期：秋学期

科目名 (和文)	ビジネスデータ分析と戦略策定		
科目名 (英文)	Business data analysis and strategy design		
サブタイトル	データ分析のサイエンスが書き換える戦略思考の発想法と実践		
カリキュラム群	実践知考具／顧客創造		
担当教員	栗山 実	メールアドレス	minoru.kuriyama@antecanis.com
講義目的 (学修の到達目標)			
<p>企業経営の包括的指針としての「戦略」をデータ分析に基づいて設計する思考技術を理解することを目指します。データ分析技術自体の追求を目的とするのではなく、データ分析を戦略策定の道具として扱い、それがどのように戦略思考の俯瞰的な視野、顧客起点の発想を形作るのか、勘と意思につきに頼る旧来の発想とは違う視点を体得します。</p>			
講義要旨			
<p>統計学や分析手法の勉強に傾倒するのは避け、古典的なアンケート調査から流行のビッグデータ解析までをあくまで道具として考えながら、データ分析に立脚して経営上の戦略策定や意思決定を行う様々なケースを取り上げます。企業経営の具体的な課題を設定してワークショップ型の演習を行い、議論を重ねることで、小手先のデータいじり技術ではなく、データに基づく意思決定・戦略策定の根底にある発想を理解し、自ら考え自律的に実践する感覚を醸成します。</p>			
講義概要全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分			
第1講	<p>導入：経営戦略策定とビジネスデータの概観 そもそも「戦略」とは何か、「データ」とは何か、「戦略×データ」を語る上で必要な要素を概観する</p>		
第2講	<p>応用<1>：経営の地図 戦略的な経営指針を空間的に描き出す (例：市場の可視化、顧客の特徴把握、クラスタリング)</p>		
第3講	<p>応用<2>：手段と結果 経営目的達成のための行動決定を下す (例：4P 施策の選択、因果関係の特定、効果測定、予測と最適化)</p>		
第4講	<p>技術<1>：データの表現 戦略思考・決断のためのデータ表現を設計する (例：情報の構造、グラフ表現、戦略のための可視化)</p>		
第5講	<p>技術<2>：データの取得 戦略策定のためのデータ取得を設計する (例：販売履歴DB、会員制度、ウェブサーベイ、FGI)</p>		
第6講	<p>総合<1>：戦略策定プロジェクト 戦略策定を実際に行うまでの実務プロセスを習得する (設計・情報取得・分析・表現・戦略策定・意思決定)</p>		
第7講	<p>総合<2>：組織改革プロジェクト データに基づく戦略策定が根付く組織を考える (基盤整備、能力構築、意識改革、人材育成・配置・採用)</p>		
第8講	<p>まとめ： 総論・将来展望</p>		
教科書・指定図書・参考図書等			
教科書：講義の際にレジュメ配布			
指定図書：なし			
参考図書等：講義中に適宜			
評価方法	出席率／講義議論参画度／最終レポート 3点の総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く＋聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので、議論には積極的に参画すること	
	個別	<ul style="list-style-type: none"> ・事前の前提知識は特に求めません。 ・講義内容・進度は、参加者の意向や理解度に合わせて調整することがあります。 ・講義の時間は、自ら考え積極的に議論や演習を行う参加型の形式を取ります。 	

2016年度 大学院シラバス 開講学期：秋学期

科目名 (和文)	日本の流通構造とS C M (サプライ・チェーン・マネジメント) のメガトレンド		
科目名 (英文)	The distribution structure and mega-trend of Supply chain management in Japan		
サブタイトル	流通構造の形成過程を通して、実践的な戦略立案の視野を広めよう		
カリキュラム群	実践知考/具顧客創造		
担当教員	西田 邦生	メールアドレス	k.nishida@kpost.kokubu.co.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
サプライチェーンマネジメントやマーケティング戦略を立案する実践的な能力を養成する。日本のライフラインとも言える流通インフラは、ミクロ的なシステムの合理性や、事業としての経済性だけで成り立っているわけではなく、寄って立つ流通構造の形成過程における必然性や蓋然性に大きく影響を受けて形成される。本講では日本の市場経済の始まりから流通構造の成立の「理」を洞察し、現状の課題の解説と、大きく変化しつつある今後の流通のメガトレンドを展望する。			
講義要旨			
日本の流通構造は 1)中間流通を有する多段階構造、2)多店舗・多メーカーの多事業者構造、3)高品位な精度を伴う特異構造が特徴である。この構造の成立の理由を紐解きながら、その中で機能するサプライ・チェーンのあり方を、歴史や諸外国、グローバルなS C M企業の検証に基づき解説し、さらに現状を踏まえ、オムニチャネルのメガトレンドに言及する。			
講義概要全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分			
第 1 講	ガイダンス：本講義の概要と講義目的 1) 日本の流通構造の特徴 2) S C Mの起源と問題提起 3) インターネットの発展によるEコマースの台頭とサプライチェーンへの影響について		
第 2 講	第 1 講の問題提起をうけて 1) 外資系小売業の日本進出の失敗の原因 2) 米国、欧州各国、中国、A S E A N諸国の流通の歴史・構造と関連法規の対比 3) グローバルなS C M企業の成功と蹉跎の事例を検証し、S C M形成のキーファクターについて考える。(マクドナルド、Z A R A、H & M、ユニクロ等)		
第 3 講	日本の流通の歴史<中世・近代> 1) 3大特徴の起源となる日本における市場経済のはじまり 2) コメ本位制度とも言える幕藩体制と鎖国下に成熟した「江戸システム」3) 明治維新以降の日本型流通出現と淘汰の必然性 4) 昭和初期の人工物とも言える「商店街」の意義について 5) 戦時統制経済とGHQの配給制度と占領政策が現在に残したもの		
第 4 講	日本の流通の歴史<現代> 3つの流通革命。第1次：60年代のスーパーマーケットの出現と意義、第2次：80年代E O SとP O Sが卸とメーカーへもたらした衝撃 第3次：90年のバブル崩壊に伴う製・配・販三層の構造見直しによるS C Mの発展 ポスト革命：00年～S C Mの発展・混迷とEコマースの台頭		
第 5 講	日用商品流通の最新状況と課題 及び 小売業のトレンドの考察 (小売の合従連衡、エブリディ・ロープライスとO2Oの新しいマーケティング、P B商品戦略、大都市の小型店出店、ディスカウンターの動向等)		
第 6 講	流通のメガトレンドとインターネット 1) エブリディ・ロープライスと新たなマーケティングの出現 2) 従来型サプライチェーンと新型サプライW e bの2元流通時代 3) インターネットの本質とビッグデータ 4) 事業としてのインターネット通販 5) ラスト・ワンマイルとオムニチャネル戦略の動向		
第 7 講	S C Mのためのテクニカル講義 1) ロジスティクスの変遷とS C M 2) インターネットマーケティング 3) 国際的な流通標準化と日本の現状		
第 8 講	これからの展望。1) 流通の展望 2) マクロな観点から：①システムと産業 ②人口動態と消費展望		
教科書・指定図書・参考図書等			
教科書：「ロジスティクスイノベーション第6章 (西田邦生著)」高橋輝夫+ロジスティクス共同研究会 白桃書房 指定図書：「商店街はなぜ減るのか」新雅史著 光文社新書 「マクドナルドの失敗の本質」小川孔輔 東洋経済 参考図書等：「日本の歴史19-文明としての江戸システム」鬼頭宏 講談社 「第四の消費」三浦展 朝日新書			
評価方法	出席率70% レポート20% 講義議論参画度10%		
履修留意事項	共通	実業の実践論がベースなので、講義のウェイトが高く、まず出席し理解を深めることが第一。その理解度をレポートで確認する。また可能な限り途中で問題提起するので積極的に議論参加を期待。	
	個別	出張等の止むを得ない理由の欠席は、本人の申し出があれば補講を行い欠席の救済をする。	

2016年度 大学院シラバス 開講学期：春学期

科目名 (和文)	最新ロジスティクス戦略		
科目名 (英文)	The Most Advanced Logistics Strategy		
サブタイトル	成長スピードを上げ、市場を攻略する戦略物流を学ぶ		
カリキュラム群	実践知考具／顧客創造		
担当教員	角井 亮一	メールアドレス	rio@e-logit.com
講義目的 (学修の到達目標)			
物流を用いて、ビジネスモデルを構築およびレベルアップさせている事例を研究する。多くの最新事例を学んでもらうと同時に、日々の生活の中で物流を意識してもらえようになってもらうのが最終目的。			
講義要旨			
物流における競争力とは？というテーマで、講義を行う。特に、一般では語られない最新の事例を多く提供する。レポートはないが、日頃気づいた物流の写真をもとに発表してもらう。その発表や講義内容で、ディスカッションを行う。留学生には配慮しつつ、受講生の発言数を重視する。			
講義概要全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分			
第1講	戦略物流の基本を学ぶ (物流思考) ファーストフードなどから学ぶ物流効率化 自己紹介および交流タイム		
第2講	戦略物流の基本を学ぶ (物流思考) 物流が、どう商品の売上アップに繋がるか？ どう企業力アップにつながるか？ ディスカッションタイム		
第3講	消費者行動の変化、流通の変化、ロジスティクスの変化 「流通が物流を変える」 ディスカッションタイム		
第4講	国内ネット通販企業の物流競争 Amazon 対楽天、Yahoo!&アスクル 受講者からのショートプレゼン (各自10分)		
第5講	ラストワンマイルが勝負の宅配ビジネスとロジスティクス セブン&アイグループのオムニ7、カクヤス、宅弁ビジネス、ネットスーパー 受講者からのショートプレゼン (各自10分)		
第6講	米国オムニチャネル事例とロジスティクス 米国流通事例、ネット&リアルの競争、アマゾンの対抗戦略 受講者からのショートプレゼン (各自10分)		
第7講	外部講師 ※受講者に合わせて選定 受講者からのショートプレゼン (各自10分)		
第8講	最新物流ビジネス事例の紹介 UBER、Instacart、Curbside、Google Express 受講者からのショートプレゼン (各自10分)		
教科書・指定図書・参考図書等			
教科書：「物流がわかる (日経文庫)」 指定図書：「オムニチャネル戦略 (日経文庫)」 参考図書等：「図解 基本からよくわかる物流のしくみ」			
評価方法	出席率 50%/講義議論参画度 20%/発表 30% 3点の総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く+聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論には積極的に参画すること	
	個別	<ul style="list-style-type: none"> ・講義から学ぶだけでなく、受講者同士の交流や議論を重視して、講義を進めます。 ・発言内容の正誤に関係なく、発言することを重視します。 	

2016年度 大学院シラバス 開講学期：春学期

科目名 (和文)	ヒューマンリソース概論 I		
サブタイトル	知識創造型企業の人事戦略		
科目名 (英文)	Human resources strategy of knowledge-creating company I		
カリキュラム群	実践知考具/リーダーシップと人事		
担当教員	徳岡 晃一郎	メールアドレス	tokuoka@tama.ac.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
経営戦略を実行に移すための鍵となる人事戦略の基本および知識経営時代の新しい人事戦略について理論と事例を基に考える。			
講義要旨			
変化とスピードの時代を迎えて、企業にはイノベーションやグローバル化、ダイバーシティを軸にした成長戦略を実現するダイナミックな経営が求められている。その一方で、社内のモチベーションや求心力は危機に瀕している。この壁を乗り越えるには、社員の成長と企業の成長を両輪とした成果主義中心の人事戦略を再構築しなくてはならない。そのような新たな人事のあり方を知識経営の文脈の中で検討し、知識創造型企業への転換にどのように人事が貢献できるのか考えていく。概論 2 を受講する方はこちらを先に受講のこと。			
講義概要全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分			
第 1 講	人事戦略の基礎 1：人事管理の目的、主な領域と課題、これまでの主な人事戦略のフレームワーク		
第 2 講	人事戦略の基礎 2：経営戦略論と人事戦略の関係、知識創造と人事戦略の関係		
第 3 講	評価制度：これまでの評価制度の概要（年功制と成果主義）と功罪。なぜ知が創造されなくなったのか？		
第 4 講	職能資格制度の課題と知識創造		
第 5 講	成果主義の課題と知識創造		
第 6 講	コンピテンシーの新たな潮流		
第 7 講	ゲストスピーカーセッション：知識創造を実践している企業の人事部長を招いて		
第 8 講	知識創造型人事部とは		
教科書・指定図書・参考図書等			
「人事異動」徳岡晃一郎著、新潮社 「MBB：思いのマネジメント」一條和生、徳岡晃一郎、野中郁次郎著、東洋経済新報社 「AIx ビッグデータ人事を変える」福原正大、徳岡晃一郎著、朝日新聞社			
評価方法	出席率／講義議論参画度／最終レポート 3 点の総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く＋聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論には積極的に参画すること	
	個別	なし	

2016年度 大学院シラバス 開講学期：秋学期

科目名 (和文)	ヒューマンリソース概論Ⅱ		
サブタイトル	知識創造型企業の人事戦略		
科目名 (英文)	Human resources strategy of knowledge-creating company Ⅱ		
カリキュラム群	実践知考具/リーダーシップと人事		
担当教員	徳岡 晃一郎	メールアドレス	tokuoka@tama.ac.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
経営戦略を実行に移すための鍵となる知識経営時代の新しい人事戦略について理論と事例を基に考える。			
講義要旨			
変化とスピードの時代を迎えて、企業にはイノベーションやグローバル化、ダイバーシティを軸にした成長戦略を実現するダイナミックな経営が求められている。その一方で、社内のモチベーションや求心力は危機に瀕している。この壁を乗り越えるには、社員の成長と企業の成長を両輪とした成果主義中心の人事戦略を再構築しなくてはならない。そのような新たな人事のあり方を知識経営の文脈の中で検討し、新しい人事の役割を考えていく。特に2では、MBBを中心に議論。1を受講済みであることが、2の受講条件です。			
講義概要全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分			
第1講	新しい資本主義と知識経営		
第2講	成果主義を超える人事		
第3講	MBB (Management by Belief) 概論		
第4講	MBB 概論2		
第5講	セルフコーチング演習		
第6講	思いのピラミッド演習		
第7講	ゲストスピーカーセッション：MBBを実践している企業の人事部長を招いて		
第8講	知識創造型人事部とは		
教科書・指定図書・参考図書等			
「シャドーワーク」一條和生、徳岡晃一郎著、東洋経済新報社 「MBB：思いのマネジメント」一條和生、徳岡晃一郎、野中郁次郎著、東洋経済新報社 「MBB：思いのマネジメント実践ハンドブック」徳岡晃一郎、舞田竜宣著、東洋経済新報社 「イノベーターシップ」徳岡晃一郎著、東洋経済新報社			
評価方法	出席率／講義議論参画度／最終レポート 3点の総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く+聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論には積極的に参画すること	
	個別	なし	

2016年度 大学院シラバス 開講学期：春学期

科目名 (和文)	インナーコミュニケーション		
サブタイトル	組織変革を進めるチェンジマネジメントコミュニケーション		
科目名 (英文)	Internal communication strategy		
カリキュラム群	実践知考具/リーダーシップと人事		
担当教員	徳岡 晃一郎	メールアドレス	tokuoka@tama.ac.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
経営戦略を実行に移すためには、社員を動かすことが必要であり、その鍵がコミュニケーション。企業変革を進めるコミュニケーション戦略について理論と事例を基に考える。			
講義要旨			
変化とスピードの時代を迎えて、企業はイノベーションや戦略の転換、M&Aやリストラなどさまざまな変革を迫られているが、社員の意識がついてこないために失敗する例は枚挙に暇がない。社員を的確に動機づけ、変革へ向けて意識改革を行い、行動に駆り立てるか。その成否を握る社内コミュニケーションのあり方について事例を基に研究する。			
講義概要全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分			
第1講	社内コミュニケーションの基礎(1)：社内コミュニケーションの目的、主な領域と課題		
第2講	社内コミュニケーションの基礎(2)：社内コミュニケーションのフレームワーク		
第3講	コーポレートコミュニケーション戦略と社内コミュニケーション		
第4講	モチベーションを高める場づくりのコミュニケーションスキル演習		
第5講	変革を推進するチェンジマネジメントコミュニケーション戦略		
第6講	リーダーシップコミュニケーション (1)：コミュニティ開拓者		
第7講	リーダーシップコミュニケーション (2)：針路設定者		
第8講	リーダーシップコミュニケーション (3)：変革の仕掛け人		
教科書・指定図書・参考図書等			
「リーダーシップ・コミュニケーション」ロバート・メイ、アラン・エイカーソン、徳岡晃一郎訳、ダイヤモンド社 「ミドルの対話型勉強法」徳岡晃一郎、ダイヤモンド社			
評価方法	出席率/講義議論参画度/最終レポート 3点の総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く+聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論には積極的に参画すること	
	個別	なし	

2016年度 大学院シラバス 開講学期：秋学期

科目名 (和文)	カルチャーベースマネジメント		
サブタイトル	知識創造の企業文化戦略		
科目名 (英文)	Management by Corporate Culture		
カリキュラム群	実践知考具/リーダーシップと人事		
担当教員	徳岡 晃一郎	メールアドレス	tokuoka@tama.ac.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
企業文化が戦略の成功や企業の成長にもたらす効果について検討し、どのように企業文化を育てるのかを実例を通じて学ぶ。			
講義要旨			
強欲、株主価値至上主義などが問われ、新たな資本主義のあり様が模索されるなか、これまでの論理分析主体の左脳経営の時代は終わりを告げ、真に豊かなイノベーションを求めて人のつながりや組織的知識創造が重要になってきている。そのカギは自律的行動を促す濃密な企業文化だ。一人ひとりが、共通善に向けたよりよい成長を志向する価値観を共有する企業文化がないところにより戦略は描けない。イノベーションの時代の企業文化の価値とマネジメント手法について考える。			
講義概要全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分			
第1講	企業文化とは何か。企業文化と経営戦略		
第2講	企業文化のマネジメント		
第3講	賢慮の戦略論。共通善とビジネス成果の両立		
第4講	スターバックスの企業文化戦略1：スターバックスからのゲストとの共同セッション		
第5講	スターバックスの企業文化戦略2：スターバックスからのゲストとの共同セッション		
第6講	日産の企業文化戦略1：日産自動車からのゲストとの共同セッション		
第7講	日産の企業文化戦略2：日産自動車からのゲストとの共同セッション		
第8講	企業文化とグローバル化。日本の企業文化はどう変わるべきか		
教科書・指定図書・参考図書等			
「ハードシングス」ベン・ホロウィッツ著、小澤隆生訳、日経BP社 「スターバックス成功物語」ハワード・シュルツ著、大川修二他訳、日経BP社 「スターバックス再生物語」ハワード・シュルツ著、月沢李歌子、徳間書店			
評価方法	出席率/講義議論参画度/最終レポート 3点の総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く+聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論には積極的に参画すること	
	個別	なし	

2016年度 大学院シラバス 開講学期：春学期

科目名 (和文)	ストレスマネジメントと精神回復力		
科目名 (英文)	Stress Management and Resilience		
サブタイトル	心身医学・行動科学的観点から見たストレスマネジメントと意識改革		
カリキュラム群	実践知考具 / リーダーシップと人事		
担当教員	水木 さとみ	メールアドレス	smizuki@mhi-inc.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
ストレスマネジメントの意義を理解し、それぞれの職場環境の中で状況に応じた対応法を習得する			
講義要旨			
<p>心理・社会的ストレスは身体に影響を及ぼし、様々な症状を誘発することは医学的にも明らかになっている。仕事をし ていく上で予期せぬ出来事やハプニングに遭遇しながらも目的に向かって進んでいかななくてはならない。逆境の中、自己 のもつ能力を最大限に発揮する手段としてストレスマネジメントがあると言っても過言ではない。本講座は、心理学・行 動科学、さらに心身医学的観点からストレスマネジメントと精神回復力を養うノウハウを実践的に習得すると共に、組織 向上を目指して部下へのメンタルサポートにも触れる。是非、職場のストレスマネジメントに役立てて頂きたい。</p>			
講義概要全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分			
第1講	トライアル / 心理・社会的ストレスが招く身体化のメカニズム ～ 思考と感情が身体に与える影響 ～		
第2講	心理学・行動科学的観点からみるストレスコーピング ～ 対人関係ストレスをミニマムにするには ～		
第3講	逆境に立ち向かうストレスマネジメント ～ 自己効力感 レジリエンスを交えて ～		
第4講	組織力強化と育成 ～ ラポールとモチベーション、フロー理論を交えて ～		
第5講	マインドアップと行動変容 ～ 行動変容ステージからみる意識改革 ～		
第6講	現代社会におけるストレス性疾患 ～ 適切な取り組みと早期発見 ～		
第7講	精神的な問題を抱える社員の対応法 ～ 従業員を救うメンタルサポート ～		
第8講	フィードバック / 新たな取り組み ～ 本講座を通して何を学んだか? 今後の活かし方を具体化する ～		
教科書・指定図書・参考図書等			
本気でつくるチーム・コーチング / MBB「思い」のマネジメント; 徳岡晃一郎 不安・うつは必ず治る; 山田和夫			
評価方法	出席率/講義議論参画度/最終レポート 3点の総合評価		
履修留意 事項	共通	《読む・書く+聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論には積極的に参画すること	
	個別	なし	

2016年度 大学院シラバス 開講学期：秋学期

科目名 (和文)	実践組織変革		
科目名 (英文)	Organizational Change		
サブタイトル	組織変革のマネジメントと研究の方法論		
カリキュラム群	実践知考具/リーダーシップと人事		
担当教員	浜田 正幸	メールアドレス	hamada-m@tama.ac.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
<p>① 組織論・組織マネジメント・組織イノベーションに関する基本的な知識と理論・モデルを習得する。 ② 組織変革に関する論文を読み込む事によって、経営学・組織論の研究方法を習得する。</p>			
講義要旨			
<p>○ 受講者が組織変革の事例を発表し、それについて様々な角度からディスカッションする。 ○ 組織変革に関する論文を読み込み、経営学研究の方法論についてディスカッションする。 ○ 全講ともディスカッションを中心に進めていく。</p>			
講義概要全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分			
第 1 講	ガイダンス、本講全体の概要と方向性の説明		
第 2 講	事例の紹介 (発表) とそれに関するディスカッション		
第 3 講	事例の紹介 (発表) とそれに関するディスカッション		
第 4 講	事例の紹介 (発表) とそれに関するディスカッション		
第 5 講	事例の紹介 (発表) とそれに関するディスカッション		
第 6 講	論文の読み込み (発表) と経営学研究の方法論に関するディスカッション		
第 7 講	論文の読み込み (発表) と経営学研究の方法論に関するディスカッション		
第 8 講	本講全体のレビュー		
教科書・指定図書・参考図書等			
参考図書： 『組織論再入門』 野田稔 ダイヤモンド社 『組織デザイン』 沼上幹 『経営組織』 金井壽宏			
評価方法	発表 50% / 講義議論参画度 40% / 出席率 10% 3 点の総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く+聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので、議論には積極的に参画してください。	
	個別	統計学の基礎的知識がないと論文が読めないなので、わからない方は自習してください。	

2016年度 大学院シラバス 開講学期：春学期

科目名 (和文)	ケーススタディ 組織を動かす変革型リーダーシップ論		
科目名 (英文)	Case study - Innovative Leadership for Organization Development & Change Management		
サブタイトル	人や組織は変わることができるのか		
カリキュラム群	実践知考具／リーダーシップと人事		
担当教員	迫川 史康	メールアドレス	sakogawa@hrbc.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 魅力的な経営リーダーの特徴および有効なリーダーシップスタイルについて理解・考察を深める 2. 企業における経営リーダーの事例に触れ、その有効性について考察を深める 3. 今後の経営リーダーの育成方法または自身の成長に向けての考察を深める 			
講義要旨			
<p>変化の激しいビジネス環境の中、人と組織を牽引する魅力的なリーダーおよびリーダーシップの発揮例について、ビジネスケースを用いて討議する。経営人財早期選抜制度など次世代リーダー育成に積極的に取り組む企業がある一方で、その成果および育成プロセスは未だ発展途上である。本講義では、既存のビジネスモデル（儲ける仕組み）を牽引するだけでなく、新たなビジネスモデルを創造するイノベーションを人と組織の両面から考察し、自身の成長につなげることを目指す</p>			
講義概要全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分			
第1講	人や組織は変わることができるのか、変化できる条件とその阻害要因は何か 代表的なリーダーシップ論を理解し、変革に必要なリーダーシップとは何かを考察する		
第2講	衰退企業の変革事例と変革のリーダーシップ ケーススタディ：アサヒビールを討議する		
第3講	ビジネスモデル（儲ける仕組み）の創造とリーダーシップ ケーススタディ：ヤマト運輸を討議する		
第4講	組織分割と権限移譲、社内で次世代リーダーを生み出す土壌 ケーススタディ：松下電器産業を討議する		
第5講	組織マネジメントと組織変革の要諦 ケーススタディ：ミスミグループ本社を討議する		
第6講	経営統合における組織文化の構築と現場への権限委譲 ケーススタディ：協和発酵キリンを討議する		
第7講	新たなビジネスモデルの構築と企業内起業家のリーダーシップ ケーススタディ：青梅慶友病院を討議する		
第8講	時間内にケース分析のレポート作成		
教科書・指定図書・参考図書等			
各講義前に使用ケース、必読図書、参考図書を随時案内する			
評価方法	出席率 (25%) / 講義議論参画度 (50%) / レポート (25%) 3点の総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く＋聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので、議論には積極的に参画すること	
	個別	講義で使用するケース内容または使用順序を変更する場合がある 各講義前に案内される必読図書、参考図書を一読し、自分の意見を準備して出席すること	

2016年度 大学院シラバス 開講学期：春学期

科目名 (和文)	ファイナンス基礎 I (経営財務)【FP資格必修】		
科目名 (英文)	Finance I		
サブタイトル	金融・財務の基礎を学ぶ		
カリキュラム群	実践知考具/ファイナンス戦略		
担当教員	宇佐美 洋	メールアドレス	usami@tama.ac.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
ファイナンス分野の背景にある重要な概念や教訓を丁寧に説明し、金融、財務、会計、事業評価・リスクマネジメントの基礎習熟と「仕組み」の把握に重点を置く。			
講義要旨			
現在価値、ポートフォリオ理論、投資、資本調達、資本構成など、ファイナンスマネジメントの幅広い基礎知識に習熟する。			
講義概要全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分			
第 1 講	パーソナルファイナンスとコーポレートファイナンス		
第 2 講	財務諸表分析入門 無裁定価格と財務意思決定		
第 3 講	お金の時間価値 利子率		
第 4 講	投資の意思決定法 資本予算		
第 5 講	債券評価 株式評価		
第 6 講	リスクとリターン ポートフォリオ理論		
第 7 講	資本コストの推定 負債の資本コスト		
第 8 講	資本構成 負債と税		
教科書・指定図書・参考図書等			
教科書：「コーポレートファイナンス入門編」バーク/ディマーズ著、ピアソン、2011年 参考図書：「パーソナルファイナンス」アルトフェスト著伊藤他訳、日本経済新聞社、「FPテキスト パーソナルファイナンス」日本FP協会			
評価方法	出席率/講義議論参画度/最終レポート 3点の総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く+聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論には積極的に参画すること	
	個別		

2016年度 大学院シラバス 開講学期：秋学期

科目名 (和文)	ファイナンス基礎Ⅱ (リスクマネジメント)【FP資格必修】		
科目名 (英文)	Finance Ⅱ		
サブタイトル	ファイナンスの応用分野を学ぶ		
カリキュラム群	実践知考具/ファイナンス戦略		
担当教員	宇佐美 洋	メールアドレス	usami@tama.ac.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
<p>ファイナンスの応用編として、主に資本構成、配当政策、資本予算、企業評価、デリバティブ、M&A、企業再編、コーポレートガバナンス、保険やデリバティブを使ったリスクマネジメントなどの重要な諸課題について、ファイナンス理論および新しい経済学からみた考え方を学ぶ。</p>			
講義要旨			
<p>ガバナンス、企業再編、M&A、および保険、先物、スワップ、オプションなどの新しいリスク管理手段の仕組みまで、広くファイナンスの応用分野をカバーする。</p>			
講義概要全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分			
第1講	パーソナルファイナンスと保険 財務危機と企業		
第2講	資本予算と企業評価 ファイナンスモデルの作成		
第3講	オプション オプションの評価		
第4講	リアルオプション 株式資本調達		
第5講	負債による資金調達 リース契約		
第6講	運転資本管理 短期ファイナンスプランニング		
第7講	M&A コーポレートガバナンス		
第8講	リスクマネジメント		
教科書・指定図書・参考図書等			
教科書：「コーポレートファイナンス応用編」バーク/ディマーズ著、ピアソン、2011年			
参考図書：「パーソナルファイナンス」アルトフェスト著伊藤他訳、日本経済新聞社、「FPテキスト リスクマネジメント」日本FP協会			
評価方法	出席率/講義議論参画度/最終レポート 3点の総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く+聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論には積極的に参画すること	
	個別	なお必要になる基礎知識 (ファイナンスマネジメント概論Ⅰのレベル) については、講義のはじめに開講日に要点を学習するので、概論Ⅰは取らずに、この講義だけを履修することも可能です。	

2016年度 大学院シラバス 開講学期：秋学期

科目名 (和文)	企業会計・簿記入門		
科目名 (英文)	Basic and practical knowledge of accounting for business person		
サブタイトル	社会人のための会計基礎知識		
カリキュラム群	実践知考具/ファイナンス戦略		
担当教員	井村順子	メールアドレス	j.imura@sc.dens.ne.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
現代の社会人にとって、企業会計及び簿記の基礎的な知識は、不可欠な要素となっている。本講義を通じて企業会計の基礎と実務上の論点を同時に学ぶ。			
講義要旨			
財務諸表の基本的な理解に始まり、重要論点を各回に学ぶとともに、最終的にはディスクロージャー制度を理解することで有用に財務諸表を利用するための知識を身につける。			
講義概要全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分			
第 1 講	財務諸表とは何か～簿記の仕訳から財務諸表ができるまでの仕組み		
第 2 講	個別論点～収益認識		
第 3 講	個別論点～棚卸資産、原価計算		
第 4 講	個別論点～固定資産		
第 5 講	個別論点～金融商品会計 キャッシュフロー計算書		
第 6 講	個別論点～税効果会計		
第 7 講	連結財務諸表		
第 8 講	ディスクロージャー制度		
教科書・指定図書・参考図書等			
教科書：財務会計講義 桜井久勝 (中央経済社) 参考図書等：会社「経理・財務」入門 金児昭 (日本経済新聞出版社)、タックスプランニング (日本FP協会)、実学 稲盛和夫 (日本経済新聞社)			
評価方法	講義議論参画度/最終レポートの総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く+聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので、議論には積極的に参画すること	
	個別		

2016 年度 大学院シラバス 開講学期：春学期

科目名 (和文)	企業分析と経営指標 (KPI)		
科目名 (英文)	Corporate Analysis and Key Performance Indicators		
サブタイトル	企業価値創造のための 10 の経営指標		
カリキュラム群	実践知考具／ファイナンス戦略		
担当教員	大津 広一	メールアドレス	ko@otsu-international.com
講義目的 (学修の到達目標)			
<p>企業経営者としてはもちろん、経営企画担当者、IR 担当者、経理・財務部門担当者にとって必須となる、経営戦略に合致した経営指標 (KPI) を選別し、理論に適合した目標水準を設定した上で、これを社内外に対して的確にコミュニケーションすることのできるスキル修得を目指します。</p>			
講義要旨			
<p>第 1 講は、企業価値を定義し、経営指標は中長期的に企業価値を高めるための代替手段であることを明確にします。第 2 講から第 6 講は、10 の経営指標 (KPI) を取り挙げて、①その指標を目標に掲げる意義、②目指すべき水準に関する理論的な根拠の明確化、③指標を高めるための具体的な施策、④経営指標を戦略的に活用する先進企業のケーススタディ について、講義と討議を行います。第 7 講は、グループまたは個人ワークによって選定した企業の経営戦略と目指すべき経営指標 (KPI) について、レポート作成、プレゼンテーションを実施します。第 8 回は、期末試験を行います。</p>			
講義概要全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分			
第 1 講	<p>企業価値を明確に定義し、すべての経営指標は中長期的に企業価値を高めるための代替手段であることを明確にします。企業価値の源泉となる FCF および WACC を知り、企業価値向上のための施策を整理します。簡易な決算書から主要な 10 の経営指標の計算演習を行います。</p>		
第 2 講	<p>ROE、ROA について、①指標を目標に掲げる意義、②目指すべき水準に関する理論的な根拠の明確化、③指標を高めるための具体的な施策、④経営指標を戦略的に活用する先進企業のケーススタディ (コマツ、ブリヂストン他) について、講義と討議を交えて学習します。</p>		
第 3 講	<p>ROIC、EVA について、①指標を目標に掲げる意義、②目指すべき水準に関する理論的な根拠の明確化、③指標を高めるための具体的な施策、④経営指標を戦略的に活用する先進企業のケーススタディ (米ウォルマート、米ジョンディア、丸紅他) について、講義と討議を交えて学習します。</p>		
第 4 講	<p>EBITDA マージン、売上高営業利益率について、①指標を目標に掲げる意義、②目指すべき水準に関する理論的な根拠の明確化、③指標を高めるための具体的な施策、④経営指標を戦略的に活用する先進企業のケーススタディ (日立製作所、ソフトバンク他) について、講義と討議を交えて学習します。</p>		
第 5 講	<p>売上高成長率、EPS 成長率について、①指標を目標に掲げる意義、②目指すべき水準に関する理論的な根拠の明確化、③指標を高めるための具体的な施策、④経営指標を戦略的に活用する先進企業のケーススタディ (ファーストリテイリング、リクシル他) について、講義と討議を交えて学習します。</p>		
第 6 講	<p>FCF 成長率、DE レシオについて、①指標を目標に掲げる意義、②目指すべき水準に関する理論的な根拠の明確化、③指標を高めるための具体的な施策、④経営指標を戦略的に活用する先進企業のケーススタディ (米 P&G、新日鐵住金他) について、講義と討議を交えて学習します。</p>		
第 7 講	<p>グループまたは個人ワークによって選定した企業の経営戦略と目指すべき経営指標 (KPI) について、事前考察準備の上でレポートを作成、当日はプレゼンテーションを行います。</p>		
第 8 講	<p>全体の履修を確認するための、期末試験を行います。</p>		
教科書・指定図書・参考図書等			
<p>教科書「企業価値を創造する会計指標入門」(大津広一著、ダイヤモンド社)、参考図書「戦略思考で読み解く経営分析入門」(大津広一著、ダイヤモンド社)</p>			
評価方法	<p>平常点評価(40%)：毎回の授業の出席、クラス討議への貢献度、3 回実施する小テスト、グループレポート・発表(30%)：第 7 講の授業時間に事前に取り組んだグループレポートの提出と発表会、試験(30%)：第 8 講の授業時間中に期末試験を実施し、理解度の確認を行います。</p>		
履修留意事項	共通	<p>各回の予習として、教科書「企業価値を創造する会計指標入門」の指定する章の読了に加えて、事前課題への準備を求めます。</p>	
	個別	<p>第 7 講は、グループまたは個人ワークによって選定した企業の経営戦略と目指すべき経営指標 (KPI) について、事前考察準備の上でレポートを作成、当日はプレゼンテーションを行います。</p>	

2016年度 大学院シラバス 開講学期：春学期

科目名 (和文)	金融論		
科目名 (英文)	F i n a n c i a l M a r k e t & E c o n o m i c S i t u a t i o n		
サブタイトル	金融市場と世界経済の動向		
カリキュラム群	実践知考具/ファイナンス戦略		
担当教員	真壁 昭夫	メールアドレス	amakabe@nifty.com
講義目的 (学修の到達目標)			
本講座の目的は、参加者が独自に、株式や為替などの金融市場の動きを通して、世界経済の状況を理解する能力を習得することを目的とする。			
講義要旨			
授業ごとに発表者を決めて、発表者が興味を持つ金融・経済の事象を材料にして、それぞれが独自に分析を行い全員参加のディスカッションを行う。ディスカッションを通して、各自の金融・経済に対する理解度を高める。適宜、外部の外部からゲストを呼び、ディスカッションに参加予定。			
講義概要全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分			
第 1 講	金融市場の基礎—株式や為替、債券市場の基本的なメカニズムについて検討する。		
第 2 講	主要金融商品の特性とその活用手法を検証する。		
第 3 講	世界経済の状況分析—現在の経済状況と今後の展開について考える。		
第 4 講	主要国の経済政策と経済状況を検討する。		
第 5 講	世界の主要投資家の動向と金融市場の動向について考える。		
第 6 講	金融市場と実体経済の連関性について検討する。		
第 7 講	米国・中国・欧州など主要国の経済状況を個別に検証する。		
第 8 講	世界経済の今後の動向とその対応策について検討する。		
教科書・指定図書・参考図書等			
教科書：特に定めない。			
指定図書：			
参考図書等：			
評価方法	出席率：40%、ディスカッションでの発言：60%、履修者と協議の上決定。		
履修留意事項	共通	《読む・書く+聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので、議論には積極的に参画すること	
	個別		

2016 年度 大学院シラバス 開講学期：春学期

科目名 (和文)	M&A 戦略と実践企業ファイナンス		
科目名 (英文)	企業価値創造と M&A 戦略のためのファイナンス		
サブタイトル	Corporate Finance for Value Creation and M&A Strategy		
カリキュラム群	実践知考具／ファイナンス戦略		
担当教員	中岡 英隆	メールアドレス	nakaoka@tmu.ac.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
最新のファイナンス理論と企業金融、ガバナンス論、資源ベースの経営戦略論を融合し、最前線の企業活動のケースを読み解きながら、企業価値や M&A 戦略、マネジメントの価値創造力についての洞察力・実践力を高める。			
講義要旨			
企業のグローバル化が進み、日本企業においても国内外での M&A 戦略が経営上の最重要課題となっている。本講義では、コーポレート・ガバナンスや Resource-Based View の経営戦略論などの視点を織り交ぜながら、オプション理論を活用した株主価値、負債価値、資産価値の評価の方法を学び、その実践的な応用を目指して、実際のケース・ワークにより企業の財務分析を行い、Excel を用いて企業価値や負債コストを測定する演習を行う。また、マネジメントによる企業価値創造力や M&A に対する市場の評価を理論的・実証的に分析し、M&A の戦略・経済性について洞察を深める。			
講義概要全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分			
第 1 講	M&A の経済性と事業価値、 資本構成と配当政策		
第 2 講	企業金融とガバナンス論、 オプションと企業価値		
第 3 講	M&A と買収防衛策の事例研究、 M&A 戦略と経営資源		
第 4 講	離散時間モデルとリスク中立化法、 離散時間モデルの Excel 演習		
第 5 講	Merton モデルと負債・資産の市場価値、 演習「TBS の買収防衛策と株主価値・負債価値」		
第 6 講	演習「市場データに基づく負債・資産価値の測定」、 事例研究「買収対象企業の財務分析」		
第 7 講	ケース「買収防衛策と株主価値・負債価値」 & 「マネジメントの経営価値創造力とイベントスタディ」		
第 8 講	ファイナンス理論の現状と課題		
教科書・指定図書・参考図書等			
教科書：毎回配布のレジュメによる。			
指定図書：[1] 中岡英隆 [2009], 「企業における資源開発事業の統合リスク評価」『ジャフィー・ジャーナル：ベイズ統計学とファイナンス』日本金融・証券計量・工学学会, 179-205, 朝倉書店。			
[2] 中岡英隆 [2011], 「マネジメントの価値創造力と M&A の評価」『ジャフィー・ジャーナル：バリュエーション』日本金融・証券計量・工学学会, 114-133, 朝倉書店。			
[3] リチャード・ブリーリー, スチュワート・マイヤーズ, 藤井真理子他訳 [2002], 『コーポレート・ファイナンス 上・下』日経 BP 社。			
[4] 木島正明, 中岡英隆, 芝田隆志 [2008], 『リアルオプションと投資戦略』朝倉書店。			
評価方法	出席率／講義議論参画度／最終レポート 3 点の総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く＋聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので、議論には積極的に参画すること	
	個別	概ね文系レベルの数学と EXCEL の知見を前提とする。	

2016年度 大学院シラバス 開講学期：秋学期

科目名 (和文)	夢を叶える実践リスクマネジメント		
科目名 (英文)	Practical Risk Management for Making Your Dreams Come True		
サブタイトル	企業理念、夢をかなえるリスクマネジメント		
カリキュラム群	実践知考具／ファイナンス戦略		
担当教員	樋渡 淳二	メールアドレス	hiwatash@msn.com
講義目的 (学修の到達目標)			
<p>リスクマネジメントの考え方を正しく理解するとともに、企業の経営理念・個人の夢を実現するためのリスクマネジメント力を各自が身につけることを目指す。講師の日銀、FRB、国際機関等での経験も踏まえ、実践で役に立つリスクマネジメントを学ぶ。タイムリーな話題について議論する。参加者の関心事項及び講義時点での様々なニュースを基に、講義内容を柔軟に変更することがある。</p>			
講義要旨			
<p>前半は、リスクマネジメントの理論、金融機関、企業における実践方法、さらに個人にどのように応用可能かを解説する。後半は、失敗事例を通じて、リスクマネジメントの重要性を解説する。そして、各自の問題意識を掘り下げる訓練を行う。数学、金融の予備知識はいらない。初心者でもわかるよう平易に解説を行う。</p>			
講義概要全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分(変更があり得る)			
第1講	実践的リスクマネジメント：誰のために、何のために行うのか		
第2講	リスクマネジメントの考え方(1)：どのようにリスクに立ち向かうのか		
第3講	リスクマネジメントの考え方(2)：なぜ、失敗するのか		
第4講	事例研究 (1)		
第5講	事例研究 (2)		
第6講	事例研究 (3)		
第7講	個人の夢をかなえるリスクマネジメント		
第8講	総括・討論		
教科書・指定図書・参考図書等			
毎回、資料を配布する			
評価方法	出席率／講義議論参画度／最終レポート 3点の総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く＋聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論には積極的に参画すること	
	個別		

2016年度 大学院シラバス 開講学期：春学期

科目名 (和文)	実践ファイナンス数学【FP資格必修】		
科目名 (英文)	Practical Mathematics for Finance Theory		
サブタイトル	基本的な数学的手法の習得を目指して		
カリキュラム群	実践知考具/ファイナンス戦略		
担当教員	小野里 光博	メールアドレス	onosato@tama.ac.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
<p>高校時代又は大学受験以来、数学を使う機会がなかった文系出身者をはじめとする数学に苦手意識を持つ受講者を対象に、経営学やファイナンス理論等を学ぶために最低限必要な数学の基本的知識と手法を習得させる。</p>			
講義要旨			
<p>理論的な厳密さや網羅性は必ずしも追求せず、高校数学の復習から初めて、解析・線形代数の基本的分野を中心に、基本概念の直感的な理解と必要最小限の数学的手法の習得を目標とする。</p>			
講義概要全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分			
第1講	基本事項の確認と金融資産運用設計への活用例		
第2講	指数関数・対数関数		
第3講	微分法(1)		
第4講	微分法(2)		
第5講	積分法(1)		
第6講	積分法(2)		
第7講	ベクトルと行列(1)		
第8講	ベクトルと行列(2)		
教科書・指定図書・参考図書等			
<p>参考図書等：レジュメを用いて講義を行う。参考図書は下記の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「モノグラフ公式集」 矢野健太郎監修・春日正文編 科学新興新社 ・「すぐわかる微分積分」、「すぐわかる線形代数」 いずれも 石村園子著 東京図書 ・「FP テキスト 金融資産運用設計」 			
評価方法	出席率及び最終レポートの総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く＋聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので、議論には積極的に参画すること。	
	個別	基本的な数学的手法の習得のため、講義中に実際に手を動かす問題演習を行う。	

2016年度 大学院シラバス 開講学期：春学期

科目名 (和文)	ファイナンスイノベーション		
科目名 (英文)	Financial Innovation		
サブタイトル	市場シミュレーション・ゲームで先端的金融知識を集中で学ぶ		
カリキュラム群	最新ビジネス実践知／成長市場		
担当教員	伊藤 祐輔	メールアドレス	itoy@simplexinst.com
講義目的 (学修の到達目標)			
<p>現在の企業経営においては、市場経済を含む金融知識の有無が決定的な要素となります。このことは多くの一流企業がIR戦略を重要視していることから明らかでしょう。</p> <p>当講義は、株式市場を通じて金融や経済の幅広い知識を身につけることを目的としています。</p>			
講義要旨			
<p>講義では1人1台のPCを用いて「株式投資シミュレーション」および「株価指数先物シミュレーション」に参加します。シミュレーションを使うことで、市場のメカニズム・ダイナミズムを体感することが可能となり、「講義」→「シミュレーション」→「解説」の流れを繰り返すことで知識を定着させ応用する力を養います。普段何気なく接しているニュースの見方が変わり、金融や経済をより身近なものにでき、企業経営に役立てることを目的としています。</p>			
講義概要全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分			
第1講	金融と資本市場の仕組みを学ぶ		
第2講	市場価格形成のメカニズムを学ぶ		
第3講	金利、株価、為替の変動要因を学ぶ1		
第4講	金利、株価、為替の変動要因を学ぶ2		
第5講	株式市場のメカニズムを学ぶ1		
第6講	株式市場のメカニズムを学ぶ2		
第7講	デリバティブ入門1		
第8講	デリバティブ入門2		
教科書・指定図書・参考図書等			
<p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「相場力アップドリル株式編」矢口新著 パンローリング ・「キャッシュフローでわかる入門金融工学」シプレクス・テクノロジー 著 秀和システム ・先物・オプション&mini かんたん入門ガイド (大阪取引所) 			
評価方法	レポート55%、シミュレーション結果35%、講義中のディスカッション10%		
履修留意事項	共通	<p>大阪取引所から公開されている、「OSE先物・オプションシミュレーター」に登録の上、シミュレーションを受講前に実施するようにしてください。</p> <p>このサイトでは先物とオプションの基礎が学べるようになっており、講義の予習になります。ログイン後に表示されるシナリオをすべて実施しておいてください。</p> <p>■「OSE先物・オプションシミュレーター」URL http://www.fopstudy.com/ ※MacOSでは利用できません。WindowsOSをご利用ください。</p>	
	個別	なし	

2016年度 大学院シラバス 開講学期：春学期

科目名 (和文)	経営基盤のための法と経済学【FP資格必修】		
科目名 (英文)	Law & Economics		
サブタイトル	経済学で法を読み解く		
カリキュラム群	実践知考具／経営基盤マネジメント		
担当教員	宇佐美 洋	メールアドレス	usami@tama.ac.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
<p>経済環境の急激な変貌にともない、企業をとりまく制度などビジネスの「土俵・枠組み」もめまぐるしく変化している。経営に携わる者がこのような環境を読み解くには、法律や制度を経済学で分析する視点を身に着けることがきわめて有効な武器となる。</p>			
講義要旨			
<p>まず、ビジネスマンに必要となる経済学、会計、ファイナンス、統計などの基礎知識を学び、そのあとに経済の視点から法律の構造を読み解く手法「法の経済分析」あるいは「法と経済学」と称される分野を講ずる。</p>			
講義概要全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分			
第1講	「法と経済学」入門 決定分析		
第2講	ゲームと情報 契約		
第3講	契約 会計		
第4講	ファイナンス ミクロ経済学		
第5講	財産法の経済分析 不法行為法の経済分析		
第6講	契約の経済分析 民事訴訟法の経済分析		
第7講	公的機関による法の実現 刑法の経済分析		
第8講	法の経済分析のための統計学		
教科書・指定図書・参考図書等			
<p>教科者：「数理法務概論」H.ジャクソン/S.シャベル他著、有斐閣、2014年、 参考書：「パーソナルファイナンス」アルトフェスト著伊藤他訳、日本経済新聞社、「FPテキスト 不動産運用設計」日本FP協会</p>			
評価方法	出席率／講義議論参画度／最終レポート 3点の総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く＋聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論には積極的に参画すること	
	個別		

2016年度 大学院シラバス 開講学期：秋学期

科目名 (和文)	経営法務とガバナンス 【FP資格必修】		
科目名 (英文)	Economics, Organization & Management		
サブタイトル	経営課題を経済学で新たに読み解く		
カリキュラム群	実践知考具／経営基盤マネジメント		
担当教員	宇佐美 洋	メールアドレス	usami@tama.ac.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
最新の経済学の視点から、「企業」や「組織」や「雇用」や「事業承継」といった経営上の重要課題をどう捉えるかを学び、法務や制度だけでなく経営そのものを見直す視点を獲得する。			
講義要旨			
経済環境の急激な変貌にともない、経営をとりまく環境はめまぐるしく変化している。このような変化のエッセンスを理解するために、本講義では経済学の視点から組織や制度や法律の新しい見方を学ぶ。			
講義概要全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分			
第1講	組織は重要か 経済組織と効率性		
第2講	コーディネーションと動機づけ 計画と行動のコーディネーション		
第3講	限定合理性と私的情報 モラルハザードと業績インセンティブ		
第4講	リスクシェアリングとインセンティブ契約 レントと効率性		
第5講	所有と財産権 雇用政策と人的資源マネジメント		
第6講	内部労働市場 報酬と動機づけ		
第7講	投資とファイナンス コーポレート・コントロール		
第8講	組織再編 相続と事業承継		
教科書・指定図書・参考図書等			
教科書：「組織の経済学」ミルグロム／ロバーツ、NTT出版、参考図書：「ベーシック会社法入門」宍戸善一著、日経文庫、2016年、「パーソナルファイナンス」アルトフェスト著伊藤他訳、日本経済新聞社、「FPテキスト 相続・事業承継設計」日本FP協会			
評価方法	出席率／講義議論参画度／最終レポート 3点の総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く＋聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論には積極的に参画すること	
	個別		

2016年度 大学院シラバス 開講学期：春学期

科目名 (和文)	実践オペレーションズリサーチ		
科目名 (英文)	Practical Approach on Operations Research		
サブタイトル	科学的意決定法/問題解決法		
カリキュラム群	実践知考具/経営基盤マネジメント		
担当教員	中川 義之	メールアドレス	nakagawa@tama.ac.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
<p>(1) 科学的な意決定法/問題解決法であるオペレーションズ・リサーチ (以下 OR と略す) について、理解を深めその真髄を知る</p> <p>(2) 経営問題を含む様々な問題を、OR 的な視点で捉え、整理・解決する方法を修得する</p>			
講義要旨			
<p>(1) OR についてその発祥と発展の過程と歴史を解説する</p> <p>(2) 事例研究を通じて、「OR」を問題把握・整理から解決に至るまでの問題解決法として捉え、その一連のフレームワークを体得し、各受講生の探索・提起した実問題への適用を試みる</p>			
講義概要全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分			
第 1 講	オリエンテーション OR とは何か	－ 講義の狙い、進め方、要望等の確認 － 発祥の歴史、発展の経緯と現状を知る	
第 2 講	OR 問題の事例研究(1)	－ 生産、調達、物流、管理など様々な分野における OR 問題の紹介とその捉え方を理解する	
第 3 講	OR 問題の探求	－ OR 的な視点での問題の整理法の追究 － 受講生の探索した OR 問題の発表・紹介と討議	
第 4 講	OR 問題の解決法	－ 各種手法 (知考具) の理解 － EXCEL のアドインソフト SOLVER を活用した OR 問題の求解法の紹介	
第 5 講	OR 問題の事例研究(2)	－ 具体的事例をもとにした OR 問題の求解アプローチ法の紹介 － EXCEL SOLVER の 具体的活用法の修得	
第 6 講	OR 実践へ向けてのスタートアップ	－ 受講生による OR 問題探索と解決法についての発表と討議	
第 7 講	OR 問題の事例研究(3)	－ OR 実践のためのフレームワーク修得 － OR 的視点での問題解決推進手順、モデリング、(実践における) 留意点の理解	
第 8 講	総括	及び 今後の自己研鑽法についての意見交換	
参考図書 (購入の要否は 第一回目の授業を聞いた後で 判断して下さい)			
<ul style="list-style-type: none"> ・「問題解決のためのオペレーションズ・リサーチ入門」高井英造著、日本評論社、2000年 ・「離散構造とアルゴリズム (3)」室田一雄編、近代科学社、1994年 ・「戦略的 SCM」圓川 隆夫監修、日科技連出版社、2015年 ・「変革のリエンジニアリング」梶原秀之著、中川義之監修、ダイヤモンド社、2011年 			
評価方法	出席率/発表・討議参画度/最終レポート 3点の総合評価		
履修留意事項	共通	コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので、議論には積極的に参画すること 適宜、Excel が利用可能な PC を各自持参してください (初回に説明します)	
	個別	講義の目的、レベル、進め方等については初回に『詳しく』説明します。	

科目名 (和文)	プロジェクトマネジメントの基本と応用		
科目名 (英文)	Elements of Project Management		
サブタイトル	参加者の動機付けに注目したプロジェクト・マネジメントを目指して		
カリキュラム群	実践知考具／経営基盤マネジメント		
担当教員	中分 毅	メールアドレス	nakawake@nikken.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
プロジェクト・マネジメントの目的は、領域に関わらない体系だったマネジメント手法を使用し、効率的・効果的なプロジェクト運営を図ることにある。成書による学習では、この一般性が障害となって、その有効性を理解することが容易ではない。体験事例を交えた講義によって、受講者が活用における基本的視点を確立することを目標とする。			
講義要旨			
プロジェクトもマネジメントも人によって担われるという原点に立ち返り、品質・コスト・納期という三大古典的マネジメント要素および昨今重視されているコミュニケーション・マネジメントに関し、合意形成やモチベーションの保持・強化という観点を重視した実践性の高い講義とする。			
講義概要全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分			
第1講	プロジェクト・マネジメント (以下PM と略称) の源流とその歴史的展開：冷戦期、ソ連との開発競争における危機意識によって体系化されたといわれるPMの発展をたどり基本的問題意識と基礎的方法論を理解する。		
第2講	プロジェクトの成功要因・失敗要因：米国の調査事例を参照しつつ、PMの焦点を理解する上での基本となるプロジェクト・PMの成功・失敗要因、特に失敗要因について述べる。		
第3講	プロジェクトの目標や要求事項の設定：PMの出発点として本質的に重要である。そもそも目標が明確で無い場合の対応、ステイクホルダーの価値観が相反する場合の対応などを、具体的なプロジェクトを題材として論じる。ブリーフィングについてもここで触れる。 ① プロジェクトの失敗要因から見た、Goals, Objectives, Requirements Managementの重要性 ② Goals, Objectives, Requirementsの定義と相違 ③ Goals, Objectives, Requirements Management ツールとしてのブリーフィング ④ Goals, Objectives, Requirements Managementの事例		
第4講	品質マネジメント/Quality Management：三大古典的マネジメント要素(QCD)の一つである品質Qは軽視されがちであるが、目標の具体化という点で極めて重要であり、以下の3点について述べる。発展的話題として、フロント・ローディング、DSM (Design Structure Matrix) にも触れる。 ① 品質マネジメントの根本問題とは何か？ ② 品質に関するGoals, Objectives, Requirementsの設定において何が問題か？ ③ どの様に品質を作りこむのか？		
第5講	コスト・マネジメント/Cost Management 01:コストCは、民間企業の場合QCTの中で最も重要視されるマネジメント要素であるが、コスト・マネジメントは単に「予算を守ってプロジェクトを遂行する」、に留まらない。以下の3点について述べる。 ① TCM (Total Cost Management) とは何か？ ② コスト・マネジメントを行うにあたって知っておくべき必須の用語 (Term) ③ 難易度が高い建設プロジェクトを題材としたコスト・マネジメントの要点		
第6講	コスト・マネジメント/Cost Management 02:その2では、下記③を対象とする。 ④ 難易度が高い建設プロジェクトを題材としたコスト・マネジメントの肝 ここでの主要点は以下である。 ・ 建設プロジェクトを題材としたコスト・マネジメントの実相－内的な論点 ・ 建設プロジェクトを題材としたコスト・マネジメントの実相－外的な論点		
第7講	コミュニケーション・マネジメント/Project Communication Management：20世紀後半から重視されるようになったプロジェクト・コミュニケーション・マネジメントを取り扱う。 ・ コミュニケーション・マネジメントの重要性について、PMIやグローバルなコンサルタントのレポートを参照しつつ述べ、PMBOKのコミュニケーション・マネジメントの骨子を紹介する。 ・ 次に、筆者の実務経験から、PMBOKでは述べられていない重要事項について述べる。 ・ 最後に、トゥールミンの議論のモデルをベースに、コミュニケーションにおいて最も重要な相互理解の促進/誤解発生を最小化について述べる。		
第8講	プロジェクト・マネジメントの人間の側面/Human Factors in Project Management：筆者の、マネジメントする側、される側の両方の経験に基づいて「効果的/創造的なプロジェクト・マネジメントの阻害要因と、プロジェクト・マネージャーに対する教訓を述べている。加えて、米国における人間の側面についての提案を紹介する。		
参考図書 (教科書ではありません) ※参考図書や文献は、講義の際に配布します。			
評価方法	出席率／講義議論参加度／最終レポート 3点の総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く+聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論には積極的に参画すること	
	個別	受講者の業務領域、関心領域においてPM手法がどのように適用可能かを、具体的かつ主体的に検討していただきたい。	

2016年度 大学院シラバス 開講学期：秋学期

科目名 (和文)	クリティカルシンキング		
科目名 (英文)	Critical thinking		
サブタイトル	ビジネスにおける「価値創造」「課題解決」に求められる論理思考、頭の使い方		
カリキュラム群	実践知考具/経営基盤マネジメント		
担当教員	柏木 吉基	メールアドレス	kashiwagi@data-story.net
講義目的 (学修の到達目標)			
課題や原因を特定し、そこから対策を導き出すための「マインド」「思考プロセス」「手法 (ツール)」などを身に着けます。単に“論理学”を学ぶのではなく、組織の中で、多くの人の納得・共感を得て、人や組織を動かすことができる人材となることを目指します。			
講義要旨			
各回学ぶテーマを定め、そのテーマを中心に「理論」「演習」「ディスカッション」を組み合わせた講義を行います。また、「理論」と併せて、チームや個人で課題解決を進める具体的な手法 (ツール) や、「ロジック (正論)」だけでうまくモノゴトが進まない人間の非合理性 (行動経済学的アプローチ) についても学びます。ロジック偏重でなくバランスの取れたアプローチを学ぶことも本講義の特徴です。日産自動車 ビジネス改革グループにて数多くの社内改革プロジェクトをリードした実務家教員による実践的講義です。			
講義概要全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分			
第 1 講	<ul style="list-style-type: none"> ・イントロダクション ・課題・論点の定義 ・論理/思考の抽象度 		
第 2 講	論理構築のための論理思考 (演繹法・帰納法)		
第 3 講	ピラミッドストラクチャー (ロジック構築に必要な 4 つの重要条件)		
第 4 講	ピラミッドストラクチャー・ワークショップ		
第 5 講	グループ討議ツール (ファシリテーション、親和図、ペイオフマトリックス等)		
第 6 講	課題解決手法 1 (MECE、ロジックツリー等)		
第 7 講	課題解決手法 2		
第 8 講	総まとめ		
教科書・指定図書・参考図書等			
【参考図書】『人は勘定より感情で決める』 柏木吉基著 (技術評論社)			
評価方法	出席率/講義議論参加度/最終レポート 3 点の総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く+聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので、議論には積極的に参加すること	
	個別	常に自分の目の前の (組織・職場) の問題と繋げて考えること。講義の中で、各人の実施の課題についてのディスカッションも行う予定です。	

2016年度 大学院シラバス 開講学期：春学期

科目名 (和文)	MBAのためのビジネスデータ入門		
サブタイトル	ビジネスための統計学入門		
科目名 (英文)	Introduction to Statistics and Data Analysis for Business		
カリキュラム群	実践知考具／経営基盤マネジメント		
担当教員	今泉 忠	メールアドレス	imaizumi@tama.ac.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
<p>ビジネスではデータをもとに提案する場合には、統計学の考え方や知識が必須である。この講義では、統計的思考をもとに実際のビジネス現場で統計学を利活用できるようになることを目指す。</p>			
講義要旨			
<p>実際の場面で統計学が利活用できるようになるため、統計的思考法のその実践、統計量の性質など、実際のデータの扱いなどについて、講義する。</p>			
講義概要全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分			
第1講	データの要約と分布：分析のフレームとしてのPDSAと統計で扱う変数の型について学ぶ。分布に関しても学修する。		
第2講	統計量：代表的な統計量について、その性質や図示などについて学修する。		
第3講	データを収集するためのサンプリングやコーディングについて学修する。		
第4講	相関関係を検討するための散布図や相関係数について学修する		
第5講	因果関係を検討するための回帰分析について学修する		
第6講	分布と平均と分散：データから求められた平均の性質などについて学修する		
第7講	信頼区間や検定について学修する。		
第8講	課題設定：実際のデータについてPDSAをもとに分析レポートを作成する		
教科書・指定図書・参考図書等			
教科書：EXCEL ビジネス統計分析 [ビジテク] 第2版 末吉 正成 末吉 美喜			
指定図書：データの分析 日本統計学会			
評価方法	出席率:講義議論参加度：最終レポート=30:40:30 3点の総合評価		
履修留意事項	共通	必ずしも数学・統計学の知識は前提としない。ただし、P C演習(EXCEL)を行うので、最低限のP C利用スキルは前提とする。なお、P Cは各自持参してください。	
	個別		

2016年度 大学院シラバス 開講学期：春学期

科目名 (和文)	社会デザイン構想		
科目名 (英文)	Social Innovation & Project Design		
サブタイトル	よりよき社会とビジネスを創造する事業構想のデザイン		
カリキュラム群	最新ビジネス実践知/社会・事業構想		
担当教員	望月照彦	メールアドレス	info@laboseum.com
講義目的 (学修の到達目標)			
イノベーターに求められる最大の知の資源は“構想力”である。その構想力が向かうものは事業のみならず「社会構想力」である。ビジネスイノベーションを、ソーシャルイノベーションへ展開する構想力練磨が、究極の目的である。			
講義要旨			
事業構想力を創造し、社会構想力に転換する哲学と手法を学ぶ。4半世紀の歴史を持つ多摩大学はこれまでに数々のイノベーターを育ててきた。その代表的なイノベーターに登場頂き、実践・実感の講義を進める。多摩大イノベーター烈伝、の学びともなろう。			
講義概要全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分			
第1講	<ul style="list-style-type: none"> ・スタートアップ講義：事業構想力、社会構想力の磨き方 ・多摩大学事業イノベーター列伝 		
第2講	<ul style="list-style-type: none"> ・構想力基礎：『TVA構想』（リリエンスール）と『パサージュ論』（ベンヤミン） ・構想力演習課題1：いま求められている事業課題を出題する 		
第3講	<ul style="list-style-type: none"> ・課題1プレゼンテーション ・モデルプレゼンテーション 		
第4講	<ul style="list-style-type: none"> ・イノベーター列伝1：上昇気流代表取締役笹田隆氏講義『2000億企業から居酒屋ビジネスへ』 ・クロスインパクトミーティング：現代社会にとって先端事業構想とは何か 		
第5講	<ul style="list-style-type: none"> ・特別講義『江戸の構想力』・・・島津斉彬、そして伊能忠敬と河合継之助 ・クロスインパクトミーティング：構想力の源流を求めて 		
第6講	<ul style="list-style-type: none"> ・イノベーター列伝2：事業構想デザイナー柳生好彦氏講義『小豆島から世界企業を生み出す』 ・鎌倉：構想博物館にてプラトンアカデミア体験 		
第7講	<ul style="list-style-type: none"> ・構想力演習課題1（ワンディエスキース）：ある地方都市への産業振興策提案 ・プレゼンテーションと解題 		
第8講	<ul style="list-style-type: none"> ・最終講義：「知の逍遥」を楽しむ人生デザインへ 		
教科書・指定図書・参考図書等			
教科書：『地域からの未来創生（2015）』学文社、『センス・オブ・ハピネス（2013）』日本紀行 指定図書：『都市のロビンソン・クルーソー（1988）』新曜社、『マチノロジー（1977）』創世記 参考図書等：『都市民俗学全5巻』未来社			
評価方法	例：出席率35%/講義議論参画度35%/最終レポート30% 3点の総合評価 出席率20パーセント/毎回の構想プレゼンテーション力60%/レポート20% の総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く+聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので、議論には積極的に参画すること	
	個別	何よりも、広く深い見識・教養が構想家の基盤である。他の人に無い知の分野を駆け抜け、開拓していく洞察力、精神力を磨くことを評価したい。	

2016年度 大学院シラバス 開講学期：春学期

科目名 (和文)	ベンチャー企業論		
科目名 (英文)	Technology Venture		
サブタイトル	ベンチャー企業とイノベーション・エコシステム		
カリキュラム群	最新ビジネス実践知/社会・事業構想		
担当教員	濱田 隆道	メールアドレス	t-hamada@tocom.or.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
アベノミクス第3の矢である成長戦略は必ずしも成功しているとは言えず、我が国経済は閉塞感から抜け出すことができないですが、いつの時代でも、創造的破壊を行い、パラダイムシフトを引き起す企業群がいます。これらをベンチャー企業と呼び、その特性、生み出す環境、制度等を分析することで、我が国企業のグローバル競争に勝つ方策を考察することを目的とします。			
講義要旨			
産業革命以降、資本主義経済に成長をもたらしたイノベーションの概要をふり返り、特に日・米における近年のベンチャー企業の果たした役割を考察します。これらを踏まえ、イノベーション・エコシステムとしてのシリコンバレーモデルを参考に、日本のイノベーション創出のための環境がどうあるべきかについて検討を加えます。さらに、今後の我が国ベンチャー企業の発展の方向性を展望するなどにより、ベンチャー企業論の概要を学びます。			
講義概要全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分			
第1講	イノベーションと経済成長 産業革命以降の資本主義の発展をふり返りイノベーションの果たした役割を考察する。		
第2講	米国のベンチャー企業の歴史 20世紀に入り世界をリードしてきた米国経済の主要な担い手の変遷を概観し、その生成のメカニズムに迫る。		
第3講	我が国ベンチャー企業の歴史(1) ソニー、ホンダに代表される我が国ベンチャー企業の発展の歴史を概観し、今日、競争力を失ったかに見える我が国製造業の現状を分析する。		
第4講	我が国ベンチャー企業の歴史(2) 製造業に比べ、グローバルにも展開可能な競争力を有するユニクロ、セブンイレブン等の流通サービス業の発展について、概観する。		
第5講	イノベーション・エコシステム — シリコンバレーモデル 米国成長の原動力とも言えるシリコンバレーの企業群を取りまく環境を分析することで、イノベーション創出のメカニズムを解明する。		
第6講	日本型イノベーション・エコシステムの模索 我が国においても、京都、浜松に代表されるイノベーション・エコシステムとも呼ぶべき地域は存在するが、そのメカニズムとさらなる発展の可能性を検証する。		
第7講	稼ぐ力創出のための産業と金融の一体改革 アベノミクス第3の矢である成長戦略においてベンチャー企業はどのように位置付けられ、どのような施策が講じられつつあるかを分析する。		
第8講	我が国ベンチャー企業の展望 世界経済の潮流変化を捉え、成長戦略の施策を活用しながら、我が国ベンチャー企業はどう展開すればよいかを展望する。		
教科書・指定図書・参考図書等			
教科書 : 「産業革新の源泉」 原山優子 白桃書房 指定図書 : 「アメリカの世紀は終わらない」 ジョセフ・S・ナイ(村井浩紀訳) 日本経済新聞出版社 参考図書等 : 「ビジネススクールでは学べない世界最先端の経営学」 入山章栄 日経BP社			
評価方法	出席率/講義議論参画度/最終レポート 3点の総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く+聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので、議論には積極的に参画すること	
	個別	講義を通じて展望できるベンチャー企業の方向性につき、アイデアを温め、レポートにまとめること。	

2016年度 大学院シラバス 開講学期：秋学期

科目名 (和文)	医療介護領域の実践知を学ぶ		
科目名 (英文)	事例から積み上げよう		
サブタイトル	Innovation for the healthcare		
カリキュラム群	ビジネス実践知		
担当教員	真野 俊樹	メールアドレス	mano@tama.ac.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
医療介護分野は、もはや制度の変更だけではなく、民間からの新しいイノベーションがなければ解決できない問題を多く抱えているのではないかと。このオムニパス講義では、多摩大学大学院のOB/OGあるいは現場で実践知を持っている方にプレゼンテーションをしていただき、それに対する議論を行うことで、深めていきたい。			
講義要旨			
医療介護分野での様々な取り組みを知ること、自らの問題解決や特定課題論文の作成に役立てることを目標とする。			
講義概要全8講 (講師敬称略)			
第1講：9月27日	卒業生はどんな研究をしたのか：網代、山崎		
第2講：10月11日	最近の医療界のトピックス：HTA (小林)		
第3講：10月25日	卒業生はどんな活動をしているのか(1)：ヘルスケア産業従事者教会(川合)、医療機器ビジネスの展開と問題点(清水)		
第4講：11月8日	薬局分野最近の展開：大川内、古川		
第5講：11月22日	看護分野の最近の展開：後藤、山口		
第6講：12月20日	最近の活動報告：医療ツーリズム最近の動向(石塚)、黒岩(ヘルスコミュニケーション)		
第7講：1月17日	最近の医療界のトピックス：M&A(谷口)		
第8講：1月24日	卒業生はどんな活動をしているのか(2) 沖縄での介護の展開(羽賀) 懇親会		
教科書・指定図書・参考図書等			
評価方法	出席率/講義議論参画度/最終レポート 3点の総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く+聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論には積極的に参画すること	
	個別	なし	

2016 年度 大学院シラバス 開講学期：秋学期

科目名(和文)	地域・観光ビジネス戦略		
科目名(英文)	Strategy for sightseeing business in the areas		
サブタイトル	ツーリズム手法を核とした地域ビジネスの創出		
カリキュラム群	最新ビジネス実践知／社会・事業構想		
担当教員	丁野 朗	メールアドレス	achouno@tcat.ne.jp
講義目的(学修の到達目標)			
地域交流ビジネスとしての観光手法を活用した地域再生・産業創造の手法について理解し、実践的な方法論について学ぶ			
講義要旨			
<p>訪日外国人客が 2,000 万人直前となり、いま観光マーケットは大きな注目を集めています。しかし、半面で、その目的地 (Destination) は特定地域に偏り、ホテルや観光バスなどのキャパシティーの限界や、受け皿となる地域に少なからず混乱も見られます。</p> <p>「観光」とは読んで字のごとく、地域の「光」を「観る」こと。しかし、その「光」は、地域によって、また時代によって大きく変化します。本講座では、こうした地域の「観光交流」のための資源性について考え、またこれらの編集視点や事業化のための手法などを明らかにすることを通じて、地域交流ビジネスを核とした新たな地域再生と産業創造手法等について学びます。</p>			
講義概要全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分			
第 1 講	観光資源論 (観光からみた地域資源編集の視点)		
第 2 講	ツーリズム産業とその今日的意義 (地域から見たツーリズムの意義)		
第 3 講	新たなツーリズムの形態 (ニューツーリズム) とその手法		
第 4 講	「産業観光」 (Industrial Tourism) とその手法 (産業資源が観光になる)		
第 5 講	地域固有資源の活用とその手法①		
第 6 講	地域固有資源の活用とその手法②		
第 7 講	物語消費としての観光 (地域資源とストーリー化の手法)		
第 8 講	新たな地域交流ビジネスの可能性		
教科書・指定図書・参考図書等			
教科書等はありませんが、『産業観光の手法』(学芸出版社)、『レジャー白書』((財)社会経済生産性本部刊)、『産業観光への取り組み』((財)日本交通公社/羽田耕治・丁野朗監修)などを参照			
評価方法	出席率/講義議論参画度/最終レポート 3 点の総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く+聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論には積極的に参画すること	
	個別	講座で討議した手法などを、皆さんそれぞれの係わりの地域に応用するならば、どのような手法が有効かなど、身近で活かした素材として学んで下さい。また、2015 年度(横須賀、小田原)と同じく、観光手法により大きな成果をあげつつある地域の視察とワークショップなどの機会をつくります。	

2016 年度 大学院シラバス 開講学期：春学期

科目名 (和文)	ヘルスケアと介護の現状と未来を考える		
科目名 (英文)	The future perspective of healthcare and long term care		
サブタイトル	毎年 2 兆円弱成長する分野とは		
カリキュラム群	最新ビジネス実践知／ヘルスケア		
担当教員	真野 俊樹	メールアドレス	mano@tama.ac.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
<p>最近の医療/介護の状況を展望し今後を考える 各自 1 回のプレゼンテーションにおいて、この業界についての問題意識をまとめることができるようになること。</p>			
講義要旨			
<p>医療はコアの国民医療費の部分のみで 40 兆円超、周辺を入れればその 2 倍にもなろうかという巨大な産業分野になっている。介護ももはや 10 兆円産業である。 本講座では、医療/介護のコア部分、医療/介護周辺産業について経営学の視点で論じる。その時々々の環境変化・政策変化に応じてトピックスは柔軟に対応する。並行される医療介護オムニパス講座の補完の意味もあり、そちらで議論しきれなかった点を深めることも可能である。</p>			
講義概要全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分			
第 1 講	自己紹介、医療介護制度概要		
第 2 講	海外の医療		
第 3 講	外部講師 (厚労省 佐々木さん (予定) 地域医療ビジョン) による講義と議論		
第 4 講	受講生の選択トピックスによる演習 (他大学大学院からのレクチャー、卒業生からのレクチャー)		
第 5 講	外部講師 (医療実務家 原土井病院 原先生) による講義と議論		
第 6 講	受講生の選択トピックスによる演習		
第 7 講	受講生の選択トピックスによる演習		
第 8 講	受講生の選択トピックスによる演習		
教科書・指定図書・参考図書等			
<p>教科書：「医療経済学で読み解く 医療のモンダイ」(医学書院)、「グローバル化する医療」(岩波書店)、「医療が日本の主力商品になる」(ディスカヴァー携書)、「入門医療経済学-いのちと効率の両立を求めて」(中公新書)</p>			
評価方法	出席率 35%/講義議論参画度 35%/最終レポート 30% 3 点の総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く+聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので、議論には積極的に参画すること	
	個別		

2016年度 大学院シラバス 開講学期：秋学期

科目名 (和文)	ヘルスケアと介護業界の最新のマネジメント		
科目名 (英文)	Healthcare and long term care management		
サブタイトル	新たなチャンスを探る		
カリキュラム群	最新ビジネス実践知/ヘルスケア		
担当教員	真野 俊樹	メールアドレス	mano@tama.ac.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
医療介護業界を解きほぐして現業や新たなチャンスを探る機会とする。 各自1回のプレゼンテーションにおいて、この業界についての問題意識をまとめることができるようになること。			
講義要旨			
年々の医療介護費用の増加は2兆円を超す。これをコストとみればマイナスであるが、市場の広がりともみれば大きなチャンスともいえる。一方、倫理的な部分や規制が多い業種であるがゆえに、その中で生きていくにはかなりの修練が必要になる。当該講座では、医療や介護事業者あるいはその分野に外部から関心を持つ者を対象にし、複雑な業界を解きほぐして現業や新たなチャンスを探る機会とする。議論を多く行い、また外部講師も以前とは異なるために、前期後期の連続履修が理解を深めることになると考える。			
講義概要全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分			
第1講	自己紹介、医療介護制度概要		
第2講	医療介護の動向		
第3講	外部講師 (医療あるいは介護実務家) による講義と議論		
第4講	海外の医療		
第5講	外部講師 (経済産業省 予定) による講義と議論		
第6講	受講生の選択トピックスによる演習		
第7講	受講生の選択トピックスによる演習		
第8講	まとめ		
教科書・指定図書・参考図書等			
「健康マーケティング」(日本評論社)、「介護マーケティング」(日本評論社)、「世界標準のトヨタ流病院経営」 真野 俊樹 (薬事日報社) 「経営学の視点から考える患者さんの満足度UP—患者満足度追求のわな」 真野 俊樹 (南山堂)			
評価方法	出席率 35% / 講義議論参加度 35% / 最終レポート 30% 3点の総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く+聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので、議論には積極的に参加すること	
	個別		

2016 年度 大学院シラバス 開講学期：秋学期

科目名 (和文)	高齢社会のまちづくり		
科目名 (英文)	Community planning of the aged society		
サブタイトル	21 世紀の産業連関と地域の内発的発展モデルの創造		
カリキュラム群	最新ビジネス実践知／ヘルスケア		
担当教員	川井 真	メールアドレス	kawai-m@tama.ac.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
<p>不可逆的な人口減少をとまなう高齢社会の産業構造と働き方をデザインし、そこに公共交通システム等の社会インフラや地域包括ケア・システム等の福祉政策なども織り込みながら、新たな産業連関の仕組みと地域経済の内発的発展モデルを提示することのできる、ソーシャルアントレプレナーやイントラプレナーの育成を目指す。</p>			
講義要旨			
<p>さらなるグローバル化の進展が予想される 21 世紀であるが、日本は国際社会において「高齢社会先進国」としての責務も負っている。人口減少を伴う高齢社会では人々の行動範囲・経済活動は、すくなく縮小し、加齢とともに身体は虚弱になり、リタイアすれば収入も減る。したがって GDP 成長率に代わる新たな豊かさの指標が必要となる。そこで、日本の 21 世紀は生活の内実を豊かにする「まちづくり」の世紀であると仮定し、経済のフレーム・オブ・レファレンスを再考しながら、新時代における地域経営のスタイルと産業連関のモデルをデザインしていく。</p>			
講義概要全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分			
第 1 講	導入・全体要約 (社会的想像と創発へのアプローチ)		
第 2 講	まちづくりの思想 (CSV という選択)		
第 3 講	近代経済思想と福祉レジーム (社会保障と雇用保障を再考する)		
第 4 講	ローカリズムと内発的発展論 (来るべき経済と働き方の革新)		
第 5 講	論理的思考とプラグマティズム (近代科学と人間の学～高齢社会のアクションリサーチ)		
第 6 講	社会システム理論・貨幣論 (コミュニケーションと共通善)		
第 7 講	地域デザイン (食・エネルギー・ケアを基盤にネットワーク化する地域内産業連関の仕組み)		
第 8 講	まとめ (インテグレートッド・ソーシャルビジネス・ネットワークの構造とデザイン)		
教科書・指定図書・参考図書等			
<p>必要な資料を毎回 (テーマごとに) 作成し配布する。また参考文献一覧を別途作成し配布する。</p>			
評価方法	出席率／講義議論参加度／最終レポート 3 点の総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く＋聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論には積極的に参加すること	
	個別	本講座では思考の柔軟性を求めています。したがって、経営学・経済学・政治学のような社会科学に属する学問のみならず、人文科学や自然科学、あるいは死生学や認知科学など新しい学問領域から発信される情報にも耳を傾け、常識にとらわれず、思考を飛躍させることを心がけてください。	

2016年度 大学院シラバス 開講学期：春学期

科目名 (和文)	医療介護経営と会計		
科目名 (英文)	Healthcare nursing management		
サブタイトル	診療介護報酬改定、医療制度をふまえた数値マネジメント		
カリキュラム群	最新ビジネス実践知／ヘルスケア		
担当教員	長 英一郎	メールアドレス	eiichiro49@higashinohon.ne.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
<ul style="list-style-type: none"> ・病院介護経営に必要な数値感覚を持つ ・学会、院内等で実践的なプレゼンをする ・医療経営士3級～1級、介護福祉経営士2級～1級のいずれかの資格取得をする 			
講義要旨			
<p>30年4月の診療介護報酬同時改定に向けて、ますます病院、介護施設の経営は厳しくなっている。本講では、経営改善に必要な財務知識、医療制度、診療介護報酬制度などを議論していく。講義は、基本的に、講師からの講義(1時間)、論文作成(30分)、院生によるプレゼン・議論(1時間30分)からなる。医師、看護師、弁護士、税理士など多職種と議論することにより、多角的視点が持てるようにする。</p>			
講義概要全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分			
第1講	30年4月に向けた医療制度・診療介護報酬改定の流れ		
第2講	28年診療報酬改定の概要		
第3講	貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の読み方		
第4講	病床機能報告・DPCデータを活用した経営分析		
第5講	銀行の財務格付け		
第6講	病院介護施設の改善事例		
第7講	医療介護経営をテーマにしたプレゼン大会		
第8講	医療介護経営をテーマにしたプレゼン大会		
教科書・指定図書・参考図書等			
<p>「社内プレゼンの資料作成術」：前田謙利 「たった1日で声まで良くなる話し方の教科書」：魚住りえ 「なるほど、なっとく医療経営Q&A50」：長英一郎</p>			
評価方法	出席率／講義議論参画度／プレゼン大会 3点の総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く＋聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論には積極的に参画すること	
	個別	一人2回はプレゼンを行う、論文(20行程度)は講義中に作成・提出	

2016年度 大学院シラバス 開講学期：秋学期

科目名 (和文)	知のグローバル共創		
科目名 (英文)	Global Knowledge Synthesizing		
サブタイトル	“世界で and 世界と” 活躍できるビジネスパーソンを目指して		
カリキュラム群	最新ビジネス実践知／グローバル経営		
担当教員	佐藤 勝彦	メールアドレス	tjksatoh@ba3.so-net.ne.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
* 日本の経営のグローバル化の軌跡と現状を実例をもとに知識創造の視点から整理すると共に、今後の課題について多面的な視座と実践知を獲得する。			
講義要旨			
* 経営のグローバル化とは世界の多様な知恵が共創し、いかに新しい価値を生み出していくかというプロセスとよ。経営のグローバル化を知識創造視点からそのあるべきマネジメントスタイル、組織風土、人材育成、リーダーシップなどについて経営最前線の情報を取り入れながら学ぶ			
講義概要全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分			
第 1 講	経営のグローバル化とは何か？ —その発生と変遷—		
第 2 講	日本の経営のグローバル化の経緯と課題 —知の移転、共有、共創という視点—		
第 3 講	知の共創を生む組織マネジメント —知と言葉、知と組織、組織風土、マトリックス組織運営—		
第 4 講	知の共創の実例 —日本のサッカーのグローバル化から学ぶ—		
第 5 講	グローバル人材育成 —知の移転・共有・共創と人材育成（ローカル・グローバル）と報酬—		
第 6 講	グローバルビジネス最前線 —ゲストスピーカー（現役経営者を予定）—		
第 7 講	グローバルリーダーシップコミュニケーション —グローバルリーダーに必要なコミュニケーションとは—		
第 8 講	まとめ —日本のグローバル化の原点を探る—		
教科書・指定図書・参考図書等			
教科書： 指定図書：『世界の知で創る』野中郁次郎・徳岡晃一郎『能力構築競争』藤本隆宏 参考図書等：『日本経済図説』第 4 版岩波新書、『世界経済図説』第 3 版岩波新書			
評価方法	出席率 40% / 議論参加度 30% / レポート 30% 3 点の総合評価		
履修留意事項	共通	経営の背景となる経済活動に関する基礎的学習を前提とします	
	個別	知とは何か、言葉とは何か、日本とは何かなどリベラルアーツ的アプローチに関心のある受講者を待っています	

2016年度 大学院シラバス 開講学期：春学期

科目名 (和文)	Business Communication for Global Leaders		
科目名 (英文)	Business Communication for Global Leaders		
サブタイトル	Communication is the currency of trust. Businesses and businesspeople that communicate effectively accumulate trust, the key value in all relationships, commercial and otherwise.		
カリキュラム群	最新ビジネス実践知/グローバル経営		
担当教員	Mark Austin	メールアドレス	mkaustin@gmail.com
講義目的 (学修の到達目標)			
Through my sessions, I aim to apply the principles of good journalism, especially business journalism, and, to a lesser extent, of marketing, to help the students express themselves effectively in speech and writing in business contexts in English.			
講義要旨			
The rise to ubiquity of the internet has had a revolutionary effect on the production and consumption of media. With the emergence of social media, the traditional, vertical, top-down dissemination of content has been replaced by a horizontal "two-way electronic conversation." In digital news production, two or more of the "five plus one" elements of multimedia (text, video, photography, audio and graphics plus social media) are combined to tell stories more effectively than was possible before the internet. It is essential for businesses and managers to learn how to communicate effectively in this new media environment.			
講義概要全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分			
第1講	Introduction: The 21st-century media environment.		
第2講	Journalism 101: the 7 key news values; news judgment.		
第3講	Plain English: Orwell's Six Rules; writing press releases.		
第4講	Story structure: inverted pyramid and the Wall Street Journal formula.		
第5講	Multimedia journalism: nonlinear storytelling.		
第6講	Social media: brand-building and crisis management.		
第7講	Talk by outside speaker/attendance at outside event.		
第8講	Wrap-up: summary of key points, conclusion, discussion.		
教科書・指定図書・参考図書等			
教科書： 指定図書： 参考図書等：			
評価方法	出席率／講義議論参画度／最終レポート 3点の総合評価		
履修留意事項	共通	読む・書く＋聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので、議論には積極的に参画すること	
	個別		

科目名 (和文)	世界潮流と企業戦略		
科目名 (英文)	Global Trends and Corporate Strategy		
サブタイトル	-俯瞰力・構想力・戦略力-		
カリキュラム群	最新ビジネス実践知/グローバル経営		
担当教員	金 美德	メールアドレス	kim-m@tama.ac.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
世界潮流と時代認識、日本企業のグローバル戦略、グローバル企業の日本戦略(インバウンド、企業進出)、アジア・新興国ビジネスモデル、グローバル組織、グローバル人材、問題の発見力と解決力(事業構想力)を考える。			
講義要旨			
<p>21世紀のアジアは、巨大な市場規模や豊富な天然資源など高い経済的潜在性を背景に世界経済を牽引する。アジア開発銀行(ADB)によるとアジア GDP は、世界 GDP に占める割合が 2030 年代には 50%を超えると予測されている。まさしく「アジア経済=世界経済」、「リバース・イノベーション(先進国でなく、アジア新興国の製品やビジネスモデルがグローバルビジネスを牽引)」の時代である。日本は、すでに対アジア貿易が総貿易の 50%、対アジア・ユーラシア貿易は 74%にも達する。</p> <p>したがって日本企業は、①いかにアジア・ユーラシアダイナミズムを中心とした世界経済の構造変化に対応するか、②いかに米国・ドイツ・ロシアなど欧米企業のアジアシフトに対抗するか、③いかにアジア新興国市場で販路を開拓するか、④いかにアジアのヒト・モノ・カネ・情報を取り込むかが切迫した経営課題となっている。</p> <p>本講義では、世界潮流を俯瞰してグランドデザインを構想し、地政学的戦略を描く力を養う。とりわけアジア・ユーラシアダイナミズムの視点から日本企業のグローバル戦略やアジア新興国ビジネスモデルについて考察する。</p>			
講義概要全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分			
第 1 講	世界潮流とアジア・ユーラシアダイナミズム		
第 2 講	アジアパラドックスとグローバルビジネス		
第 3 講	日本企業の現状と課題		
第 4 講	地政学的知を活かしたグローバル戦略①		
第 5 講	地政学的知を活かしたグローバル戦略②		
第 6 講	アジア新興国ビジネスモデル		
第 7 講	グローバル(アジア)戦略レポートの発表①		
第 8 講	グローバル(アジア)戦略レポートの発表②および総括		
教科書・指定図書・参考図書等			
教科書:			
①『世界を知る力』(寺島実郎、PHP 新書、2010 年)			
②『世界を知る力 日本創生編』(寺島実郎、PHP 新書、2011 年)			
指定図書:			
①『東アジアの経済協力と共通利益』(編著:岡山大/田口雅弘・多摩大/金美德、ふくろう出版、2016 年)			
②『日本企業没落の真実-日本再浮上 27 核心-』(金美德、中経出版、2013 年)			
③『図解 韓国四大財閥早わかり』(金美德、中経出版、2012 年)			
④『なぜ韓国企業は世界で勝てるのか-新興国ビジネス最前線-』(金美德、PHP 新書、2012 年)			
参考図書:			
『大中華圏-ネットワーク型世界観から中国の本質に迫る-』(寺島実郎、NHK 出版、2012 年)			
評価方法	出席率および議論参加度 70%、最終発表(戦略レポート)30%		
履修留意事項	共通	①グローバル(アジア)戦略レポートのテーマは、自社もしくは関心企業のアジア・新興国戦略や独自のグローバルビジネスモデルとする。具体的に問題や課題を発見し、解決策(改善・改革・革新・事業構想)を提案すること。 ②最終発表は、相互評価を行う。	
	個別	①パソコンと携帯電話は、使用を禁止する。 ②講義内容は、筆記すること。	

2016年度 大学院シラバス 開講学期：春学期

科目名 (和文)	日本企業の中国ビジネス		
科目名 (英文)	Case Study of Japanese business in China		
サブタイトル	～中国で売れないなんてありえない！		
カリキュラム群	最新ビジネス実践知／グローバル経営		
担当教員	徐 向東	メールアドレス	xu@cm-rc.com
講義目的 (学修の到達目標)			
<p>ビジネスマンとしてこれからの時代をサバイバルするには、まず新興市場代表格の中国市場で勝ち抜くための力を身につける必要がある。この授業では、現場の最新情報をもとに中国ビジネスの戦略と実践を学習する。</p>			
講義要旨			
<p>講師の講義＋受講者プレゼン＋ディスカッションの形で授業する。中国市場の構造、消費と流通の特徴、B2CとB2B市場の攻め方、有効なコミュニケーション、Eコマースの成長、日本市場との相違点、日本企業の失敗と成功の原因分析等々を、最新事例をもとに、プレゼンとディスカッションの形で理解を深めていく。</p>			
講義概要全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分			
第1講	中国で勝つには、まず「正しいポジション」をつかむ～中国市場の基礎を理解する		
第2講	中国で勝つには、ターゲットのニーズをきちんと押さえる必要がある～中国人の「ニーズ」を理解する		
第3講	中国で勝つには、正しいチャネル展開が大切～中国の流通を理解する		
第4講	中国で勝つには、ターゲット層に正しく情報発信をする必要がある～中国人とのコミュニケーション法		
第5講	中国で勝つには、販促活動を積極的に展開する必要がある～中国人に売れる方法をつかむ		
第6講	中国で勝つには、中国に合ったビジネスモデルを構築する必要がある～日中の相違を理解する		
第7講	中国で勝つには、4倍速のスピードについていく必要がある～Eコマースなど中国の最新ビジネスを理解する		
第8講	総括		
教科書・指定図書・参考図書等			
参考図書			
『爆買い』中国人に売る方法』(日本経済新聞出版社 2015)、『中国人にネットで売る～2つの“ネット”の正しい使い方、つくり方』(東洋経済新報社 2011)、『中国人に売る時代！巨大市場開拓の成功の法則』(日本経済新聞出版社 2009)。			
評価方法	出席率 / 講義議論参画度 / 最終レポート 3点の総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く＋聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論には積極的に参画すること	
	個別		

2016年度 大学院シラバス 開講学期：秋学期

科目名 (和文)	中国経済と日本企業の戦略		
科目名 (英文)	China's economy and Business strategy of the Japanese company in China		
サブタイトル	～「中国像」を客観的に捉えよう～		
カリキュラム群	最新ビジネス実践知/グローバル経営		
担当教員	巴特尔 (バートル)	メールアドレス	baatar@tama.ac.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
<p>時代は今、「知」が重要視される知識情報社会となっており、膨大な情報の中から必要な情報を抽出して分析し、未来を洞察していくことが求められている。本講義の目的は、世界経済の牽引役として、また政治や外交面でも国際的プレゼンスの高まりを見せている「中国像」を立体的かつ複眼的な視点で捉えることと、日本企業の広域中国ビジネス推進のうえでの新しい経営戦略・ビジネスモデルについて受講生との議論を通じて得られた知見を共有し、「中国像」に対する総合的理解を目指すことである。</p>			
講義要旨			
<p>中国については①北京を中心に中国を正面から捉える、②周縁 (中華圏) から捉える、③周縁 (日本など) から捉える、④中国の辺境地域とその周辺諸国を網羅した「中国辺境経済圏」の4つの視点から解説し「中国像」をより立体的に描くことを心がけ、同時に受講生の研究テーマや関心事を踏まえた講義内のディスカッションも重視したい。基本的に前半講義、後半ディスカッション形式で行う。</p>			
講義概要全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分			
第1講	教員・受講生の自己紹介とオリエンテーション		
第2講	中国経済の現状と課題～「光」と「影」		
第3講	中国経済の現状と課題～「光」と「影」		
第4講	中国経済～「大中華圏」からの視点		
第5講	中国経済～「大中華圏」からの視点		
第6講	中国経済～「辺境経済圏」からの視点		
第7講	中国経済～「辺境経済圏」からの視点		
第8講	日中経済関係の現状と課題		
教科書・指定図書・参考図書等			
<p>寺島実郎『大中華圏』(NHK出版、2012年) 真家陽一『中国経済の実像とゆくえ』(ジェトロ、2012年) 瀬口清之『日本人が中国を嫌いになれないこれだけの理由』(日経BP、2014年)</p>			
評価方法	出席率 35% / 講義議論参画度 35% / 最終レポート 30% の3点の総合評価		
履修留意事項	共通	<p>① 議論には積極的に参画すること。 ② 最終レポートは、修士論文・特定課題に関連するテーマを設定し、まとめること。</p>	
	個別	講義資料は原則配布しないため、筆記することが望ましい。	

2016 年度 大学院シラバス 開講学期：秋学期

科目名 (和文)	Business in Globalized India – The Japan Perspective		
科目名 (英文)	Business in Globalized India – The Japan Perspective		
サブタイトル	A young, vibrant and economically strong India provides a lot to learn from in the contexts of global business, leadership and innovation.		
カリキュラム群	最新ビジネス実践知／グローバル経営		
担当教員	Aniruddha Mallik	メールアドレス	aniruddha@ageraconsulting.com
講義目的 (学修の到達目標)			
Through my sessions, I aim to present various aspects of global business, leadership, innovation and management in India and how it can make sense in the Japanese context.			
講義要旨			
India is an excellent example of a rapidly globalizing world, where traditional super powers are being pushed back and emerging economies are becoming more and more powerful. There’ s a lot to learn from how Indian business leaders have evolved new and more globally successful business models and management strategies to ensure that their companies stay ahead of the competition. In this course, we shall explore various aspects of global business, management, leadership and innovation, keeping a focus on India and the Japanese perspective.			
講義概要全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分			
第 1 講	Introduction, background to the main subject		
第 2 講	Global business management in the 21 st century and related topics		
第 3 講	Management & Leadership in India (Part 1)		
第 4 講	Management & Leadership in India (Part 2)		
第 5 講	Management & Leadership in India (Part 3); The 21 st century global organization		
第 6 講	Innovation in India – “JUGAAD” ; Related topics		
第 7 講	Lessons for Japan from India, opportunities for collaboration		
第 8 講	Wrap-up, summary of key points, conclusion, discussions		
教科書・指定図書・参考図書等			
なし			
評価方法	出席率 35%／講義議論参画度 35%／最終レポート 30% 3 点の総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く＋聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので、議論には積極的に参画すること	
	個別		

2016年度 大学院シラバス 開講学期：秋学期

科目名 (和文)	非営利法人のファイナンス		
科目名 (英文)	Finance for Not-for-Profit Organizations		
サブタイトル	株式会社以外の非営利法人 (NPO、学校法人、財団法人、医療法人等) のファイナンス手法		
カリキュラム群	最新ビジネス実践知/NPO マネジメント/非営利法人のファイナンス		
担当教員	堀内 勉	メールアドレス	abcdefghoriuchi@gmail.com
講義目的 (学修の到達目標)			
<p>営利法人である株式会社のコーポレートファイナンスは、既に確立された学問分野であり、世界的に共通の物差しがあります。他方、NPOに代表される非営利法人のファイナンス(資金調達)手法についてはいまだ発展途上で、寄付金や公的補助金なども含めて、今後、体系立てて研究していく必要があります。開講初年度である本講義では、こうした新しいファイナンス分野である、「非営利法人のファイナンス」について、受講生の皆さんがまず問題意識を持ち、その上で体系立てて理解することを目的とします。</p>			
講義要旨			
<p>NPO、学校法人、財団法人、医療法人、宗教法人などの様々な非営利法人を運営している実務家を、毎回ゲストスピーカーとしてお招きし、それぞれの具体例に則して、寄付金や補助金などの非営利法人に特有な資金調達手段を含めて、どのような資金調達を行なっているのか、どのような手段が有効なのかを学びます。</p>			
講義概要全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分			
第1講	<ol style="list-style-type: none"> 1. 受講生の自己紹介と本講義受講に当たっての問題意識の説明、教員の自己紹介とオリエンテーション 2. 本講義の前提となるコーポレートファイナンスの全体像講義 3. ゲストスピーカー：政策金融公庫 融資企画グループ 長満課長 		
第2講	<ol style="list-style-type: none"> 1. ゲストスピーカー講演：我が国の寄付税制と寄付文化について① 2. ゲストスピーカー：日本ファンドレイジング協会 鶴尾代表理事 		
第3講	<ol style="list-style-type: none"> 1. ゲストスピーカー講演：ソーシャルビジネスへの投資の考え方 2. ゲストスピーカー：ソーシャルインベストメントパートナーズ 白石代表理事 		
第4講	<ol style="list-style-type: none"> 1. ゲストスピーカー講演：NPOの資金調達手段と問題点 2. ゲストスピーカー：RCF 藤沢代表理事 		
第5講	<ol style="list-style-type: none"> 1. ゲストスピーカー講演：ソーシャル・インパクト・ボンド(SIB)など新たな資金調達手段について 2. ゲストスピーカー：慶応大学 政策・メディア研究科 伊藤特任助教 		
第6講	<ol style="list-style-type: none"> 1. ゲストスピーカー講演：財団法人の資金調達手段と問題点 2. ゲストスピーカー：日本財団 社会的投資推進室 工藤室長 		
第7講	<ol style="list-style-type: none"> 1. ゲストスピーカー講演：我が国の寄付税制と寄付文化について② 2. ゲストスピーカー：ジャパングビング 佐藤代表理事 		
第8講	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義のまとめと今後に向けての意見交換 2. ゲストスピーカー：ピープルフォーカスコンサルティング 黒田取締役兼ファウンダー 		
教科書・指定図書・参考図書等			
教科書：無し			
指定図書：無し			
参考図書等：堀内勉(2014)『コーポレートファイナンス実践講座』、堀内勉(2016)『ファイナンスの哲学』			
評価方法	出席率、講義議論参画度合の総合評価		
履修留意事項	共通	講義中の議論には積極的に参画することを期待します。	
	個別	特に、我が国の寄付金制度について、海外との比較の観点から調べてみて、事前に問題意識を醸成しておいて下さい。	

2016年度 大学院シラバス 開講学期：春学期

科目名 (和文)	トライセクターリーダー論		
科目名 (英文)	Tri-Sector Leaders		
サブタイトル	ポスト・グローバル資本主義時代のリーダーシップ		
カリキュラム群	最新ビジネス実践知/NPO マネジメント		
担当教員	金野 索一	メールアドレス	skonno212@gmail.com
講義目的 (学修の到達目標)			
<p>トライセクターリーダーとは、政治行政・企業ビジネス・NPOの3つのセクターのすべてに通用するリーダー、あるいは、3つのセクターの枠を越えてより良き社会を実現していくリーダーである。この講義は、より多くのトライセクターリーダーが輩出されることを目的とする。</p>			
講義要旨			
<p>上記目的を達成するため、講義内容は、下記2つを柱とする。</p> <p>1) もはやトライセクターリーダーこそが、企業、政治、NPO 他あらゆる組織で必然であることについての熟議。人類は、「個人の幸福実現」において2つのボーダレスに直面している。一つは、公共・企業・NPOの3つのセクターの水平ボーダレス化。もう一つは「EU・ASEAN」等と「国家」と「州・県・市町村」の大小行政ユニットの垂直ボーダレス化である。言い換えれば、少子高齢化と多国籍企業台頭に伴う国家の影響力低下・相対化である。このポスト・グローバル資本主義＝国民国家と利益至上企業の影響力低下社会におけるトライセクター・リーダーの必然性について熟議する。</p> <p>2) 先輩トライセクターリーダーが、その源泉である「6つの力」をいかに獲得したか、国際的には「日本人4つの価値」をいかに発揮しているか、国内的には「日本国・7つの危機」にいかにか挑んでいるかをケースとして明らかにし、真のリーダーを目指す者のベンチマーク・指針とし、各自のトライセクターリーダーシップ実践につなげる。</p>			
講義概要全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分			
第1講	<p>● トライセクターリーダーの必然①：3つのセクターの水平ボーダレス化</p> <p>・ポスト・グローバル資本主義とは ・公共・企業・非営利セクターの境界こそ宝の山</p>		
第2講	<p>● トライセクターリーダーの必然②：大小の行政ユニットの垂直ボーダレス化</p> <p>・国家の影響力低下～国連・EU・ASEAN、州・県・市町村の境界の曖昧性にもチャンスあり</p>		
第3講	<p>● ジャパニーズ・トライセクターリーダーの必然：戦略的日本人</p> <p>・日本人の4つの中立価値「宗教、人種、軍事、経済」においてフラットでありチャンス大</p> <p>・日本人は唯一無二のポジションで、世界のトライセクターリーダーに相応しい</p>		
第4講	<p>● ゲスト講師・トライセクターリーダーの実践を講義・討論で学ぶ</p> <p>「6つの力」をいかに獲得したか、「日本人3つの価値」の発揮、「日本国・7つの危機」への挑戦とは</p>		
第5講	<p>● トライセクターリーダーの必然③：真のIT革命</p> <p>・ネットは社会の透明化・双方向化推進ツール・資本主義を変えるイノベーション・ツール</p>		
第6講	<p>● トライセクターリーダーの必然④：国民国家と多国籍企業</p> <p>・無限責任・国家と有限責任・企業のせめぎ合い～このギャップこそ社会起業のネタである</p>		
第7講	<p>● 自分自身のトライセクターリーダーシップ実践計画を創る</p> <p>・未来がどうなるかではなく、自分たちが未来を創る。Cross-Disciplinaryこそトライセクターリーダー</p>		
第8講	<p>● 資本主義の新たな地平を拓く、トライセクターリーダーの“仕事の流儀”</p>		
教科書・指定図書・参考図書等 /			
教科書 (WEB)：日経ビジネス・カンパネラ連載中『トライセクター・リーダーの時代』（金野索一著/日経BP社/2015年7月～） http://business.nikkeibp.co.jp/atclcmp/15/071700001/			
指定図書：『未来の選択～僕らの将来は、政策でどう変わる？』（金野索一著 /ディスカヴァー21社/2013年）			
評価方法	出席32点（4点×8回）／講義議論参画35点／最終レポート33点 3分野で100点満点で評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く＋聴く・話す》コミュニケーションスキルがリーダー/イノベーターのキーであるので議論には積極的に参画すること	
	個別	実際のトライセクターリーダーの誰を、自分自身のロールモデルにするかを探究する	

2016 年度 大学院シラバス 開講学期：秋学期 2泊3日の集中講義

科目名 (和文)	次代を拓くソーシャルリーダーに学ぶ in 東北		
科目名 (英文)	Learn from social leaders to pioneer the next generation in TOHOKU		
サブタイトル	東北復興の最前線で挑むソーシャルリーダーとともに学び、未来を創り出す集中講義		
カリキュラム群	実践知考具/NPO マネジメント		
担当教員	宮城 治男	メールアドレス	miyagi@etic.or.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
<p>東北で活躍するソーシャルリーダーに学び、ともにその事業を磨く。学生自らもそれぞれの立場でソーシャルリーダーとしてのキャリアを歩んでいくためのマイプラン、戦略を策定する。</p>			
講義要旨			
<p>震災後丸5年を経た東北復興の最前線で、多様な領域、スタイルで活躍しているソーシャルリーダーに東北現地の石巻・女川に集合頂き、そのビジョンや想い、取り組みの具体的なケースを講義頂くとともに、学生とも協働でその事業プランのブラッシュアップを行う。またそのプロセスを通して学生自身が自らのテーマに向き合い、今後のキャリアや事業計画を描いていく契機としたい。2月中旬の2泊3日の集中講義の予定。</p>			
講義概要全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分			
第1講	東北復興の現状 ソーシャルビジネスの取組み、成功事例に学ぶ		
第2講	ケーススタディ&事業プランブラッシュアップ テーマ①「一次産業のイノベーション」前半		
第3講	ケーススタディ&事業プランブラッシュアップ テーマ①「一次産業のイノベーション」後半		
第4講	ケーススタディ&事業プランブラッシュアップ テーマ②「まちづくり 新産業育成」前半		
第5講	ケーススタディ&事業プランブラッシュアップ テーマ②「まちづくり 新産業育成」後半		
第6講	ケーススタディ&事業プランブラッシュアップ テーマ③「教育 福祉のイノベーション」前半		
第7講	ケーススタディ&事業プランブラッシュアップ テーマ③「教育 福祉イノベーション」後半		
第8講	自らのキャリアデザイン、事業プランの策定ワークショップ		
教科書・指定図書・参考図書等			
教科書：			
指定図書：			
参考図書等：3years 復興の現場から、希望と愛をこめて			
評価方法	出席 35% / 講義議論参画度 35% / 最終レポート 30% 3点の総合評価		
履修留意事項	共通	<p>実際に東北・石巻の現地に来て頂き、集中講義の形式となる関係で、石巻までの交通費に加え宿泊・食費等（2泊3日で3万円程度）の実費が必要になります。</p> <p>日程は2017年2月17日（金）～19日（日）を予定</p> <p>履修者（参加者）が5名未満の場合は、非開講となります。</p>	
	個別		

2016年度 大学院シラバス 開講学期：春学期

科目名 (和文)	ビジネス実践知探究		
科目名 (英文)	Business Practical Wisdom Study		
サブタイトル	“編集工学”で教養力を磨く		
カリキュラム群	実践知考具		
担当教員	佐藤勝彦	メールアドレス	tjksatoh@ba3.so-net.ne.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
<p>企業人として身につけるべき本質的なものの見方・考え方を、現役ビジネスリーダーの体験と視点から学ぶ。次世代リーダー育成塾「ハイパーコーポレートユニバーシティ [AIDA]」を素材とし、「編集工学」を学ぶとともに、実際に当塾で学んだビジネスリーダーを講師に迎え、ディスカッションを交えながら教養とビジネスの関係を思考する。「教養」の力を自らの武器とするための、学び方・使い方を知り、継続的な自学実践のための手がかりを獲得する。</p>			
講義要旨			
<p>松岡正剛が塾長を務める日本の次世代リーダー育成塾「ハイパーコーポレートユニバーシティ [AIDA]」では、複雑さを増す社会を捉えなおす方法として、ものごとの「間 (あいだ)」に着目してきた。古今東西の知の世界に触れ、「間」を捉える視点を獲得した塾生は、その知見をビジネスの現場でどのように活かしているのか。当塾の卒業生であり各界で活躍するビジネスリーダーたちが、「間」をテーマにビジネスにおける「教養」の力を語る。講義とディスカッションによる実践的教養講座。物事の関係性を取り扱う知の技法「編集工学」をワークショップで習得し、学びを補強する。</p>			
講義概要全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分			
第1講 (4/12)	[AIDA] の編集工学：導入授業 ◎講師：編集工学研究所 安藤昭子 ◎講義+ディスカッション：日本と編集のAIDA		
第2講 (4/26)	[AIDA] の編集工学ワークショップ：編集術篇 ◎講師：編集工学研究所 安藤昭子 ◎講義+ワークショップ：編集スキルトレーニング		
第3講 (5/17)	メディアと情報のAIDA (1) ◎講師：日本放送協会 中村正敏氏 (第8期) ◎講義+ディスカッション：		
第4講 (5/31)	メディアと情報のAIDA (2) ◎講師：日本放送協会 中村正敏氏 (第8期) ◎講義+ディスカッション：		
第5講 (6/14)	人と会社と社会のAIDA (1) ◎講師：リクルートキャリア 木村秀之氏 (第2期～第11期) ◎講義+ディスカッション：		
第6講 (6/28)	人と会社と社会のAIDA (2) ◎講師：リクルートキャリア 木村秀之氏 (第2期～第11期) ◎講義+ディスカッション：		
第7講 (7/12)	[AIDA] の編集工学ワークショップ：日本流イノベーション篇 ◎講師：編集工学研究所 安藤昭子 ◎講義+ワークショップ：JapanKeyConcept イノベーションワーク		
第8講 (7/26)	[AIDA] の編集工学：講義振り返り ◎講師：編集工学研究所 安藤昭子 ◎講義+ディスカッション：		
教科書・指定図書・参考図書等			
『18歳から考える国家と「私」の行方〈東巻〉セイゴオ先生が語る歴史的現在』松岡正剛著 (春秋社)			
『18歳から考える国家と「私」の行方〈西巻〉セイゴオ先生が語る歴史的現在』松岡正剛著 (春秋社)			
評価方法	出席率/講義議論参画度/最終レポート 3点の総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く+聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論には積極的に参画すること	
	個別		

2016年度 大学院シラバス 開講学期：春学期

科目名 (和文)	問題解決学 I		
科目名 (英文)	Practical Science for How to Solve Problems I		
サブタイトル	問題の発見と解決の本質に迫る		
カリキュラム群	教養基盤／本質思考力		
担当教員	下井 直毅	メールアドレス	shimoi@tama.ac.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
<p>実学とは、「問題解決学」であります。実学志向の多摩大学大学院では、問題解決の最前線に立つ力の育成を重視しています。そのためには、様々な問題にどう挑み、どのように解決するのかを修得する必要があります。この講義では、その修得を目指します。</p> <p>また、学修の到達目標としては、様々なテーマの問題解決事例を学んで、①それぞれのテーマに自分ならばどのようなアプローチをするか、②その事例の問題解決に用いられた方法が、いかに応用出来るかを考えられることを目指します。</p>			
講義要旨			
<p>この講義では、多摩大学経営情報学部の精鋭教授陣 16 名(春学期・秋学期合計)がオムニバス形式で、それぞれ様々な分野のテーマを取り上げて、そのテーマに関して「問題はどこにあるか (解くべき問題は何か)」、「なぜ問題となっているのか」、「その問題をどのように解決するのか」といったことを、事例や方法論の立場から解説していきます。</p>			
講義概要全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分			
第 1 講	①問題解決の「前提」－体系的な理解を目指す、②ディスカッション 小林 英夫 教授 (応用例 (キーワード)－経営行動科学)		
第 2 講	①問題解決の「前提」－体系的な理解を目指す、②ディスカッション 奥山 雅之 准教授 (応用例 (キーワード)－製造業、サービスマネジメント)		
第 3 講	①問題「発見」の技法(1)、②ディスカッション 中村 その子 教授 (応用例 (キーワード)－組織 PR 戦略)		
第 4 講	①問題「発見」の技法(2)、②ディスカッション 金子 邦博 教授 (応用例 (キーワード)－顧客価値最大化)		
第 5 講	①問題「分析」の技法(1)、②ディスカッション 志賀 敏宏 教授 (応用例 (キーワード)－ビジネス戦略)		
第 6 講	①問題「分析」の技法(2)、②ディスカッション 杉田 文章 教授 (応用例 (キーワード)－現代スポーツ)		
第 7 講	①問題「解決」の技法(1)、②ディスカッション 栢原 伸也 教授 (応用例 (キーワード)－マーケティングモデリング)		
第 8 講	①問題「解決」の技法(2)、②ディスカッション 村山 貞幸 教授 (応用例 (キーワード)－伝統文化伝承方法の評価、立案)		
教科書・指定図書・参考図書等			
教科書：指定図書：参考図書等：各教員が随時、紹介・指定します。			
評価方法	出席率／講義での議論参画／中間・期末レポート 3 点の総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く＋聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので、議論には積極的に参画すること	
	個別	全教員は、豊富な教育・研究業績、実践・実務経験、最高の学位・資格をお持ちで、日本や海外の産・官・学の分野にて、大変ご活躍されています。詳しいプロフィールについては、多摩大学ホームページをご参照ください (http://www.tama.ac.jp/guide/teacher/list01.html)。	

2016年度 大学院シラバス 開講学期：秋学期

科目名 (和文)	問題解決学 II		
科目名 (英文)	Practical Science for How to Solve Problems II		
サブタイトル	問題の発見と解決の本質に迫る		
カリキュラム群	教養基盤／本質思考力		
担当教員	下井 直毅	メールアドレス	shimoi@tama.ac.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
<p>実学とは、「問題解決学」であります。実学志向の多摩大学大学院では、問題解決の最前線に立つ力の育成を重視しています。そのためには、様々な問題にどう挑み、どのように解決するのかを修得する必要があります。この講義では、その修得を目指します。</p> <p>また、学修の到達目標としては、様々なテーマの問題解決事例を学んで、①それぞれのテーマに自分ならばどのようなアプローチをするか、②その事例の問題解決に用いられた方法が、いかに応用出来るかを考えられることを目指します。</p>			
講義要旨			
<p>この講義では、多摩大学経営情報学部の精鋭教授陣 16 名(春学期・秋学期合計)がオムニバス形式で、それぞれ様々な分野のテーマを取り上げて、そのテーマに関して「問題はどこにあるか (解くべき問題は何か)」、「なぜ問題となっているのか」、「その問題をどのように解決するのか」といったことを、事例や方法論の立場から解説していきます。</p>			
講義概要全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分			
第 1 講	①問題解決の「前提」－思考方法の違いを認識する、②ディスカッション 松本 祐一 准教授 (応用例 (キーワード)－事業デザイン)		
第 2 講	①問題解決の「前提」－構想力の重要性、②ディスカッション 浜田 正幸 教授 (応用例 (キーワード)－キャリアデザイン、消費心理)		
第 3 講	①問題「発見」の技法(1)、②ディスカッション 趙 佑鎮 教授 (応用例 (キーワード)－組織のイノベーション、人材育成)		
第 4 講	①問題「発見」の技法(2)、②ディスカッション 清松 敏雄 准教授 (応用例 (キーワード)－会計)		
第 5 講	①問題「分析」の技法(1)、②ディスカッション 大森 拓哉 教授 (応用例 (キーワード)－心理学)		
第 6 講	①問題「分析」の技法(2)、②ディスカッション 酒井 麻衣子 准教授 (応用例 (キーワード)－マーケティングリサーチ)		
第 7 講	①問題「解決」の技法(1)、②ディスカッション 中庭 光彦 教授 (応用例 (キーワード)－地域再生)		
第 8 講	①問題「解決」の技法(2)、②ディスカッション 樋口 裕一 教授 (応用例 (キーワード)－表現技法)		
教科書・指定図書・参考図書等			
教科書：指定図書：参考図書等：各教員が随時、紹介・指定します。			
評価方法	出席率／講義での議論参画／中間・期末レポート 3 点の総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く＋聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので、議論には積極的に参画すること	
	個別	全教員は、豊富な教育・研究業績、実践・実務経験、最高の学位・資格をお持ちで、日本や海外の産・官・学の分野にて、大変ご活躍されています。詳しいプロフィールについては、多摩大学ホームページをご参照ください (http://www.tama.ac.jp/guide/teacher/list01.html)。	

2016年度 大学院シラバス 開講学期：春・秋学期

科目名 (和文)	社会工学研究会 (実践的教養インターゼミ) I~IV		
科目名 (英文)	Inter Seminars I~IV		
サブタイトル	寺島学長ゼミ(社会工学研究会)		
カリキュラム群	教養基盤/本質思考力		
担当教員	金 美德	メールアドレス	kim-m@tama.ac.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
①選択したテーマについて、文献調査・フィールドワーク・考察・執筆を行い、1年後に論文を完成させる。 ②産業社会の持つ課題を発見し、解決へのアプローチを目指す論文内容へと指導する。			
講義要旨			
<p>インターゼミ(寺島学長ゼミ)の目的は、学部生・大学院生・ゼミ OB/OG など 40 名と寺島学長をはじめとする本学 2 学部と大学院の教員 13 名が、現代社会の抱える課題について、塾形式で切磋琢磨しながら多様な要素や手法を組み合わせた柔らかい発想で、体系的・総合的な答を志向する総合設計力を身に付けることである。</p> <p>学生自身による課題の発掘・発見から仮説の提示、そして多様な要素の組み合わせによる問題解決へ至るプロセスの中で、寺島学長以下、学内の教員や社会で活躍する学外の専門家による付加価値を高め、創造的問題解決策を志向する。</p> <p>テーマは、下記から希望する分野・グループから選ぶこと。</p> <p>①多摩学、②サービス・エンターテインメント、③アジアダイナミズム、④地域研究、⑤エネルギー・環境。</p> <p>8 年目を迎えるインターゼミは、7 年間で 32 論文を完成させた。論文は、コンテストでの優秀賞受賞や企業(経営者)・地方自治体(知事)に手渡し感謝状を頂いたこともある。また、ゼミ生・ゼミ OB/OG・教職員の交流を深め、志のある人々のアソシエーションの形成を目指している。寺島学長主催の懇親会などでも交流を深めている。さらに、修論(特定課題)の問題意識の先鋭化、方法論の構築、研究活動においても役立てて頂きたい。</p>			
講義概要 (講義は毎週土曜日 16 時 20 分~17 時 50 分：90 分、九段サテライトキャンパスで実施される)			
第 1 講	学長講話とオリエンテーション(自己紹介)		
第 2 講	学長講話とテーマの方向性の提示		
第 3 講	学長講話とグループ分け作業		
第 4 講	学長講話とグループの決定と詳細テーマの検討		
第 5 講	学長講話と各グループの担当教員と学生からの進捗報告		
第 6 講	学長講話とグループワーク		
第 7 講	教員講話とグループワーク		
第 8・9 講	グループワークおよびフィールドワーク		
第 10 講	学長講話と各グループの進捗状況報告		
第 11 講	研究計画の発表と学長のアドバイス		
第 12・13 講	学長講話と学長のグループ別指導		
第 14 講	学長講話グループワーク		
第 15 講	春学期は箱根合宿 (8 月中旬、1 泊 2 日) での中間発表。秋学期は最終発表と完成論文の提出。		
教科書・指定図書・参考図書等			
1、教科書			
①『世界を知る力』(寺島実郎、PHP 新書、2010 年)			
②『世界を知る力 日本創生編』(寺島実郎、PHP 新書、2011 年)			
③『大中華圏-ネットワーク型世界観から中国の本質に迫る-』(寺島実郎、NHK 出版、2012 年)			
④『何のために働くのか-自分を創る生き方-』(寺島実郎、文春新書、2013 年)			
⑤『若き日本の肖像-1900 年、欧州への旅-』(寺島実郎、新潮文庫、2014 年)			
⑥『二十世紀と格闘した先人たち-一九〇〇年 アジア・アメリカの興隆-』(寺島実郎、新潮文庫、2015 年)			
⑦『新・観光立国論-モノづくり国家を超えて』(寺島実郎、NHK 出版、2015)			
2、指定図書			
①~④ 『脳力のレッスン I~IV』(寺島実郎、岩波書店、2004~2014 年)			
評価方法	出席(25%)、グループワーク貢献度(25%)、中間および最終発表(50%)の割合で評価する。 ①出席率を重視する。 ②問題意識の尖鋭化、テーマ設定、文献調査、フィールドワークなどグループワークへの貢献度。 ③1 年間にかけて共同で論文を完成させること。		
履修留意事項	共通	《読む・書く+聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論には積極的に参画すること	
	個別	①毎回出席すること。欠席時は、必ず連絡すること。 ②夏季合宿に参加すること。 ③寺島学長の講演会やセミナーなどに積極的に参加すること。 ④グループワーク等を踏まえ、フィールドワークへ参加し、報告書を提出した者に「フィールドスタディ(2 単位)」の単位を付与する。申請方法は、同科目シラバス、または事務局にて確認すること。 ⑤インターゼミの詳細は、担当教員にメールや面談などでご遠慮なく問い合わせてください。	

2016年度 大学院シラバス 開講学期：春・秋学期

科目名 (和文)	フィールドスタディⅠ・Ⅱ		
科目名 (英文)	Field Study I・II		
サブタイトル	アクティブラーニング		
カリキュラム群	教養基盤／本質思考力		
担当教員	金 美德	メールアドレス	kim-m@tama.ac.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
<p>文科省は現在、大学教育の質的転換を図るために「生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学」を政策的に要請しており、これをアクティブラーニングによって実現しようとしている。そのためには、「従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修(アクティブラーニング)への転換が必要である」と中央教育審議会が提言している。</p> <p>また、世界ビジネススクール・ランキングでは、フィールドワークやワークショップ(ファシリテーター)が評価を左右する重要な指標となっている。</p> <p>このような要請を受けて、大学のみならず、企業の研修においてもアクティブラーニングが積極的に導入されている。特に大学院ビジネススクール(MBA)では、フィールドワーク、ケースメソッド(院生がケースを事前に学習し分析結果や意思決定の理由を教員の指導の下で発表・議論する授業形式で学習者自身が主体的に学ぶ方法)、アジア新興国市場開拓のイノベーションなどが注目されている。</p> <p>本学では、2016年4月より「アクティブラーニング支援センター」を設立し、本格的にアクティブラーニングを導入する。</p> <p>本学が目指すアクティブラーニングとは、上記提言にもあるように「教員と学生の意思疎通、切磋琢磨、相互の知的成長により新たな知識・知恵を創造し、課題・問題を解決すること」と考えている。</p> <p>したがって「フィールドスタディ」では、フィールドワークについて評価する。本来、研究活動や論文作成において文献調査とフィールドワークが基本であり、車の両輪のようなものである。フィールドワークとは、現地・現物・現人の調査(インタビュー、ヒアリング、体験)や定性・定量的手法を用いた実証的検証(アンケート、データ分析、実験)などである。</p> <p>また、学内外のプロگرام・セミナー・地方実習・海外研修などへの参加も奨励し、評価する。</p> <p>「フィールドスタディ」では、院生の「気付き」、「理論と経験の繋がり」、「行動力・現場力・実践力の向上」、「視野拡大」、「課題・問題の発見力と解決力の向上」などの機会を提供する。</p>			
講義要旨			
<p>「フィールドスタディ」は、院生の研究活動や修士論文(特定課題)作成に資するフィールドワークや学内外のプロگرام・セミナー・地方実習・海外研修などへの参加に対して2単位を認定する。</p> <p>本学の学部で開講するプログラム・地方実習・海外研修や大学院で開講予定しているセミナーなどへの参加も評価する。</p>			
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 単位の認定は、大学設定基準により30時間以上の学修か、活動を確保することを条件とする。 エビデンス(証憑書類)が必要である。エビデンスは、プログラム・セミナー・実習・研修の案内(コピー・メール)、写真、交通費・渡航証明など内容と実施したことが証明できるもの。 フィールドワークや学内外のプロگرام・セミナー・地方実習・海外研修の評価方法は、以下の通り。 <ol style="list-style-type: none"> 「フィールドスタディ事前申請書」と「フィールドスタディ結果報告書」の用紙は、事務局で入手する。 「フィールドスタディ事前申請書」は、「フィールドスタディ」実施前に「フィールドスタディ」の担当教員(金美德)から承諾(署名捺印)を得て事務局に提出する。担当教員から承諾(署名捺印)を得る方法は、面談もしくはメールで行うこと。 「フィールドスタディ結果報告書」は、「フィールドスタディ」実施後に事務局に提出する。 「フィールドスタディ結果報告書」を審査し、合格すれば単位を認定する。 単位は、通年で認定する。具体的な認定時期は、7月末までに提出した場合は春学期、1月末までに提出した場合は秋学期の単位として認定する。ただし、実施時期(最終日)が、1年を過ぎたものは認めない。 「研究実習」で単位を得たものは、対象外とする。 「フィールドスタディ」の詳細は、担当教員にご遠慮なく問い合わせてください。 		

2016 年度 大学院シラバス 開講学期：春季・夏季休業期間

科目名 (和文)	研究実習 I~III		
科目名 (英文)	Research Report I~III		
サブタイトル			
カリキュラム群	教養基盤/本質思考力		
担当教員	各教員	メールアドレス	
講義目的 (学修の到達目標)			
修士論文(特定課題研究論文)へのアプローチとして位置付け、指導教授(複数)の指導のもとに 修士論文(特定課題研究論文)を完成していく上での訓練の場とすることを目的とする。			
講義要旨			
授業期間以外の期間に、指導教授(複数)の指導のもとに各自の研究課題について調査・研究を行い、研究リポ ートの作成を行う。			
講義概要全 8 講 第 1 講~第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分			
第 1 講	夏季休業期間及び春季休業期間中に自身で研究。また、研究前後を含め、都度、指導教授より指 導を受ける。		
第 2 講			
第 3 講			
第 4 講			
第 5 講			
第 6 講			
第 7 講			
第 8 講			
教科書・指定図書・参考図書等			
各教員の指示による。			
評価方法	研究レポートの完成度		
履修留意 事項	共通	《読む・書く+聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論には積極的 に参画すること	
	個別	各教員の指示による。	

2016 年度 大学院シラバス 開講学期：春・秋学期

科目名 (和文)	論文演習【FP資格必修】		
科目名 (英文)	Thesis Seminar		
サブタイトル			
カリキュラム群	教養基盤／本質思考力		
担当教員	宇佐美 洋	メールアドレス	usami@tama.ac.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
修士論文・特定課題論文の作成にあたり、問題の設定から書き方にいたるまで、実践を重視しながら取り組む。			
講義要旨			
ある程度まとまった文章を書いた経験のない者にとり、修士論文作成の作業は一人では容易ではない。そこで、問題の設定の仕方、関連する先行文献の探索方法、自身の問題関心の深堀の仕方、仮説の設定、推論・考察の進め方、実証の方法、実際の論文作成の作法など、発表と実践の演習を通して学ぶ。			
講義概要全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分			
第 1 講	論文の作成：問題の設定から書き方までの基本。		
第 2 講	論文作成者によるプレゼン、問題点の指摘、アドバイス、討論		
第 3 講	論文作成者によるプレゼン、問題点の指摘、アドバイス、討論		
第 4 講	論文作成者によるプレゼン、問題点の指摘、アドバイス、討論		
第 5 講	論文作成者によるプレゼン、問題点の指摘、アドバイス、討論		
第 6 講	論文作成者によるプレゼン、問題点の指摘、アドバイス、討論		
第 7 講	論文作成者によるプレゼン、問題点の指摘、アドバイス、討論		
第 8 講	論文作成者によるプレゼン、問題点の指摘、アドバイス、討論		
教科書・指定図書・参考図書等			
参考図書等：「論文の教室 (新版)」戸田山和久、NHKブックス、「論文マニュアル」山内志朗、平凡社新書、「調査のためのインターネット」アリアドネ著、ちくま新書、「経営学研究法」藤本他著、有斐閣アルマ、「認知科学の方法」佐伯著、東京大学出版会「創造的論文の書き方」伊丹著、有斐閣			
評価方法	出席、討議		
履修留意事項	共通	《読む・書く+聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので、議論には積極的に参画すること	
	個別		

2016年度 大学院シラバス 開講学期：春・秋学期

科目名 (和文)	論文演習		
科目名 (英文)	Thesis Seminar		
サブタイトル			
カリキュラム群	教養基盤/本質思考力		
担当教員	河野 龍太	メールアドレス	kono@insightlink.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
各自の研究活動及び卒業論文についてのアドバイスと総合的な支援。			
講義要旨			
各自の研究テーマに即した実践的アドバイスを個別事情や目的、目標を判断してカスタマイズして提供する。			
講義概要全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分			
第1講	各自研究テーマに基づいた個別指導及び 全体発表によるサークル形式指導 (事前の希望申請で時間調整)		
第2講	各自研究テーマに基づいた個別指導及び 全体発表によるサークル形式指導 (事前の希望申請で時間調整)		
第3講	各自研究テーマに基づいた個別指導及び 全体発表によるサークル形式指導 (事前の希望申請で時間調整)		
第4講	各自研究テーマに基づいた個別指導及び 全体発表によるサークル形式指導 (事前の希望申請で時間調整)		
第5講	各自研究テーマに基づいた個別指導及び 全体発表によるサークル形式指導 (事前の希望申請で時間調整)		
第6講	各自研究テーマに基づいた個別指導及び 全体発表によるサークル形式指導 (事前の希望申請で時間調整)		
第7講	各自研究テーマに基づいた個別指導及び 全体発表によるサークル形式指導 (事前の希望申請で時間調整)		
第8講	振り返りとまとめ		
教科書・指定図書・参考図書等			
参考図書： 指定図書： 教科書：			
評価方法	講義出席回数、発表への積極的参度、クラスへの貢献度など		
履修留意事項	共通	各自の研究活動と論文作成の支援が目的なので、クラスには毎回出席し、全体発表、クラスディスカッション、論文の個別指導など、積極的に取り組むこと。自分以外のクラスメンバーへの貢献も心がけること。	
	個別		

2016 年度 大学院シラバス 開講学期：春・秋学期

科目名 (和文)	論文演習		
科目名 (英文)	Thesis Seminar		
サブタイトル			
カリキュラム群			
担当教員	紺野 登	メールアドレス	konno-n@tama.ac.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
修士論文・特定課題論文の作成にあたり、問題の設定から書き方に至るまで、実践を重視しながら取り組む。			
講義要旨			
論文は、仮説から理論、さらに一般的な知識への可能性をもった知識である。本講では、修士論文とは何か、から始まり、個人指導の場と、相互発表・コメントの場をそれぞれ用意する。			
講義概要全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分			
第 1 講	修士論文とはなにか		
第 2 講	論文作成者との対話、テーマ設定		
第 3 講	論文作成者による相互プレゼン、討議		
第 4 講	論文作成者との対話、構成		
第 5 講	論文作成者による相互プレゼン、討議		
第 6 講	論文作成者との対話、構成		
第 7 講	論文作成者による相互プレゼン、討議		
第 8 講	論文作成者との対話、構成、形成		
教科書・指定図書・参考図書等			
参考：修論説明資料			
評価方法	出席、討議 (相互コメント)		
履修留意事項	共通	論文の意味合いの理解	
	個別	知的チャレンジ	

2016 年度 大学院シラバス 開講学期：春・秋学期

科目名 (和文)	論文演習		
科目名 (英文)	Thesis Seminar		
サブタイトル			
カリキュラム群	教養基盤/本質思考力		
担当教員	田坂 広志	メールアドレス	tasaka@hiroshitasaka.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
論文演習においては、「修士論文」よりも、現在の自身の仕事や、これまでの仕事のキャリアに関連するテーマでの新たな事業戦略や事業開発を検討・提案する「特定課題研究」を薦めている。			
講義要旨			
毎週火曜日の夜 2 1 : 3 0 から行う。ただし、演習への参加は、小生の講義を受講する学生にかぎる。			
講義概要全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分			
第 1 講	個別の論文指導		
第 2 講	個別の論文指導		
第 3 講	個別の論文指導		
第 4 講	個別の論文指導		
第 5 講	個別の論文指導		
第 6 講	個別の論文指導		
第 7 講	個別の論文指導		
第 8 講	個別の論文指導		
教科書・指定図書・参考図書等			
参考図書：『知性を磨く - 「スーパージェネラリスト」の時代』『これから何が起こるのか』『これから知識社会で何が起こるのか』『これから市場戦略はどう変わるのか』『まず、戦略思考を変えよ』			
評価方法	論文演習でのプレゼン、論文内容、出席率		
履修留意事項	共通	《読む・書く+聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので、議論には積極的に参画すること	
	個別		

2016 年度 大学院シラバス 開講学期：春・秋学期

科目名 (和文)	論文演習		
科目名 (英文)	Thesis Seminar		
サブタイトル			
カリキュラム群	教養基盤／本質思考力		
担当教員	徳岡 晃一郎	メールアドレス	tokuoka@tama.ac.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
修士論文・特定課題論文の作成にあたり、問題の設定から書き方に至るまで、実践を重視しながら取り組む。			
講義要旨			
ある程度まとまった文章を書いた経験のない者にとり、修士論文作成の作業は一人では容易ではない。そこで、問題の設定の仕方、関連する先行文献の探索方法、自身の問題関心の深堀の仕方、仮説の設定、推論・考察の進め方、実証の方法、実際の論文作成の作法など、発表と実践の演習を通して学ぶ。			
講義概要全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分			
第 1 講	論文の作成：問題の設定から書き方までの基本。		
第 2 講	論文作成者によるプレゼン、問題点の指摘、アドバイス、討論		
第 3 講	論文作成者によるプレゼン、問題点の指摘、アドバイス、討論		
第 4 講	論文作成者によるプレゼン、問題点の指摘、アドバイス、討論		
第 5 講	論文作成者によるプレゼン、問題点の指摘、アドバイス、討論		
第 6 講	論文作成者によるプレゼン、問題点の指摘、アドバイス、討論		
第 7 講	論文作成者によるプレゼン、問題点の指摘、アドバイス、討論		
第 8 講	論文作成者によるプレゼン、問題点の指摘、アドバイス、討論		
教科書・指定図書・参考図書等			
参考図書等：「論文の教室 (新版)」戸田山和久、NHKブックス、「論文マニュアル」山内志朗、平凡社新書、「調査のためのインターネット」アリアドネ著、「アイデアのちから」チップ・ハース、ダアン・ハース、日経 BP 社			
評価方法	出席、討議		
履修留意事項	共通	《読む・書く＋聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので、議論には積極的に参画すること	
	個別		

2016年度 大学院シラバス 開講学期：春学期・秋学期

科目名 (和文)	論文演習		
科目名 (英文)	Thesis Seminar		
サブタイトル			
カリキュラム群	教養基盤/広い視野		
担当教員	巴特爾 (バートル)	メールアドレス	baatar@tama.ac.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
経営実学に基づいた修士論文、特定課題が持つべき要件・内容・レベルを理解した上で、外国人ならではの視点に立った切り口とオリジナリティを追究した研究論文を作成する。			
講義要旨			
① 指導教員により修士論文に関する注意事項やルール、進め方等の解説・アドバイスを随時行う。 ② ゼミ生は、毎回それぞれ設定した研究テーマに関連する時事問題を始め、最新の研究調査動向や自らの研究の進捗状況を報告する。それに対し全員参加型の議論を行い、問題の所在と解決方法を検討し、論文の完成に向けてスケジュール感を持って効率的なゼミ活動を行う。			
講義概要全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分			
第1講	① 指導教員より論文作成に関するガイダンスを行う。問題意識・課題設定、先行研究、文献とフィールド調査、切り口と論理展開、オリジナリティ、未解明な事柄や学問研究等について解説する。 ② 修士論文作成者全員によるプレゼン、研究テーマの設定状況を確認し適宜アドバイスを行う。		
第2講	論文作成者によるプレゼン、問題点の指摘・アドバイス		
第3講	論文作成者によるプレゼン、問題点の指摘・アドバイス		
第4講	論文作成者によるプレゼン、問題点の指摘・アドバイス		
第5講	論文作成者によるプレゼン、問題点の指摘・アドバイス		
第6講	論文作成者によるプレゼン、問題点の指摘・アドバイス		
第7講	論文作成者によるプレゼン、問題点の指摘・アドバイス		
第8講	論文作成者によるプレゼン、問題点の指摘・アドバイス		
教科書・指定図書・参考図書等			
教科書や図書は特に定めないが、随時紹介する。			
評価方法	出席率 35% / 講義議論参画度 35% / 最終レポート 30% の3点の総合評価		
履修留意事項	共通	① 最終レポートは、修士論文・特定課題に関連するテーマを設定し、まとめること。 ② 《読む・書く＋聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論には積極的に参画すること。	
	個別	① 携帯電話の使用は禁止する。 ② ゼミ時間内は原則日本語を共通言語とする。 ③ ゼミは基本的にペーパーレスで行うため、PCは必ず持参する。	

2016 年度 大学院シラバス 開講学期：春学期・秋学期

科目名 (和文)	論文演習		
科目名 (英文)	Thesis Seminar		
サブタイトル	優れた修士論文作成		
カリキュラム群	教養基盤／本質思考力		
担当教員	真野 俊樹	メールアドレス	mano@tama.ac.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
多摩大学大学院にふさわしい修士論文を書けるように演習する			
講義要旨			
毎回、院生により発表と討議を繰り返し、修士論文をブラッシュアップしていく。必要に応じてOB／OGの修士論文を参考にする。			
講義概要全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分			
第 1 講	院生による発表と討議		
第 2 講	院生による発表と討議		
第 3 講	院生による発表と討議		
第 4 講	院生による発表と討議		
第 5 講	院生による発表と討議		
第 6 講	院生による発表と討議		
第 7 講	院生による発表と討議		
第 8 講	院生による発表と討議		
教科書・指定図書・参考図書等			
教科書：特になし 指定図書：特になし 参考図書等：特になし			
評価方法	出席率 35%／講義議論参画度 65%の総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く＋聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので、議論には積極的に参画すること	
	個別		

2016 年度 大学院シラバス 開講学期：春学期・秋学期

科目名 (和文)	留学生の為の日本経済・経営基礎		
科目名 (英文)	Introduction of Japanese Economy and Management for Foreign Students		
サブタイトル			
カリキュラム群	教養基盤／本質思考力		
担当教員	佐藤 勝彦	メールアドレス	tjksatoh@ba3.so-net.ne.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
日本の経済、産業および経営に関する基本的な知識を獲得することにより、履修する科目の理解を深める一助とする			
講義要旨			
日本の経済、経済史、産業構造、雇用・労働、経営システムなどを今日的な話題も取り入れながら、その大枠を学ぶ			
講義概要全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 90 分 第 8 講は 45 分			
第 1 講	日本の歴史、文化、政治、人口、国土		
第 2 講	日本経済史		
第 3 講	産業構造		
第 4 講	教育、雇用、労働		
第 5 講	企業形態・ガバナンス		
第 6 講	“日本的経営”		
第 7 講	グローバル化と日本の経営		
第 8 講	まとめ		
教科書・指定図書・参考図書等			
参考図書 日本経済図説 (第四版) 岩波新書、			
評価方法	出席率／講義議論参画度／最終レポート 3 点の総合評価		
履修留意事項	共通		
	個別		

2016年度 大学院シラバス 開講学期：春学期

科目名 (和文)	ビジネスジャパニーズ I		
科目名 (英文)	Business Japanese I		
サブタイトル	日本語の口頭発表と討論の技術		
カリキュラム群	教養基盤／本質思考力		
担当教員	王 媛	メールアドレス	wangyuan.class@gmail.com
講義目的 (学修の到達目標)			
本講義は、日本語での口頭発表と討論の技術を身につけることを目的とする。			
講義要旨			
本講義は①インタビューと他者紹介②スピーチ③討論の三つの部分から構成される。①ではコミュニケーション力を伸ばす。②ではさまざまな種類のスピーチを練習し、人前で発表することに慣れ、意見を述べる能力を伸ばす。③では自分の意見を展開し、相手の意見について論理的・説得的な反論をするための表現形式を身につける。			
講義概要全 8 講			
第 1 講	コミュニケーションとは/自己紹介/ペアで行うクラスメート紹介		
第 2 講	テーマをもって聞くインタビュー/自由に話してもらおうインタビュー		
第 3 講	スピーチのタイプとその準備		
第 4 講	スピーチの実践		
第 5 講	討論に必要な発言の仕方と表現/討論の練習		
第 6 講	ディベート(対立討論)の方法		
第 7 講	パネル・ディスカッション—問題を多面的に検討する公開集団討議の方法		
第 8 講	本講義のまとめと最終報告(内容は授業内に指示)		
教科書・指定図書・参考図書等			
教科書：特になし 指定図書：特になし 参考図書等：特になし			
評価方法	出席率 30%/講義・議論参加度 30%/最終報告 40% 3点の総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く+聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので、議論には積極的に参画すること	
	個別		

2016年度 大学院シラバス 開講学期：秋学期

科目名 (和文)	ビジネスジャパニーズ II		
科目名 (英文)	Business Japanese II		
サブタイトル	アカデミック・プレゼンテーション入門		
カリキュラム群	教養基盤／本質思考力		
担当教員	王 媛	メールアドレス	wangyuan.class@gmail.com
講義目的 (学修の到達目標)			
本講義は、日本語でのアカデミック・プレゼンテーション・スキルを身に着けることを目的とする。			
講義要旨			
本講義は、まず基礎としてプレゼンテーションの概要やプレゼンテーションに必要な基本的語彙表現、発表スライドの作り方などを学ぶ。次に、課題別にいろいろなプレゼンテーションを実例入りで見て、必要な語彙表現とともに発表すべき内容をどのように練り上げていくかを学ぶ。最後はプレゼンテーションにおける話し方や態度における留意点なども学ぶ。			
講義概要全 8 講			
第 1 講	プレゼンテーションの基礎		
第 2 講	プレゼンテーションに必要な表現		
第 3 講	スライドの作り方		
第 4 講	いろいろなプレゼンテーション I (「私の国」「私の町」)		
第 5 講	いろいろなプレゼンテーション II (「私の専門」「私がこれから学ぶ専門」)		
第 6 講	いろいろなプレゼンテーション III (アンケート調査プロジェクト①)		
第 7 講	いろいろなプレゼンテーション III (アンケート調査プロジェクト②)		
第 8 講	プレゼンテーションをしてみよう		
教科書・指定図書・参考図書等			
教科書：特になし 指定図書：特になし 参考図書等：三浦香苗ほか『最初の一步からはじめる日本語学習者と日本人学生のための アカデミックプレゼンテーション入門』ひつじ書房、2006 年			
評価方法	出席率 30%/講義・議論参加度 30%/最終報告 40% 3 点の総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く+聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので、議論には積極的に参画すること	
	個別		

2016年度 大学院シラバス 開講学期：春学期

科目名 (和文)	ビジネスデータ分析・活用 (Standard)		
科目名 (英文)	Business Data Analysis/Practice (Standard)		
サブタイトル	ビジネスデータ分析入門		
カリキュラム群	ビジネスデータサイエンスコース/ビジネスデータ活用力、実践知考具/顧客創造		
担当教員	豊田 裕貴	メールアドレス	toyoda@tama.ac.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
<p>ビジネスデータを活用するには、データ分析や統計学のスキルが欠かせません。本講義では、最低限押さえておく必要がある分析・統計学のスキルを習得することが目標となります。</p>			
講義要旨			
<p>本講義では、PC 演習を含め実際にビジネスデータを加工・分析しながら、各種手法がどんな手法で、何が出来るかを考え、理論ではなく道具としてのデータ分析/統計学を学びます。また、単に分析するのではなく、その結果をビジネス上どう読み解くか、うまく行かない場合にはどうすれば (考えれば) いいかについても、演習形式で学習していきます。</p>			
講義概要全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分			
第 1 講	ビジネスデータ分析に必要な手法の全体像を整理する		
第 2 講	関係性分析入門①：ビジネス仮説の視覚化、グラフによる検証、そして仮説検定		
第 3 講	関係性分析入門②：回帰分析によるモデル分析と意思決定への応用		
第 4 講	関係性分析入門③：判別分析とロジスティック回帰および分類木：質的な結果をデータで予測する		
第 5 講	次元縮約分析入門①：主成分分析、因子分析：ブランドポジショニングマップの作成		
第 6 講	次元縮約分析入門②：主成分分析、因子分析：調査票作成と構成概念の測定		
第 7 講	分類分析入門：クラスター分析、顧客分類 (セグメンテーション) やターゲティングを行う		
第 8 講	手法の組み合わせ：複数の手法を組み合わせた分析の方法を学ぶ		
教科書・指定図書・参考図書等			
豊田裕貴 (2014) 『すぐやってみたくなる! データ分析がぐるっとわかる本』すばる舎 その他、講義にて随時紹介			
評価方法	出席率/講義議論参画度/プレゼンテーション 3 点の総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く+聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論には積極的に参画すること	
	個別	応用に興味がある受講者は、「ビジネスデータ分析・活用 (Advance)」と合わせて履修することを強く推奨する。	

2016年度 大学院シラバス 開講学期：秋学期

科目名 (和文)	ビジネスデータ分析・活用 (Advance)		
科目名 (英文)	Business Data Analysis/Practice (Advance)		
サブタイトル	分析レシピライティング		
カリキュラム群	ビジネスデータサイエンスコース/ビジネスデータ活用力		
担当教員	豊田 裕貴	メールアドレス	toyoda@tama.ac.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
<p>ビジネスデータの活用では、①どんなデータを、②どう分析/処理することで、③何を得るかをストーリーとして構築する能力が不可欠です。そしてそのストーリーを手順としてまとめたものが「ビジネスデータ分析レシピ」になります。本講義では、各自のテーマにこのレシピを書けるようになる基礎力の習得を目標とします。</p>			
講義要旨			
<p>レシピを書くには、さまざまなレシピを知っておくことが有効です。本講義では、分析レシピの基礎を学んだ上で、ケーススタディから、手法や使い方、そしてそれらをどう応用できるかについて学習します。その際、各自のテーマ置き換えてレシピを書く演習+発表も行います。</p> <p>※事例については、受講者の興味関心に合わせて決めていきます。例えば、ブランドポジショニングと顧客セグメンテーションのレシピやキャンペーン評価レシピなど。</p>			
講義概要全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分			
第1講	ビジネスデータ分析レシピとは何か：レシピライティングに必要な基礎的な分析手法を整理する		
第2講	分析レシピケーススタディ①：事例を元に分析レシピの書き方を解説する		
第3講	分析レシピケーススタディ②：事例を元に分析レシピの書き方を解説する		
第4講	分析レシピケーススタディ③：事例を元に分析レシピの書き方を解説する		
第5講	分析レシピケーススタディ④：事例を元に分析レシピの書き方を解説する		
第6講	分析レシピライティング①：受講者のテーマに応じてレシピを構築したレシピを発表し合い、議論する		
第7講	分析レシピライティング②：受講者のテーマに応じてレシピを構築したレシピを発表し合い、議論する		
第8講	分析レシピライティング③：受講者のテーマに応じてレシピを構築したレシピを発表し合い、議論する		
教科書・指定図書・参考図書等			
豊田裕貴 (2014) すぐやってみたくなる! データ分析がぐるっとわかる本』すばる舎 その他、講義にて随時紹介			
評価方法	出席率/講義議論参画度/プレゼンテーション 3点の総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く+聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論には積極的に参画すること	
	個別	統計学の知識に不安がある場合には、「ビジネスデータ分析・活用 (Standard)」と合わせて履修することを強く推奨する。	

2016年度 大学院シラバス 開講学期：秋学期

科目名 (和文)	ビジネスデータ活用 (課題解決モデリング)		
科目名 (英文)	Practice of Business Data Science III		
サブタイトル	問題解決とデータ分析(一流の「問題解決者」となるために)		
カリキュラム群	ビジネスデータサイエンスコース/ビジネスデータ活用力、実践知考具/顧客創造		
担当教員	志賀 敏宏	メールアドレス	shiga@tama.ac.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
<p>「問題発見・定義→問題解析・解決策策定→解決策実行」が問題解決です。データ分析は主として前二段階にかかわりますが、解決策実行の支援・促進ができなければ問題解決者にはなれません。また、正しい問題 (効果が大きく解決可能) を定義しなければ意味がありません。加えて、目的を明確にせずにデータ分析を行えば、モンキーオペレーションです。本講義はこれらの隘路に陥らず、一流の「問題解決者」となる方法を受講生の皆さんが体得することを目的とします。中核は、「問題解決のためのモデル作り」です。</p>			
講義要旨			
<p>受講生自身の抱える課題に関して、上記目的に資する「問題解決のためのモデル」と「データ分析指針」作りを実践します。加えて、適宜、上記目的に適した事例について、その核心、クリティカルポイントを学びます。</p>			
講義概要全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分			
第1講	①受講生・教員の自己紹介とオリエンテーション、②問題解決とデータ解析の本質、③次回への課題提示 (受講生の皆さんの抱えるデータ解析課題の発表準備)		
第2講	①受講生の皆さんの抱えるデータ解析課題の発表、② ①に関するディスカッションによる問題解決へのアプローチ検討、③次回への課題提示 (問題解決へのアプローチの深耕)		
第3講	①問題解決へのアプローチの深耕結果の発表、② ①に関するディスカッションによる中間レポート作成 (次回への課題) 指針の検討		
第4講	①中間レポートの発表とディスカッション、 ②中間レポートからの深耕方法の検討		
第5講	①中間レポートからの深耕結果の発表、② ①に関するディスカッションによる最終レポート作成指針の検討、③志賀の参画したデータ分析・問題解決事例紹介 [1] (受講人数・時間によっては割愛)		
第6講	①最終レポート作成指針の発表、② ①に関するディスカッションによる検討、③志賀の参画したデータ分析・問題解決事例紹介 [2] (受講人数・時間によっては割愛)		
第7講	①最終レポートのプレゼンテーション、 ② ①に関するディスカッション、結果の吟味と更なる深耕に向けた検討		
第8講	①本講義のまとめ、 ②更なる学びの向けての意見交換		
教科書・指定図書・参考図書等			
<p>指定図書：伊丹敬之 (2001)『創造的論文の書き方』有斐閣 イアン・エアーズ (2010)『その数字が戦略を決める』文藝春秋、 矢野和男 (2014)『データの見えざる手』草思社</p> <p>参考図書：G.M.ワインバーグ (1990)『コンサルタントの秘密-技術アドバイスの人間学』 ※初回到図書の内容を紹介するので、入手される場合もそれ以降でかまいません</p> <p>参考資料：幡鎌博 (2015.4.2 最終更新)『戦略的な情報システムの事例集』 http://open.shonan.bunkyo.ac.jp/~hatakama/sis_case.html</p>			
評価方法	出席率/講義での議論参画/中間・期末レポート 3点の総合評価		
履修留意事項	共通	授業中の議論に積極的に参加してください。中間・期末レポートの提出・プレゼンテーションを求めます。また、適宜、Excelが利用可能なPCを各自持参してください (初回到説明します)。修士/博士論文に関する問題意識をこの科目でブラッシュアップすることを意識して下さい。	
	個別	Excelの基本 (簡単な式の入力、グラフ作成等) を知らない方は、自習してください。また、できれば「ビジネスデータ分析入門(統計ソフト活用)」を受講しておくことを薦めます (必須ではない)。	

2016年度 大学院シラバス 開講学期：春学期

科目名 (和文)	ビジネスデータ活用実践(先端事例)		
科目名 (英文)	On a Frontier of Data Science for Business		
サブタイトル	ビジネスにおけるデータ活用の実践例と周辺知識		
カリキュラム群	ビジネスデータサイエンスコース/ビジネスデータ活用力		
担当教員	佐藤 洋行	メールアドレス	sato-h@tama.ac.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
<p>ビジネスデータの活用について実践例を学ぶことで、データ活用を通じたビジネス課題解決の実践力を高めるとともに、ビジネスデータ活用に必要な周辺知識を身につける</p>			
講義要旨			
<p>ビジネスの現場でデータ活用を実践する専門家の方による講義を行う。分野としては、データ活用のためのインフラ構築～分析～マーケティング施策実行まで、幅広く取扱うことを予定している。</p>			
講義概要全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分			
第1講	イントロダクション： ビジネスデータ活用の実際		
第2講	マーケティング分野でのビジネスデータ活用実践例 (1)		
第3講	ビジネスデータ活用のためのデータ収集実践例		
第4講	ビジネスデータ活用を支えるインフラ (データウェアハウス) 構築実践例		
第5講	ビジネスデータ活用における分析実践例 (1)		
第6講	ビジネスデータ活用における分析実践例 (2)		
第7講	マーケティング分野でのビジネスデータ活用実践例 (2)		
第8講	講義のまとめ		
教科書・指定図書・参考図書等			
参考図書等：会社を変える分析の力 (河本 薫, 講談社, 2013)、ビジネス活用事例で学ぶ データサイエンス入門 (酒巻隆治 and 里 洋平, SBクリエイティブ, 2014)			
評価方法	出席率/講義議論参加度/最終レポート 3点の総合評価		
履修留意事項	共通	招請する講師と講義内容は事前に告知するので、予習を行い、双方向コミュニケーションができる状態で講義に臨むこと。 講師の都合により順序や内容が変更になることがあるので、留意すること。	
	個別		

2016年度 大学院シラバス 開講学期：秋学期

科目名 (和文)	ビジネスデータ活用実践(事業提案)		
科目名 (英文)	Business Development using Data Science		
サブタイトル	データ活用を前提とした事業企画の初歩		
カリキュラム群	ビジネスデータサイエンスコース/ビジネスデータ活用力		
担当教員	佐藤 洋行	メールアドレス	sato-h@tama.ac.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
データ活用に必要な資源と、活用を推進するためのフレームワークを学ぶことで、を前提とした事業企画に必要な知識を一通り身に付ける			
講義要旨			
データ活用に必要な資源について、システムインフラ、組織および人材の各方面で必要な知識を学ぶ。同時に、データ活用プロジェクトの推進において有用と考えられるフレームワークを学ぶことで、事業の立ち上げ～運用までに必要な一通りの知識を身に付ける			
講義概要全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分			
第1講	イントロダクション： データ活用方法の分類による事業企画の基礎学習		
第2講	データ活用のためのシステムインフラⅠ データ収集		
第3講	データ活用のためのシステムインフラⅡ ツール/サービスの整理と事例紹介		
第4講	データ活用プロジェクト推進のためのフレームワーク		
第5講	データ活用のための人材		
第6講	データ活用のための組織		
第7講	データ活用プロジェクトの落とし穴		
第8講	講義のまとめ		
教科書・指定図書・参考図書等			
参考図書等：道具としてのビッグデータ (高橋範光, 日本実業出版社, 2015)、スクラム実践入門 (貝瀬岳志 他, 技術評論社, 2015)			
評価方法	出席率/講義議論参画度/最終レポート 3点の総合評価		
履修留意事項	共通	ビジネス応用面に充填を置くため、ある程度の基礎知識は身につけていることを前提に講義を進める。そのため、参考図書を始めとして、データ活用やアジャイルなプロジェクト進行に関する書籍に予め目を通しておくこと。	
	個別		

2016年度 大学院シラバス 開講学期：秋学期

科目名 (和文)	ビジネスデータ活用入門(DB)		
科目名 (英文)	Introduction to Business Data Acquisition and Management		
サブタイトル	データベースの構築とデータ蓄積		
カリキュラム群	ビジネスデータサイエンスコース/データマネジメント力		
担当教員	出原 至道	メールアドレス	idehara@tama.ac.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
データベースそのものの操作を SQL 言語でできるようになる。また、外部の整形されたデータソース、非整形テキストデータや、データ処理ソフトウェアと連携してデータを扱えるようになる。			
講義要旨			
多様なデータ処理の基本となるデータの保存・取出・修正・削除を行うためには、データベースの利用が不可欠な技術である。この基本となる SQL 言語を学ぶ。また、データソースとして、CSV 形式・JSON 形式などの整形データを扱えるようにする。さらに、ウェブスクレイピングをターゲットとして、Perl を用いた非整形データの処理を行う。最後に、蓄積されたデータを R 言語と連携して分析することを可能にする。 本講義の最終目標は、自動化されたデータ収集とそれに基づくデータ分析システムの構築を通して、各学生が、自身の研究に資するデータ処理能力を身につけることである。			
講義概要全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分			
第 1 講	ガイダンス・環境整備・テーブルの作成と単純な SQL 命令 キーワード：XAMPP、MySQL、CREATE TABLE、SELECT、INSERT、DELETE、UPDATE		
第 2 講	テーブルの正規化とリレーション キーワード：第 1～第 3 正規形、UNION、LEFT JOIN、USING		
第 3 講	整形データの読み込み キーワード：CSV、JSON、XML		
第 4 講	Perl を用いた非整形データの読み込み キーワード：ウェブスクレイピング、CSS、HTML、Perl		
第 5 講	ウェブスクレイピングの実際 キーワード：ウェブスクレイピング		
第 6 講	ウェブスクレイピング実践 キーワード：ウェブスクレイピング		
第 7 講	実データに基づく実習 キーワード：(とくになし)		
第 8 講	システムプレゼンテーション		
教科書・指定図書・参考図書等			
参考 URL IPA OSS 人材育成 OSS モデルカリキュラム「MySQL 入門」 http://www.ipa.go.jp/software/open/ossc/seika_1005_1.html Perl Module “Web Scraper” https://metacpan.org/release/Web-Scraper R Module “RMySQL” http://cran.r-project.org/web/packages/RMySQL/			
評価方法	出席・講義内課題：60点 最終レポート：40点		
履修留意事項	共通	《読む・書く＋聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論には積極的に参画すること	
	個別	コンピュータの持ち込みが必須である。対象となるプラットフォームは、Windows、MacOS、Fedora であるが、その他の Linux 系 OS も必要に応じて対応する。	

2016 年度 大学院シラバス 開講学期：春学期

科目名 (和文)	ビジネスデータ活用実践(BI)		
科目名 (英文)	Practice of Business Data Utilization		
サブタイトル	意思決定のためのデータ分析 (企業でデータ分析を駆使するためには)		
カリキュラム群	ビジネスデータサイエンスコース/データマネジメント力、実践知考具/顧客創造		
担当教員	佐藤 洋・萩原 雅之	メールアドレス	sato-y@tama.ac.jp hagihara-m@tama.ac.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
経営課題に対して、データ分析結果が経営戦略を決めることがあります。いわゆるデータドリブン経営のベースとなるデータマネジメントに関する基本的な考え方を学び、分析ツール等を使った一連のプロセスを体験します。ビジネスの現場で使われるデータと分析ツールを使い、課題設定、仮説構築から分析検証・提案まで一連のプロセスを実習形式で経験することで、受講者が各自のビジネス課題解決に役立つスキルの取得を目的とします。			
講義要旨			
データマネジメントに関する基本的な考え方を学んだ後、多くの企業で実際に使われている BI (Business Intelligence) のための分析ツール「tableau」を使って分析の演習に取り組み、発表とディスカッションを行ないます。演習で使用する BI ツール(tableau)を各自の PC に導入し、事前にある程度のツールの習得が必要です。tableau に関しては、tableau Japan のコンサルタントが講義と演習補助を行います。			
講義概要全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分			
第 1 講	① オリエンテーション ② 「データ分析の進め方と事例」 ③ tableau を中心とした BI ツールの事例		
第 2 講	① 「ビジネスにおけるデータマネジメントの考え方」 ②「マーケティング分野におけるデータ分析」 ③ tableau の利用方法と自習方法		
第 3 講	① tableau から見たデータ分析 ②tableau の仕組み ③サンプルデータを用いた演習		
第 4 講	① 演習で使用するデータの背景と分析方法 ② tableau を用いたデータ分析 (チーム演習)		
第 5 講	① tableau を用いたデータ分析 (チーム演習) 継続 ② 中間発表とディスカッション		
第 6 講	① tableau を用いたデータ分析 (チーム演習) 継続 ② 中間発表とディスカッション		
第 7 講	① tableau を用いたデータ分析 (チーム演習) 継続 ② 最終発表とディスカッション		
第 8 講	① 「データビジュアライゼーションによるインサイト創出」 ② まとめ		
教科書・指定図書・参考図書等			
参考図書等：Tableau オンライン教材、Stephen Few (2013) “Information Dashboard Design”			
評価方法	出席率/講義・演習での議論参加度/発表 3 点の総合評価		
履修留意事項	共通	各自 PC を持参 (Windows, MacOS) Tableau 最新バージョンをインストールします (無料ライセンス期間：2016/4/1～9/30)	
	個別	演習で利用する tableau については、演習前に操作ができるよう自習してください。自習方法については講義で説明します。習熟度により演習の進捗に差がでないようにするためです。	

2016 年度 大学院シラバス 開講学期：春学期

科目名 (和文)	ビジネスデータ分析入門(統計ソフト活用)		
科目名 (英文)	Introduction to business data analysis (Use of statistics software)		
サブタイトル	ビジネスデータ分析をする為の最低限のスキルを身につける		
カリキュラム群	ビジネスデータサイエンスコース/データ分析力		
担当教員	久保田 貴文	メールアドレス	kubota@tama.ac.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
ビジネスデータ分析するための最低限のスキルを身につける。統計ソフトウェアの中でも特にRを用いて入門的な内容と、それをデータ分析に活かす為の準備、そして実際の場面で必要な考え方を学ぶ。			
講義要旨			
R 言語を用いて、データのハンドリング、グラフの作成、レポートやプレゼンテーションの作成を学ぶ。さらに、後半では入門的な統計学の内容を特にビジネスに結びつけてその考え方を学ぶ。講義の中では Remdr を用いて解析する。			
講義概要全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分			
第 1 講	R 入門, パッケージのインストール, Remdr によるデータのインポート, 1 変数データの記述統計, さらにベクトルや行列の演算、並べ替え、データの読み込み・書き出し、さらに繰り返し処理等を学ぶ		
第 2 講	Remdr による 2 変数データの記述統計。さらにデータハンドリングすなわちデータの抽出、スタックマージ等を通じてデータ解析するためのデータクレンジングの方法を学ぶ。		
第 3 講	Remdr によるレポート作成。Remdr の機能を利用して R マークダウンによりレポートの作成を行う。さらに、動的な資料の作成へと展開する。		
第 4 講	質的データの適合度検定, カテゴリー間の関連性の検定		
第 5 講	効果を検証する: 検定 (平均値の差の検定, 比率の差の検定) や分散分析を R を用いて実行する。		
第 6 講	市場反応を分析する: R により相関分析や回帰分析などを行い関連性を分析する。		
第 7 講	効果を測定する: R により A/B テスト, ロジスティック回帰, 傾向スコア分析などを行い, 効果の測定を行う。		
第 8 講	演習: 第 1 講～第 7 講までの内容をふまえて, 課題を課す。		
教科書・指定図書・参考図書等			
特に指定しない。毎回資料を配布する。			
評価方法	出席率/講義議論参画度/最終レポート 3 点の総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く+聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので、議論には積極的に参画すること	
	個別	毎回 PC を用いての演習を含むため、必ず PC を持参すること	

2016年度 大学院シラバス 開講学期：秋学期

科目名 (和文)	ビジネスデータ分析 (機械学習)		
科目名 (英文)	Data Analysis for Business (Machine Learning)		
サブタイトル	ビジネス現場における機械学習の有用性を学ぶ		
カリキュラム群	ビジネスデータサイエンスコース/データ分析力		
担当教員	久保田 貴文	メールアドレス	kubota@tama.ac.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
ビジネスの現場で活用できる機械学習の手法について学びます。特に、ビッグデータの中からビジネスに役に立つルールや、意思決定の根拠となるエビデンスを発見するために、決定木分析・アソシエーション分析・ディープラーニング等を修得します。			
講義要旨			
本講義では (R および) Rcmdr を用いて、統計学のなかでも多変量解析につて、特に大容量のビジネスデータを機械学習により分析し、さまざまな知見を得る方法を学ぶ。機械学習には様々な手法があるが、この講義では特に、決定木、バスケット分析について注力する。			
講義概要全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分			
第 1 講	データ解析の概要：質的データ・量的データの解析について、分割表を利用した解析 (質×質)、平均の差の検定・分散分析 (質×量)、回帰分析 (量×量)、ロジスティック回帰分析・判別分析 (量×質) などについて一望して解説します。また、外的基準を持たないデータに対しての分析手法について、クラスター分析、主成分分析さらには、マーケットバスケット分析や自己組織化マップなどについても概要を解説します。		
第 2 講	回帰分析 (ページビューの予測)		
第 3 講	判別分析 (スパムフィルタ)		
第 4 講	決定木分析：第 2 講であつかった回帰分析、第 3 講であつかった判別分析について、回帰木・分類木を用いた決定木分析を行います。		
第 5 講	主成分分析 (株式市場の指標作成)、集団学習 (ランダムフォレストなど)、クラスター分析		
第 6 講	マーケットバスケット分析：アソシエーションルールを分析します。		
第 7 講	ソーシャルグラフの分析 (twitter データの分析)、自己組織化マップ		
第 8 講	演習：第 1 講～第 7 講までの内容をふまえて、課題を課す。		
教科書・指定図書・参考図書等			
特に指定しない。毎回資料を配布する。			
評価方法	出席率/講義議論参画度/最終レポート 3 点の総合評価		
履修留意事項	共通	《読む・書く+聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので、議論には積極的に参画すること	
	個別	毎回 PC を用いての演習を含むため、必ず PC を持参すること	

2016年度 大学院シラバス 開講学期：春学期

科目名 (和文)	ビジネスデータ分析 (Standard)		
科目名 (英文)	Introduction to Data Analysis for Business		
サブタイトル	多次元データ分析入門		
カリキュラム群	ビジネスデータサイエンスコース/データ分析力		
担当教員	今泉 忠	メールアドレス	imaizumi@tama.ac.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
データ分析の枠組みとしては探索型分析と仮説検証型の枠組みがある。この講義では、それらの基礎となる手法について講義して、ビジネスデータからの発見を通じたモデル構築とその検証について講義する。			
講義要旨			
「RStudio」を用いて、データからの関係性の発見やその確認のためにベースとなる手法について学びます。ベースとなる線形モデルについて学ぶ。特に、基本的な回帰分析と主成分分析とクラスター分析について講義する			
講義概要全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分			
第 1 講	統計分析ソフト RStudio:この講義で活用する RStudio の活用について、EXCEL からのデータ読み込みなどを通じて利用法を学修する		
第 2 講	データ行列の種類：データ行列として時系列データ形式と多次元データ形式について学び、そこからの関係性の探索的発見と確認的発見について学修する		
第 3 講	特性要因図の活用：モデル分析のために特性要因図を用いて表現し、それをデータでの検証することで、分析の流れについて学修する		
第 4 講	線形モデルの活用と残差のチェック I：モデル分析でベースとなる線形モデルにおいて原因系が量的変数である場合について、実際のデータへの適用を通じて学修する		
第 5 講	線形モデルの活用と残差のチェック II：原因系が質的変数である場合について、実際のデータへの適用を通じて学修する		
第 6 講	データの次元縮約の手法としての主成分分析について学修する		
第 7 講	データの分類としてのクラスター分析について学修する		
第 8 講	モデル分析の発表会：第 3 講から第 7 講までに作成した結果をもとにしたモデル分析に関する発表会を行なう。		
教科書・指定図書・参考図書等			
指定図書：日本統計学会編「『改訂版』統計学基礎」、東京図書、山本義郎、藤野友和、久保田貴文「R によるデータマイニング入門」			
評価方法	出席率:講義議論参加度：最終レポート=30:40:30 3点の総合評価		
履修留意事項	共通	必ずしも数学・統計学の知識は前提としない。ただし、P C 演習(ExcelとRStudio) を行うので、最低限のP C 利用スキルは前提とする。なお、P C は各自持参してください。	
	個別		

2016年度 大学院シラバス 開講学期：秋学期

科目名 (和文)	ビジネスデータ分析 (Advance)		
サブタイトル	多次元データ分析		
科目名 (英文)	MultiDimensional Data Analysis for		
カリキュラム群	ビジネスデータサイエンスコース/データ分析力		
担当教員	今泉 忠	メールアドレス	imaizumi@tama.ac.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
<p>データ分析の枠組みとしては探索型分析と仮説検証型の枠組みがある。この講義では、それらの基礎となる手法について講義して、ビジネスデータからの発見を通じたモデル構築とその検証について講義する。</p>			
講義要旨			
<p>「RStudio」を用いて、データからの関係性の発見やその確認の手法について学ぶ。線形モデルについて学ぶ。特に、ロジスティック回帰と因子分析などの潜在変数分析などについて講義する。</p>			
講義概要全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分			
第 1 講	統計分析ソフト RStudio:この講義で活用する RStudio の活用について、EXCEL からのデータ読み込みなどを通じて利用法を学修する		
第 2 講	応答変数が質的変数である場合に適用されるロジスティック回帰について学修する。		
第 3 講	応答変数が質的変数である場合に適用される判別分析について学修する		
第 4 講	応答変数が質的変数である場合に適用される決定木について学修する		
第 5 講	潜在変数を想定するモデルの一つである因子分析について学修する		
第 6 講	コレスポンデンス分析について学修する		
第 7 講	応答変数と説明変数ともに潜在変数である潜在変数モデルについて学修する		
第 8 講	レポート作成		
教科書・指定図書・参考図書等			
指定図書：日本統計学会編「『改訂版』統計学基礎」、東京図書、山本義郎、藤野友和、久保田貴文「R によるデータマイニング入門」			
評価方法	出席率:講義議論参画度:最終レポート=30:40:30 3点の総合評価		
履修留意事項	共通	必ずしも数学・統計学の知識は前提としない。ただし、P C演習(ExcelとRStudio)を行うので、最低限のP C利用スキルは前提とする。なお、P Cは各自持参してください。	
	個別		

2016年度 大学院シラバス 開講学期：春学期

科目名 (和文)	集中ゼミ (統計検定)		
科目名 (英文)	Introduction to Statistics		
サブタイトル	データの分析		
カリキュラム群	ビジネスデータサイエンスコース/演習		
担当教員	今泉 忠	メールアドレス	imaizumi@tama.ac.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
ビジネスでのデータサイエンスにおいては、適切な統計的処理を必須である。そのための基礎となるデータの分析に関する統計活用力を修得する。			
講義要旨			
以下の3項目について講義する (1) 基本的な用語や概念の定義を問う問題 (統計リテラシー) (2) 用語の基礎的な解釈や2つ以上の用語や概念の関連性を問う問題 (統計的推論) (3) 具体的な文脈に基づいて統計の活用を問う問題 (統計的思考)			
講義概要全8講 第1講~第7講は各180分 第8講は90分			
第1講	標本調査(母集団, 標本, 全数調査, 無作為抽出, 標本の大きさ, 乱数)		
第2講	データの散らばりのグラフ表現 (ヒストグラム, 箱ひげ図, 折れ線グラフ, 幹葉図)		
第3講	データの特徴量 (中央値, 平均値, 最頻値)		
第4講	データの散らばりの指標 (四分位数, 四分位範囲 (四分位偏差))		
第5講	データの散らばりの指標 (標準偏差, 分散)		
第6講	2変数の相関 (相関, 散布図 (相関図), 相関係数)		
第7講	確率 (独立な試行)		
第8講	確率 (条件付き確率)		
教科書・指定図書・参考図書等			
教科書: 日本統計学会編 統計検定3級対応「データの分析」東京図書、その他			
評価方法	出席率:講義議論参加度:最終レポート=30:40:30 3点の総合評価		
履修留意事項	共通	PCにより演習も行う	
	個別		

2016年度 大学院シラバス 開講学期：秋学期

科目名 (和文)	DSB ゼミ (データコンペティション)		
科目名 (英文)	Intensive Seminar for Data Presentation		
サブタイトル	データプレゼンテーション実践ゼミ		
カリキュラム群	ビジネスデータサイエンスコース/演習		
担当教員	今泉 忠・久保田 貴文	メールアドレス	imaizumi@tama.ac.jp kubota@tama.ac.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
データプレゼンテーション技法をもとに、課題設定、分析目標設定、提案までの行えるデータプレゼンテーション力を修得する			
講義要旨			
データに基づいて実際の課題解決を行える力を修得するために、(1) データコンペティションに参加して、そこで、外部から提供されるビッグデータをもとに、(2) データプレゼンテーション技法をもとに、課題設定から課題解決を行い、(3) 外部発表会での発表を通じて、データプレゼンテーション力を高める。 形式は集中形式で2講ずつ、4回行う予定である。			
講義概要全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分			
第1講	外部データの説明		
第2講	課題設定		
第3講	データからの事実確認		
第4講	設定した課題を達成するためのモデル作成		
第5講	作成モデルの妥当性検討		
第6講	中間発表用資料作成		
第7講	モデル評価と改善		
第8講	最終モデルとデータプレゼンテーション枠組みで報告書作成		
教科書・指定図書・参考図書等			
評価方法	出席率/演習参画度/最終レポート 3点の総合評価		
履修留意事項	共通	課題設定などへの積極的な参加が重要である	
	個別		

2016年度 大学院シラバス 開講学期：春学期

科目名 (和文)	論文指導 I		
科目名 (英文)	How to write the master thesis I		
サブタイトル			
カリキュラム群	ビジネスデータサイエンスコース／演習		
担当教員	今泉 忠・豊田 裕貴		imaizumi@tama.ac.jp toyoda@tama.ac.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
<p>ビジネスの現場での課題を発見し，解決のためのモデル（方法論）とその解決案を論文としてまとめられるようになる。</p>			
<p>論文作成のための，論理構造が明確になる．仮説を立て，実際のデータをもとに検証できる． 各回 1人 1時間程度の時間を用いて，課題について提案，質疑する．</p>			
講義概要全 8 講 第 1 講～第 7 講は各 180 分 第 8 講は 90 分			
第 1 講	論文進捗状況について		
第 2 講	課題からの仮説構築とモデル構築と分析（2～3名の院生）		
第 3 講	課題からの仮説構築とモデル構築と分析（2～3名の院生）		
第 4 講	分析結果をもとにした提案，論文 Draft 作成		
第 5 講	モ分析結果をもとにした提案，論文 Draft 作成		
第 6 講	論文の構成検討		
第 7 講	論文の構成検討		
第 8 講	整理		
教科書・指定図書・参考図書等			
評価方法	出席率および講義議論参加：演習成果および報告＝50:50		
履修留意事項	共通		
	個別		

2016年度 大学院シラバス 開講学期：秋学期

科目名 (和文)	論文指導 II		
科目名 (英文)	How to write the master thesis II		
サブタイトル	How to write the master thesis		
カリキュラム群	ビジネスデータサイエンスコース／演習		
担当教員	久保田 貴文・豊田 裕貴	メールアドレス	kubota@tama.ac.jp toyoda@tama.ac.jp
講義目的 (学修の到達目標)			
ビジネスの現場での課題を発見し、解決のためのモデル (方法論) とその実施案を論文としてまとめられるようになる。			
講義要旨			
論文作成のための、論理構造が明確になる。仮説を立て、実際のデータをもとに検証できる。 各回1人1時間程度の時間を用いて、課題について提案、質疑する。			
講義概要全8講 第1講～第7講は各180分 第8講は90分			
第1講	論文進捗状況について		
第2講	課題からの仮説構築とモデル構築と分析 (2～3名の院生)		
第3講	課題からの仮説構築とモデル構築と分析 (2～3名の院生)		
第4講	分析結果をもとにした提案, 論文 Draft 作成		
第5講	モ分析結果をもとにした提案, 論文 Draft 作成		
第6講	論文の構成検討		
第7講	論文の構成検討		
第8講	整理		
教科書・指定図書・参考図書等			
評価方法	出席率および講義議論参加：演習成果および報告＝50:50		
履修留意事項	共通		
	個別		